

養生所/(長崎)医学校等遺跡の形成の経緯の概略と私達の調査による推測

2017年(平成29年)9月7日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

江戸末期、一面畑地であった佐古の丘に文久元年七月一日(1861年8月6日)養生所(病院、医学所)が建設竣工し、[私達は、複数の古写真や平面図の比較より、以来、明治期に施設が浦上山里村に移転されるまで、一貫して、漸次、周辺隣接斜面地に用地が手当てされて敷地が拡張され、切土と盛土によって土木造成されて平面や斜面が形成され、土羽が形成され又は必要に応じて丸太組や石垣等の土留が築造され、用地や道路が形成されゆく、と観察し]、慶應元年四月上旬(六日から十日までの間、1865年)長崎奉行が精得館と改称して分析究理所を慶應元年八月十七日(1865年10月6日)新築竣工して慶應元年十月十二日(1865年11月29日)附属(医学所、病院、分析究理所)、明治の御一新を迎えて明治政府の下に長崎では長崎府が成立して、明治元年十月十七日(1868年11月30日)長崎府医学校(及び病院)と改称され、政府は日本の教育とその行政を司る為に明治二年六月十五日(1869年7月23日)大学校の規則を制定し(大学校及び分局(開成学校、兵学校、医学校))、明治二年六月(1869年)長崎県が成立して明治二年七月九日(1869年8月16日)の後に長崎県病院兼医学校と改称され、明治二年八月五日(1869年9月10日)政府は大学校を開学、明治二年十二月十四日(1870年1月26日)政府は大学校を大学と改称し(大学、医学校を大学東校、開成学校を大学南校と改称)、明治三年二月二十八日(1870年3月29日)長崎県病院兼医学校は大学の所轄となり、明治三年七月十二日(1870年8月8日)政府は大学本校を停止、明治三年十月(1870年)英医ニュートンが旧大徳寺庫裏に梅毒病院を創設、明治四年三月二十日(1871年5月9日)英医ニュートンの旧大徳寺庫裏の梅毒病院を一時閉鎖、明治四年六月十六日(1871年8月2日)英医ニュートンは今村盛吉、西田武良治宅を借用して梅毒罹患遊女の治療を始め、明治四年七月十八日(1871年9月2日)政府は大学を廃して文部省を設置し(後、大学東校を東校、大学南校を南校と改称)、明治四年九月二十五日(1871年11月7日)政府は東校と南校を改革の為に一時閉鎖、明治四年十月(1871年)政府は東校と南校を再開、明治四年十一月十四日(1871年12月25日)長崎県病院兼医学校は文部省の管轄となり、明治四年十二月(1872年)長崎医学校と改称、長崎県病院兼医学校(長崎医学校)は、以後、面目を一新し大いに体裁を整えるようになったと云い、[私達は、複数の古写真や平面図や文献資料の比較より、この前後に、養生所以来の病院の西面の旧冠木門周辺の付帯建物が改築され、構内の旧医学所の北に隣接する下段に上段の若干の切土加工を伴って新しい二つ目の寄宿舍が、西の隣接地には新たに造成してオランダ人教師ヘールツの寄棟屋根平屋建テラス付洋館である住居とその薬草園である庭園(ヘールツ・ハウス)が建設され、治療の必要からや病院や寄宿生の賄い等、病院と医学校の運営の為に、菜園や果樹園や体操場等の施設が整えられ、隣接する旧大徳寺の庫裏で英医によって梅毒病院が設営された後、大徳寺跡と梅香崎天満宮と大楠及び大楠神社一帯は、オランダ人 Escher 達に schoolgarden と呼ばれて親しまれ、以降、順次、土地を造成して、長崎医学校の第一代の正門や正門付近の石垣や学務所や三つ目の寄宿舍や食堂や便所や物置等の付帯施設、明確な構造を伴った建物敷地の外周の中央部に敷石を敷設した道路や階段と踊場と通用門柱等が整備された、と推測し]、明治五年八月三日(1872年9月5日)文部省は学制を頒布して八大学区及び大学本部の制を敷き、明治五年八月十八日(1872年10月10日)長崎医学校を第六大学区鑿学校とし、明治6年(1873年)3月英医ニュートンは今村盛吉、西

田武良治宅を借用して行う梅毒罹患遊女の治療を終了、明治6年(1873年)4月10日七大学区大学本部の制に改め第六大学区醫学校を第五大学区醫学校とし、明治7年(1874年)5月第五大学区醫学校を長崎医学校と改め、明治7年(1874年)4月4日台湾征討軍が起こされる(征台の役が起る:長崎は兵站基地となる)、明治7年(1874年)4月22日蕃地事務局(征討本部:支局長大隈重信、都督西郷従道)を西浜町の薩摩藩邸跡に設置、明治7年(1874年)5月17日西郷従道等は長崎を出発、明治7年(1874年)5月22日西郷従道等は台湾に上陸、明治7年(1874年)8月21日台風の原因が長崎を通過し県庁舎は風速60mの暴風により全壊諏訪神社の青銅の大鳥居も倒壊して被害甚大、明治7年(1874年)10月12日長崎医学校を廃止、明治7年(1874年)10月30日日清両国間互換条約調印(台湾問題)、明治7年10月(1874年)英アジア艦隊一等軍医ヒールを監督として寄合町千歳屋を修繕し開院(梅毒病院)、明治7年(1874年)11月3日台湾派遣軍隊撤去の勅命下る、明治7年(1874年)11月7日旧長崎医学校を蕃地事務局病院(公兵員病院)と成し、明治7年(1874年)12月3日台湾征討軍撤兵開始、明治8年(1875年)4月31日長崎蕃地事務局病院が長崎県の所轄に帰し長崎病院となり、明治8年(1875年)英アジア艦隊一等軍医ヒール監督の寄合町千歳屋の医院を閉院(梅毒病院)、明治8年(1875年)長崎病院の寄宿舎を梅毒病院として開院(英医ヒール)、長崎県の下に長崎病院に医学(教)場を設置して明治9年(1876年)6月20日長崎病院医学場を開場し、明治10年(1877年)1月30日西南の役勃発、久留米に征討軍団病院が設営、明治10年(1877年)3月長崎に傷病兵が輸送され、征討軍団病院が長崎にも展開され、長崎病院は警視病院の本院に当てられ、長崎病院は再度兵員病院として運用され、明治10年(1877年)3月29日第一分派長崎病院が大音寺に置かれ、明治10年(1877年)4月12日東京大学設立(文部省管轄:法、文、理、医の四学部)、長崎病院は、広運館に、第三分派長崎病院を正覚寺に、第四分派長崎病院をバラックを建設して分派病院を展開、明治10年(1877年)6月軍団病院は市中の軍団病院に二分室を設け賊軍に分与し以って博愛社(後に日本赤十字社)の初めての病院が運営され、明治10年(1877年)7月22日戦時仮病院及び第一乃至第四分派病院の全部が警視病院と改称され、明治10年(1877年)9月13日新撰旅団司令官小松宮彰仁親王博愛社総長に就任、博愛社は新たに長崎に社員を派遣し軍団病院第十一副舎を負担し、明治10年(1877年)9月24日西郷隆盛が自刃(西南戦争が終結)、明治10年(1877年)10月16日長崎軍団病院が廃止され臨時長崎病院が置かれて残務処理を行い、明治10年(1877年)10月31日博愛社の一団が長崎病院から完全に引揚げ、明治10年10月(1877年)長崎病院の寄宿舎の梅毒病院を閉院(英医ヒール)、明治10年10月(1877年)英医ヒールが寄合町の仮病院を開院(梅毒病院)、[私達は、複数の古写真や平面図の比較より、この前後までに、長崎医学校の第一代の正門や正門付近の石垣や学務所や三つ目の寄宿舎や食堂や便所や物置等の付帯施設、明確な構造を伴った建物敷地の外周の中央部に敷石を敷設した道路や階段と踊場と通用門柱等が整備された、と推測し]、[私達は、複数の写真と平面図の比較より、この前後に、三つ目の寄宿舎を解体して直角に接続した二棟の寄宿舎を新築(移築か)、二つ目の寄宿舎を解体、旧医学所(一つ目の寄宿舎を含む)を解体して旧医学所の土地を一面にやや切土してその西方の下り斜面に盛土して平面を造成して旧分析究理所建築平面の南に隣接して新しい体操場とその南部に位置する東西方向の道路を形成した、と推測し、また、医学校敷地部分の東北角に位置する白い築地塀に囲まれた敷地に建つ寄棟屋根の二階建洋館は、外国人教師の為の宿舎か住宅である可能性がある、と推測し、又、病院敷地部分の南

北両病棟中庭の東部の付帯建物の屋根に換気の為か屋根より一段高い小屋根が設けられている、と観察し]、明治11年(1878年)1月8日長崎病院医学場を長崎醫学校と改称、明治11年4月(1878年) 寄合町の仮病院(梅毒病院)浪ノ平分院設置、明治11年5月(1878年)寄合町の仮病院(梅毒病院)に英医ローレンソン監督として着任、明治11年9月(1878)寄合町の仮病院(梅毒病院)を長崎梅毒病院と呼称、明治12年(1879年)1月20日長崎醫学校を県立とし、明治12年(1879年)8月長崎病院が旧大徳寺庫裏一帯に於いて新築竣工して旧養生所の病院の建物から移転するも敷地内の旧墳墓地の軍人遺骨の取扱の問題が生起して遺骨搜索を余儀なくされる事態となり、明治12年(1879年)寄合町の長崎梅毒病院(仮病院)は英医の監督を廃止、明治14年(1881年)7月6日東京大学は機構改革し(単一の総理となる)、明治14年8月(1881年)寄合町の長崎梅毒病院(仮病院)を廃止、明治14年8月(1881年)寄合町の長崎梅毒病院(仮病院)浪ノ平分院を廃止、明治14年(1881年)8月旧長崎病院の改築工事が竣工し長崎病院附属梅毒病院となり、[私達は、複数の古写真の比較より、『長崎梅毒病院図面』が実施されず、旧養生所の病院施設のうち、旧冠木門周辺の付帯建物及び南北二棟の二階建病棟を中央部で接続する建屋が解体撤去され、南二階建病棟が平屋に改築され、北二階建病棟及び南北病棟の中庭の東部の付帯建物及び北病棟と南病棟の便所はそのまま使用され、他に大幅な新築を実施することなく、梅毒病院として運営された可能性がある、と推測し]、明治14年8月(1881年)浪ノ平に検梅所を新設、明治14年8月(1881年)丸山に検梅所を新設、明治15年(1882年)3月梅毒病院が長崎病院の附属を離れ、長崎醫学校は、再整備されて、明治15年(1882年)5月27日甲種長崎医学校となり、[私達は、複数の平面図や古写真の比較より、この前後に、長崎医学校の第二代の正門、寄棟屋根二階建テラスとバルコニー付洋館の二階を講堂とする講堂棟、暗室を附属する第七教場と生理実験室と物理器械室の建物が建設され、旧ヘルツ・ハウスを第五教場と第六教場に転用したと、推測し]、明治16年(1883年)～明治17年(1884年)長崎病院が旧大徳寺庫裏一帯に軍人遺骨の搜索により二度の解体と建築を経た後に開院、明治19年(1886年)3月1日帝国大学令制定、東京大学は帝国大学へ改組し帝国大学と改称、明治19年(1886年)戸町検梅所を設置(長崎梅毒病院が戸町梅毒病院を合併)、明治20年(1887年)4月15日熊本に第五高等中学校が置かれ、明治20年(1887年)8月27日第五高等中学校医学部を長崎に設置することが決定され、長崎では第五高等中学校医学部の設置場所を浦上山里村に決定し、明治21年(1888年)4月1日佐古の旧長崎医学校に第五高等中学校医学部を開設して明治21年(1888年)4月10日第五高等中学校医学部開校式を仮に挙行し、明治22年(1889年)頃 當区新橋町なる長崎梅毒病院云々と記事(明治22. 1. 5、新聞記事、鎮西日報か)、明治22年(1889年)4月梅毒病院の改築工事が竣工し長崎梅毒病院と改称して開院(15日頃に開院を予定)、[私達は、複数の古写真や平面図の比較より、第五高等中学校医学部について、甲種医学校当時の図面と比較して北の寄宿舍建物と第二代の長崎医学校の正門の間に付帯建物が新築されているほか、甲種医学校初期の建物がそのまま使用されている、第五高等中学校医学部は浦上山里村へ設置が決定しており佐古の施設での開校は仮であった為浦上山里村に移転するまでその施設に大きな変更はなされなかったと推測し、長崎梅毒病院については、『長崎梅毒病院図面』が実施されず、前回の改築以降、病院建物建築平面とその敷地区画が西側拡張され、旧養生所の北二階建病棟が平屋に改築され、南病棟の西端が短縮改築され、南北二棟の病室は部屋に切妻屋根がかけられ両棟の中庭側の廊下に庇がかけられ南病棟東端にそのまま

便所があり北病棟東端に便所はないと観察し、北病棟西端に便所が新設された可能性があり、北棟と南棟の中庭にかかってその西部に寄棟屋根平屋建の洋館である推測するに病院本館が新築され、南北両病棟中庭の東部の付帯建物は屋根より一段高い小屋根は撤去されているがその他そのまま使用され、但し、東北隅の付帯建物は解体撤去されており、病院の建物建築平面の東北隅の法面には傾斜の急な階段と連続して建物建築平面に門扉が建設されている、と推測し]、明治24年(1891年)9月11日第五高等中学校医学部を浦上山里村に移転し、佐古の旧長崎医学校施設即ち旧長崎医学校の敷地と旧長崎医学校の二階建洋館の講堂棟の建物と旧精得館の分析究理所の建物の二棟の建物を以って臨床講義の為の分教場とし、明治27年(1894年)9月11日第五高等中学校医学部を第五高等学校医学部と改称、明治30年(1897年)6月京都帝国大学創設(これにより帝国大学を東京帝国大学と改称)、明治30年(1897年)12月8日長崎梅毒病院が長崎駆梅院と改称(治療を主とする)、明治32年(1899年)3月25日長崎駆梅院を長崎県立駆梅院と改称、明治34年(1901年)3月31日第五高等学校医学部を長崎医学専門学校と改称、明治34年(1901年)6月28日長崎県立駆梅院を県立長崎娼妓病院と改称、明治35年(1902年)4月長崎病院が長崎県西彼杵郡浦上山里村に新築竣工して開院、

明治36年(1903年)4月京都帝国大学福岡医科大学開設、

明治39年(1906年)6月1日(長崎市佐古尋常高等小学校)長崎市佐古尋常高等小学校が医学校分教場跡地に開校(長崎市佐古尋常高等小学校は旧第五高等学校の分教場の敷地と長崎医学校の二階建洋館の講堂棟の建物と精得館の分析究理所の建物の二棟の建物を継承し活用して開校する、長崎娼妓病院は旧病院の地に継続)、明治40年(1907年)9月30日(長崎市佐古尋常高等小学校)増築二階建校舍1棟6教室及び便所約8坪落成、明治42年(1909年)9月30日(長崎市佐古尋常高等小学校)増築二階建校舍5教室落成、

明治44年(1911年)1月九州帝国大学設置、

明治45年3月[私達は、古写真『第二回尋常科高等科卒業生』と古写真『西洋醫學発祥地遺跡(現長崎保健組合小島病院)』(昭和11年長崎県史蹟名勝天然記念物第八輯)と他の古写真と長崎市の発掘の状況の比較より、当時、県立長崎娼妓病院について、平屋に改築した北病棟が寄棟屋根に改築されて残存し、北病棟の北面に窓がなく、平屋に改築して西部を短縮した南病棟を解体し、南北両病棟の中庭の中央部から解体した南病棟付近にかけて、新しく寄棟屋根の二階建洋館が建築されており(病棟か)、この頃には、病院建物の敷地を西側に拡張して病院建物敷地区画外の近傍西南に位置した井戸を病院建物敷地区画内に取り込んでいる可能性がある、周辺一帯が住宅地となったことに対応して区画内に取り込んだか、と推測し]

大正7年(1918年)4月1日県立長崎娼妓病院を県立小島病院と改称、

大正8年(1919年)4月5日(長崎市佐古尋常高等小学校)2教室増築落成、大正13年(1924年)8月11日(長崎市佐古尋常高等小学校)本校西方隣接地305坪余を購入し校地拡張、大正14年(1925年)3月31日(長崎市佐古尋常高等小学校)鉄筋コンクリート三階建増築校舍竣工(建坪286坪余)、大正14年(1925年)7月20日(長崎市佐古尋常高等小学校)長崎医科大学所有の校地1572坪購入、大正14年(1925年)10月29日(長崎市佐古尋常高等小学校)長崎医科大学所有の校舍二階建1棟を返還移転、

大正14年(1925年)12月25日(長崎市佐古尋常高等小学校)高低二段の運動場の改

修工事竣工し面目一新、昭和6年(1931年)5月21日(長崎市佐古尋常高等)増築校舎(206坪その他水洗便所1棟)し、理科、手工、音楽、裁縫図画家事の特別教室新設し25周年記念式並びに落成式挙行、昭和8年(1935年)9月20日[私達は、『長崎談叢第十四輯昭和八年九月二十日発行』口絵「西洋醫學發祥地旧構」と長崎市の平成28年度の発掘調査の状況より、当該旧構図及び林郁彦氏執筆の本文記事において小島病院の建物敷地の東部が養生所の病院建設の後に拡張されているとしていることについて、当該筆者等が、長崎市の平成28年度の発掘調査で検出された当該敷地の東北部の敷地内側の南北方向の東面した石垣について、存知していたことによる可能性がある、と推測し]、[私達は、複数の古写真の比較より、大正11年(1922年)3月から昭和10年(1935年)3月までに旧分析究理所敷地北面石垣法尻付近の長崎市佐古尋常高等小学校運動場中央部を50cm程度切土して平坦に造成し当該法尻下部にコンクリートを施工している、と観察し]、

昭和11年(1936年)現在長崎保健組合小島病院であり、[私達は、写真『西洋醫學發祥地遺跡(現長崎保健組合小島病院)』(昭和11年長崎県史蹟名勝天然記念物第八輯)と他の古写真と長崎市の発掘の状況の比較より、当時、長崎保健組合小島病院について、平屋に改築した北病棟の西部が短縮されているか解体撤去されて残存するか跡に新しく建物が建設されており、寄棟屋根平屋建の洋館(病院本館か)が残存、南北両病棟の中庭の中央部から解体した南病棟付近にかけての寄棟屋根の二階建洋館(病棟か)が残存、病院建物敷地の西部の一段低い一帯が最も最近に拡張された建物敷地区画であり、病院建物敷地区画外の近傍西南に位置した井戸を当該区画内に取り込んでいる、と推測し]

昭和12年(1937年)から昭和13年(1938年)東方臨接民有地二ヶ所を学校用地として長崎市に所有者移転(旧土地台帳)、昭和13年(1938年)1月5日(長崎市佐古尋常高等小学校)運動場拡張工事完了(317坪)、昭和16年(1941年)4月1日長崎市佐古尋常高等小学校を長崎市佐古国民学校と改称、

昭和22年(1947年)4月1日長崎市佐古国民学校を長崎市立佐古小学校と改称、

昭和25年(1950年)6月20日精得館の分析究理所の建物の解体工事に着手(精得館の分析究理所の建物は、当時、職員室として使用されていました)、

昭和25年(1950年)10月5日(長崎市立佐古小学校)運動場拡張工事完工、

昭和28年(1953年)5月13日(長崎市立佐古小学校)旧小島病院の敷地の長崎市への払下げが確定(旧小島病院の敷地は長崎市立佐古小学校の敷地となり建物は、南校舎と呼称)、

昭和30年(1955年)3月8日(長崎市立佐古小学校)南校舎解体作業開始、

昭和32年(1957年)3月1日(長崎市立佐古小学校)南校舎の敷地に鉄筋二階建校舎(6教室及び講堂)落成、落成式並びに創立50年式典挙行、

昭和45年(1970年)1月22日(長崎市立佐古小学校)木造校舎中央部(職員室、校長室、保健室、放送室、給食室、普通教室5)の解体、

昭和46年(1971年)3月31日(長崎市立佐古小学校)改装工事コンクリート二階建(職員室、校長室、保健室、放送室、普通教室3)完了、

昭和48年(1973年)8月21日(長崎市立佐古小学校)木造校舎2教室取り壊し、校舎改築工事開始、

昭和49年(1974年)3月30日(長崎市立佐古小学校)鉄筋コンクリート校舎竣工(普通教室9、家庭科室、理科室、音楽室、地階くつ置場)、

昭和50年(1975年)8月27日(長崎市立佐古小学校)校舎解体作業始まる(旧木造校舎1棟、旧鉄筋校舎)、

昭和52年(1977年)4月25日(長崎市立佐古小学校)プール建設工事着工、

昭和52年(1977年)7月29日(長崎市立佐古小学校)プール完成、昭和52年(1977年)9月7日

(長崎市立佐古小学校)プール落成式、平成元年(1989年)3月31日(長崎市立佐古小学校)運動場道路取付工事完成 ✕

長崎市の養生所/(長崎)医学校等遺跡の取扱いと

長崎市立仁田佐古小学校建設及び外周道路拡幅建設の推進の概略

2017年(平成29年)10月29日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

長崎市は、当該遺跡の地である佐古小学校と250mの近隣の仁田小学校の新設統合等による小学校建設の用地選定にあたり、江戸期と明治期の築造と推測できる敷地外周の石垣群が現存し、長崎日々新聞の記事で昭和8年に長崎県より文部省へ「西洋醫學の發祥地」小島病院を文部大臣宛史蹟指定申請した(結果不明)ことが周知されている。2010年2月より地元自治会及びPTA関係者に第二次適正配置計画の説明を開始、2011年8月19日[平成23年度第1回長崎市小中学校適正配置検討会議]を開催(【議題】佐古小・仁田小統合計画について(案)【会議の趣旨】第1案・佐古小に新設校を設置する案、第2案・仁田小に新設校を設置する案、を提示し、市としては第1案をもって地元との協議に臨んでいくことについて、庁内関係部局への周知及び意見等を伺った。○主要内容・平成14年頃仁田小校舎とグラウンドとの間の市道を拡幅してほしいとの要望があったが地権者の反対でストップしたことがある。バスを通してほしいという声もあった。敷地の使い勝手から言えば佐古小の方だろう(本田土木部長)・佐古小に新設校を設置する方がいい。仁田小跡地は道路拡幅のための移転交渉の代替地や公共用地としても使える(御所建築部長)・一例えば仁田小の耐震補強はH25～26の計画であるが地元から耐震化工事を要望される可能性もある。二重投資にならないように一定整理しておく必要があるだろう(溝田総務部長)・佐古小に設置するとすれば、星取町からの1年生にとっては負担が大きい。バス利用や通学路の安全について考える必要があるのではないか(小田総合企画室長)・統廃合を進めるにあたっては、学校区域の変更も視野に入れて検討していく必要があると考えている(馬場教育長)・学校は地域コミュニティの核である。地元は学校環境や生活環境を良くしてほしいと考えている。通学環境は今以上に良くしていかないとけない。地元とは、まちづくりの視点で話していく必要がある(佐藤都市計画部長)・新築か改築か、道路の問題等、タイミングがある。また、仁田小ではだめなのかという反対意見も想定して対応を考えておく必要がある(三藤副市長)○結果・今後地元へは2つの案を提示したうえで、市としては第1案をもって地元との協議に臨むことで委員の了解を得た。《今後の検討課題》・統合校が、仁田小に建設できない理由の整理。・バス通学の検討(現状4キロ以上の縛りあり。)、2011年11月18日[第1回佐古小学校・仁田小学校合同説明会]を開催して以降保護者に説明又保護者アンケートをとり関係者への結果報告又関係者と意見交換を行い、2013年6月23日[第2回佐古小学校・仁田小学校合同説明会]を開催、2013年8月27日[第1回佐古小学校・仁田小学校統廃合地域懇話会]を開始、2014年3月13日[第1回佐古小学校・仁田小学校統廃合検討協議会]を開始して、学校建設とその付帯事項としての佐古小地区への普通車にとって唯一の進入路の通学路の安全及び工事車両の進入に対する拡張や佐古小外周道路拡張や校区内星取町方面への公共交通の導入などを協議するなか、養生所等/長崎医学校等遺跡(佐古小校地とその外周道路一帯:養生所医学校等敷地とこれに由来する外縁構内道路:を中核区域とする)については“跡地”としての認識のみで“遺跡”としての認識に至らず、2014年11月13日[第4回佐古小学校・仁田小学校統廃合検討協議会]にて小学校建設の用地を当該遺跡地である佐古小学校(当時)に決定、2015年3月23日市教育委員会(施設課)が『埋蔵文化財事前審査願』を发出、4月1日～9日市文化財課が養生所の病院敷地を試掘調査、4月15日市文化財課が県教育

長に“遺跡発見”を通知、5月15日長崎市長が伺により新設校設置場所について「現在の佐古小学校敷地に新校舎を建設する」と決済、5月18日長崎市と長崎県は養生所の病院敷地一帯を「周知の埋蔵文化財包蔵地」に決定、以降、2015年8月17日～10月23日に市文化財課が養生所等の病院敷地一帯西部を発掘調査して江戸期から現代までの遺構を検出、この間、10月20日に市文化財課が現地説明会を開催、以降、長崎大学や私達より遺跡保存の要望が表わされ、一方、市文化財課は2015年の5か所の試掘調査の結果「既存の校舎建設時において大規模な土地削平がなされており養生所の医学所や精得館の分析究理所の遺構は残存していない可能性が高いことが判明した。よって、念のため旧校舎解体時および新校舎建設時に工事立会で対応する予定とする」とし、2016年1月20日〔都市経営会議：小島養生所跡遺構等の取扱いについて〕を開催（【結果】学校建設はこれまでどおり進めながら、まずは記録保存を行う。露出保存については、平成28年度に実施を予定している既存体育館下の埋蔵文化財本調査終了後に遺構の評価を行って、その結果を踏まえて検討する。【意見等】○露出保存を前提にしているが、その必要性を判断できるだけの根拠が示されていない。/○この遺構がどういう価値があるのかわからない中で、学校建設を優先するか、小島養生所跡の遺構を優先するかと言われても判断のしようがない。/○露出保存はできるということだが、それをすべきかどうかは別問題である。/○今後の発掘調査で重要なものが出てきた場合には、国指定史跡になる可能性があるということか⇒可能性はゼロではないと思う。○その場合に、国指定史跡の上に学校を建設すること自体は問題ないのか⇒遺構に影響を与えない範囲で建設される場合は問題ないと考えている⇒基礎等の掘削をしないといけないので、国指定史跡の上に建物を建てる場合はある程度壊すという前提でないと建設はできないと思う⇒ただし、現時点では、国指定史跡になる確率はかなり低いと考えている。/○評価に関してだが、遺構の評価だけではなく、日本史や世界史における小島養生所自体の価値はどうなのか。（以上抜粋）、等検討し結論されました）、2016年3月31日長崎市長が『小島養生所跡遺構等取扱い方針について（伺）』により「1. 学校建設を優先して進める 2. まずは記録保存を行う 3. 露出保存については、平成27、28年度の発掘調査終了後に遺構等の評価を行い、その結果を踏まえて検討する」と決済、2016年4月1日長崎市立仁田佐古小学校が旧仁田小学校地に開校、2016年8月17日～2017年2月15日に市文化財課が養生所棟の病院敷地一帯東部を発掘調査して江戸期及び以降の遺構を検出、2016年12月8日〔長崎市文化財審議会〕開催（＜質疑応答＞・図面、地図、写真等の分析不足との指摘あり。・【会長】本来はその地で繰り広げられたもの全てについて時代順の変遷をまとめてから調査を行うべき、取っかかりの部分で小島養生所の時代に集中してしまった、この地域の中で小島養生所のことだけを考えるのか、小島養生所を含めた変遷過程をこの地域で理解するための場所として遺跡を捉えるかの問題。・いろんな専門家が長崎にはいる。それらの意見や知識を集めてから遺跡を保存するしないの話になるのではないか。・今のところ時代ごとのレイヤーの整理ができておらず、また、小島養生所以外のものについても整理されていない。・どういう意味で遺跡として残していくのかを考えなければならないが、なぜ調査が進んでいないのか。早く終わらせてくれないと次の議論に進めない。・地形の変遷を把握した後で、建築物のことを考えるべきだ。・国指定史跡にすべき。国の登録なども考えられる、県の指定もある、市指定に捉われない議論が必要ではないか。・【会長】報告書などが出されていない中で、審議会において小島養生所跡が指定になり得るという判断は今の段階ではできない。しかし、これだけの委員が真剣に検討している、というこの状況を事

務局にはご理解いただきたい。・古い時代において現地の石を使った場合、もともとの土壌と同じなので、発掘の際に削ったりすると混乱して混ざってしまい、時代がわからなくなってしまう。発掘の際に石の種類を見ることができる人がいるのか。/ ※筆者注: 長崎市文化財審議会四十年来で初めて養生所等遺跡を議題に取り上げたと云います)、2016年12月13日[小島養生所跡遺構の取扱いに係る文化庁との協議](場所: 文化庁/ 参加者: 文化庁文化財部記念物課、長崎県学芸文化課、長崎市文化財課、長崎市教育委員会施設課/【協議結果】体育館建設予定地における遺構の残存状況がよくないことから、国登録記念物にはなり難い。【主な協議内容】・学校建設と遺構との併存をどのように考えているのか⇒現時点での基本設計(案)により説明。体育館建設予定地における遺構の一部(養生所北病棟西面石垣、建物基礎の一部)の露出展示を行い、その他の遺構については、埋戻し保存を行ったうえで遺構に影響が内容学校建設を進めたい(施設課)。・当該遺跡について、二階に体育館を乗せることで基礎が必要だが、たとえ遺構をかわして基礎をうつにしても、遺跡全体が破壊されていることになる。・引き続き調査、遺跡の確認を行うこと。顕在化にあたっても必要なことではないか。 ※筆者注: 遺跡全体(佐古小学校地)を簡略に説明したが協議対象は体育館建設予定地(南敷地)の主に江戸期の養生所の病院の建物の基礎等の遺構との事です)、[2017年2月3日九州考古学会会長小池史哲氏が長崎県知事中村法道氏・長崎県教育委員会教育長池松誠二氏・長崎市長田上富久氏・長崎市教育委員会教育長馬場豊子氏宛『長崎市小島養生所跡・医学校跡の調査と保存に関する要望書』を提出(「九州考古学会は、地下遺構、周囲の石垣等地上遺構の遺構全体を医学史上の重要史跡として保存し、遺構の本質的価値を損ねることなく現地保存することこそ、長崎市にふさわしい文化財保護の実現であると考えます」と言及し、「国や県など上位の文化財関係部局の指導を仰ぎ、調査にあたっては指導委員会等を設置し、これを踏まえて具体的な保存計画を策定すること」「小島養生所跡・医学校跡およびその周辺に展開する関連遺構を含めた施設の全体像を明らかにし、その調査過程で説明会等を開催して成果を公表する事」等要望しています)、2月15日[第5回長崎市仁田佐古小学校校舎等建設計画地域懇話会]を開催(出席した委員より「今東京の方で、例えば豊洲で建物を建てて、空気が汚れているなど色々あるが、養生所跡で薬がまかれているなど、そういったことは全くないのか。土壌汚染などはどうなのか」と土壌汚染の可能性への指摘がありました)、2月19日日本医史学会理事長小曾戸洋氏・洋学史学会会長沓澤宣賢氏が長崎県知事・長崎県教育委員会教育長・長崎市長・長崎市教育委員会教育長(以上前出)・長崎市文化財審議会会長下川達彌氏宛『長崎市旧佐古小学校校地の養生所遺跡群の調査と保存に関する要望書』を提出(遺跡保存の要望のほかに「養生所遺跡群と小学校の共存は、観光客が多数押しかけるだけでなく、養生所、梅毒病院、小島病院、分析究理所、解剖所での薬品使用と石組や不明の排水施設による土壌汚染は確実であると考えられるので無理であります」と言及しています。 ※筆者注: 江戸期及び医学伝習期より現代初頭に日本でペニシリンが普及するまで、梅毒治療薬として水銀化合物が使用され1910年にドイツ帝国のエールリッヒの研究室で秦佐八郎が開発したサルバルサンは砒素化合物によるものでその特効薬となり国産品も生産され日本に普及しました。これらの薬品は水溶液とするなど処方に調合作業を伴い土壌汚染の蓋然性が高いと考えます)、2月24日一般社団法人日本考古学協会 埋蔵文化財保護対策委員会委員長 藤沢敦氏が長崎市長田上富久氏宛に去る2月10日の三名の派遣委員の小島養生所跡・医学校医跡調査現場の現地視察についての『御礼状』を発送(「今回の視察を通じまして、当該遺跡の学術

的な重要性をますます認識いたしました。当埋蔵文化財保護対策委員会といたしましては、遺跡の綿密な調査とともに、可能な限り現状保存されますようご尽力いただきますことを、切にお願い申し上げます」と要望しました。]

2017年第1回長崎市議会定例会(2月22日～3月16日)までに、校舎建設のない佐古小運動場一帯即ち明治期に造成された医学校敷地及び外周道路については試掘発掘両調査がなされないまま、遺跡を破壊して行う二つの工事即ち佐古小校地への学校建設とその付帯事項である外周道路拡張工事の計画と進行について、順次、主要な行政判断(市長決済、都市経営会議、部門長決済、文化財審議委員会)と議会への議案提出と議会の議決を進行し、2016年4月1日長崎市立仁田佐古小学校が旧仁田小学校地に開校、9月旧校舎解体に着手、2017年5月に解体工事立会で分析究理所敷地西面の石垣を発見、6月5日養生所の病院敷地一帯を「長崎市史跡」に指定、更にその範囲を分析究理所一帯に拡張する予定とし、発掘調査の範囲を分析究理所の一帯と一部明治期の医学校敷地に拡張し、7月11日「周知の埋蔵文化財包蔵地」の範囲を旧佐古小学校地全域に拡大、9月にかけて精得館の基礎周辺遺構及び遺跡全域に亘って江戸期から明治期の遺構と遺物が分布すること及び精得館の基礎周辺遺構を確認、長崎市議会は9月定例会に提出された佐古小校地の地盤の調査より追加工事となった第92号議案仁田佐古小学校建設特殊基礎工事の請負(コンクリート杭打ち工事:147,372千円)について9月13日教育厚生委員会が私達を含む長崎市民三団体の遺跡保存の陳情につき各参考人を招致して審査し14日当該議案を全会一致で継続審議とし、長崎市文化財課は9月末に向けて発掘調査を加速して遺構の実態解明の範囲を拡張し、養生所の病院敷地東部に新たに建物基礎と石垣を検出し又養生所の医学所から精得館の分析究理所に至る石垣や階段を検出するなど遺跡の造成構造に関わるすばらしい成果を上げ、しかし一方、9月19日～22日(第4週)には外周道路工事(120,000千円)で当該遺跡で初めて土壌の攪乱がないと考えられる一帯と医学校正門両翼の石垣であると考えられる遺構の破壊を始め、25日本会議において当該議案の継続審議を議決、28日長崎市文化財審議会が遺跡の現地見学を行い「残すべき価値がある」とし、保存方法や学校建設の判断は市側に委ねます。

9月末には長崎市文化財課長も旧佐古小敷地外周の旧医学校の正門両翼の位置に現存する石垣につき明治初期の長崎の医学校の遺構であると認めています。

私達は、9月末以降、長崎市に、学校建設工事が遺跡保存の観点から市議会によって停止している以上長崎市が学校建設の付帯事項と認識する外周道路工事を速やかに停止するよう要望しています。

2017年10月24日(火曜日)現在、長崎市は外周道路拡幅工事を停止していると聞きます。

2017年10月末現在、私達は、“[佐古小学校・仁田小学校統廃合検討協議会]の委員が、佐古小は養生所/(長崎)医学校等跡地なので何か(遺跡として遺構や遺物が)ではないか、と話し、話は長崎市の統廃合検討協議会の担当者も聞いて知っている。”と聞いています。

以上

私達の養生所/(長崎)医学校等遺跡等に関する要望の基盤となる事象

2017年(平成29年)10月29日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

私達は、当該遺跡地である佐古小校地とその外周道路への佐古小と仁田小の新設統合校である長崎市立仁田佐古小学校の建設整備計画及び外周道路拡幅建設計画に対して当該遺跡の保存と活用を実現する為に、2015年10月20日の長崎市の当該遺跡の発掘調査の現地説明会を契機に、2016年1月に当会を結成、4月の長崎市立仁田佐古小学校設置開校の後、7月に仁田佐古地区ふれあいセンターでシンポジウム「養生所遺構を考える」を開催して以来、一貫して、長崎市、長崎県、長崎市議会に、複数の要望書と陳情書で、現代の建物を建て道路を造る土地と遺跡を保存し活用する土地を区別し、即ち、遺跡の保存と活用と開発事業の二つの公益の完全な両立、即ち、当案件では、安全安心で完全な小学校建設と現存する遺跡への一部でも損壊や滅失によって失われることの無い完全な遺跡の保存と活用(保存、保護、整備、公開)の観点より、二つの公益についてそれぞれの適地での実現、即ち、旧佐古小学校地とその外周道路を中核区域とした養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と保護と整備と公開と旧仁田小学校地での長崎市立仁田佐古小学校の運営を要望し、又、遺跡を破壊して行う旧佐古小学校地外周道路拡幅建設工事の中止を要望してきました。

私達は、遺跡保存と新設校運営の諸事象を勘案して、私達の要望を構成しています。

私達が勘案する主な事象は、1) 当該遺跡について、現状保存すべき重要な遺跡が旧佐古小校地及び外周道路を中核区域として存在すること、2) 新設統合校の小学校用地及び付帯事項に係る旧佐古小と旧仁田小の双方の校地等の実態比較について、①地理上の立地と地形の安定性(旧佐古小地区は単一の小さな佐古丘陵の北部の先端部の狭小な平坦部に位置し東西が急峻な下り斜面を形成し、土地として安定性に欠け、旧仁田小地区は佐古丘陵南部の背後の山稜地帯の北端部の小盆地に位置し校舎敷地周辺の下り斜面も比較上緩慢で運動場は盆地の底部にあり、土地として安定性がある)、②一帯の地面の安定性(どちらも一帯が江戸期からの畑地であるが旧佐古小地区は急斜面で不安定、旧仁田小地区は比較上緩斜面で比較上安定)、③敷地造成の現状(旧佐古小校地は江戸期から明治初期の造成であり、同一建築平面内での造成により切土部と盛土部が交錯し均一でない、旧仁田小校地は校舎敷地が現代の切土であり運動場は大きな造成がなく比較上均一と考えられる)、④地盤の状態(旧佐古小校地は予定より岩盤が深く地盤の状態が良くないことが判明している、旧仁田小校地は校舎敷地が現代初頭に8m程か切土され又運動場も岩盤が浅い可能性があり比較上地盤の状態が良い可能性がある)、⑤校地の平面構成(旧佐古小校地は平面が狭い段丘状で校舎設計が複雑となる、旧仁田小校地は平面が広く堅牢な設計が容易)、⑥土壤汚染の蓋然性(旧佐古小校地は江戸期から現代初頭にかけての約90年間の病院又梅毒病院としての土地の履歴より梅毒治療薬である水銀化合物及び砒素化合物による土壤汚染の蓋然性が高い、旧仁田小校地は校舎敷地が現代初頭の切土及び運動場一帯は畑地としての土地の履歴より土壤汚染の原因が不在で土壤汚染の蓋然性が低い)、⑦校地一帯の道路事情(旧佐古小地区は狭小な平坦部にほぼ校地の外周に普通車の通行が唯一可能な単一の進入経路を有する外周道路を生活道路と路地により袋小路として形成するのみ、旧仁田小地区は校地が二本の補助幹線街路として使用される道路に接する)、⑧校区の実相と相対的学校位置(現仁田佐古小校区:南北へ長く、南北長3400m東西幅700m標高北部2m～南部250m程、小学校所在:校区北辺から旧佐古

小:500m標高34m程旧仁田小750m標高55m程)、及び、3)新設統合校の小学校用地及び付帯事項に係る旧佐古小と旧仁田小の双方の校地等の運営上建設上の比較について、a. 学校等大規模施設の災害に対する安全(旧佐古小地区は丘陵頂部の平坦部が狭小で地区への進入路と外周道路を拡張しても袋小路である実態は改善されず学校等大規模な施設への災害への救援活動が限定的、旧仁田小校地は二本の補助幹線街路として使用される道路が接し比較上学校等大規模な施設への災害への救援活動が開放されている)、b. 学童の学校生活上の安全(旧佐古小校地での小学校と遺跡活用の並存で地区への不特定の訪問者が増加し学童の学校生活上の安全への不確実性が飛躍的に増大する、旧仁田小地区から旧佐古小地区への唯一の狭小な車歩共用の進入路に生徒数の多い旧仁田小の学童の通学が集中することによる通学上の不安全の増大)、c. 学童の学校生活上の健康被害の可能性(旧佐古小校地は土壤汚染の蓋然性が高い、旧仁田小校地は土壤汚染の蓋然性が低い)、d. 学童の校区内居住分布(2013年5月現在佐古小76人仁田小182人)、e. 学童の通学環境(旧仁田小から南部の星取山頂下へ小学校一年生が登り帰宅するのに徒歩1時間20分程掛かる、毎日遠足で通称地獄坂などあり夏など真っ赤な顔をして登ってくる、と云います)、f. 地域の避難所及び緊急避難場所としての適性と必要性(旧佐古小地区は丘の上にあり避難所及び緊急避難場所として登りにくく集まりにくく代替地として低地に平地と大きな公園がある、旧仁田小地区は小盆地に位置し避難所及び緊急避難場所として降りやすく集まりやすく他に代替地がない)、g. 将来に亘る相対的な学童の学校生活及び家族の学童の学校生活支援及び地域の中核施設としての複合化や合築への利便性確保(地理上地形上の限界より旧佐古小地区は大きな道路が造り難く道路や公共交通他の都市計画上の改善の効果が及びにくく旧仁田小地区は大きな道路が造り易く同改善の効果が及びやすい)、h. 小学校建設の設計・建設工事の容易さや安定性や安全性(旧佐古小校地は土地の状態及び遺跡保存と活用と学校建設の並存による制限に関わる施設の安全性堅牢性確保、周辺住宅地の安定性、工事車両通行の為の道路拡張の必要及び狭小な道路への工事車両の通行に関わる安全に難点がある、旧仁田小校地は遺跡が不在、土地の状態に関わる施設の安全性堅牢性確保と周辺住宅地の安定性に利点があり、工事車両通行の為の道路拡張が不要で工事車両の通行が安定している、と利点がある)、i. 小学校建設の発生費用対効果(旧佐古小校地への学校建設上の難点と旧仁田小校地への学校建設上の利点により比較上明らかに旧仁田小校地への学校建設が費用対効果が高いと推測できる)、との観点より旧仁田小校地が小学校建設の適地であると考え、j. 外周道路について、外周道路への進入路が旧佐古小学校の解体工事の必要により拡張され大型車両の通行が可能となった現在、地区の住宅火災について私達が提案する消火栓の増設や自走式噴水機の配備等の代替改善策を必要としながらも、救急搬送や消防活動等緊急車両の活動が可能となり、他地区と連結する主たる市道で狭部に2.7mの道幅を有する現在の構造のまま将来的な関連事象の改善で一方通行の形成等地区の自動車交通の実用に耐え、他は隣接して居住する人々が現在現状維持を求めている車道と相容れない地区の人々の健康と交流の場として不可欠の生活空間である路地のまま存続し得ると考えること、です。

私達は、学童の学校生活区域の近隣に位置する身近な遺跡における遺跡の遺跡としての保存と保護と整備と公開は、学童の教育上の観点から優れていると考えています。私達は、私達の生活区域の近隣に位置する身近な遺跡における遺跡の遺跡としての保存と保護と整備と公開は、私達の現代の生活において、私達を私達の“自己認識(アイデ

ンティティ: identity)”の理解と形成へと導き、私達に私達の将来を示唆すると考えます。長崎市の遺跡地に於ける学校建設工事と外周道路拡張工事は、例え、遺跡の一部の遺構を保存し顕在化したとしても、遺跡の遺跡としての姿をほぼ完全に粉砕します。私達は、遺跡/埋蔵文化財の保存保護と開発事業の計画との円滑な調整について、文化庁が1997年以降2008年にかけて複数の“文化庁次長通達”や“埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会の報告書”を通じて、公共工事である開発事業について 開発関係部局と文化財保護担当部局との定期的な連絡調整の場を設けて計画の初期段階にあるものも含め、できる限り長期間にわたって事業の計画を把握して情報交換を行い、埋蔵文化財行政の基本、本来のあり方につき、埋蔵文化財の所在の正確な把握と現状保存と適切な活用にあると位置づけ、埋蔵文化財行政の4つの各段階と対応する発掘等調査につき、把握・周知/調整:行政目的調査(分布調査、試掘・確認調査)、保存:保存目的調査・記録保存調査、活用:活用のための調査と整理して周知し、事業計画との円滑な調整を図りつつ、重要な遺跡については史跡指定を図る等により現状保存し、積極的に公開・活用することと求めている処、長崎市は、公共事業たる開発事業と遺跡保存について開発関係部局と文化財保護担当部局との定期的な連絡調整体制をとらず、計画の初期段階にあるものも含めた長期間に亘る事業の計画の把握を行わず、遺跡地に於ける学校建設用地決定の後に遺跡の調査を開始し、開発事業計画の進行に対し、遺跡の実態の正確な把握が遅行したこと、遺跡の全体的な把握が遅れたこと、が、今回、本来行政措置と不可分に結びついている各段階で行われる「調査」が、行政から切り離され、埋蔵文化財行政の4つの段階の適切な遂行が不可能になり、遺跡の保存保護と開発事業との円滑な調整が途絶し、未指定の文化財たる記念物、しかし重要な当該遺跡、が破壊され始める結果を招いた原因と考えます。私達は、小学校建設の建設用地選定について、『小学校施設整備指針』(平成28年3月 文部科学省大臣官房文教施設企画部)の記述に反し、合理性と有用性について万全ではなく、合理性と有用性を欠いていると感じています。私達は、長崎市の当該の市政運営について、事前の諸事象への評価が不足する実態が、各局面の合理性と有用性の欠如をもたらし、混乱を招いた、と考えます。

私達は、県外の複数の識者から、長崎市の当該遺跡の取扱いについて「史跡」は、対象の土地の範囲を指定して、遺跡としての構造即ち土地の造形及び地下遺構及び地上遺構(建物や石垣等)を共に現状保存する記念物たる文化財の保護の措置であり、国指定でも市指定でも「史跡」に指定して且つその指定範囲内に開発行為を行うなど普通は考えられない」と拒絶の見解を得ています。

“記録保存調査”は、試掘・確認調査の成果を踏まえて開発事業者と調整を行い、その結果、やむを得ず現状で保存を図ることができない埋蔵文化財について、都道府県または指定都市の教育委員会(以下「都道府県教育委員会等」という)による指示等に基づき、開発事業者の委託により実施される発掘調査であり、実態は遺跡の破壊であり、完掘することにより遺跡のもつ情報を過不足なく得る必要があります。記録保存の措置を執るという行政判断は下されているが、調査開始後に試掘・確認調査では予測できなかった成果等により重要な遺跡であると判明した場合、開発事業者等と再調整を行う必要があります。その結果によっては、記録保存する旨の方針を変更することもあるため、調査の進行に伴って適切な行政判断が求められます。

“移築保存”も“記録保存”と同様に、実態は遺跡の破壊です。

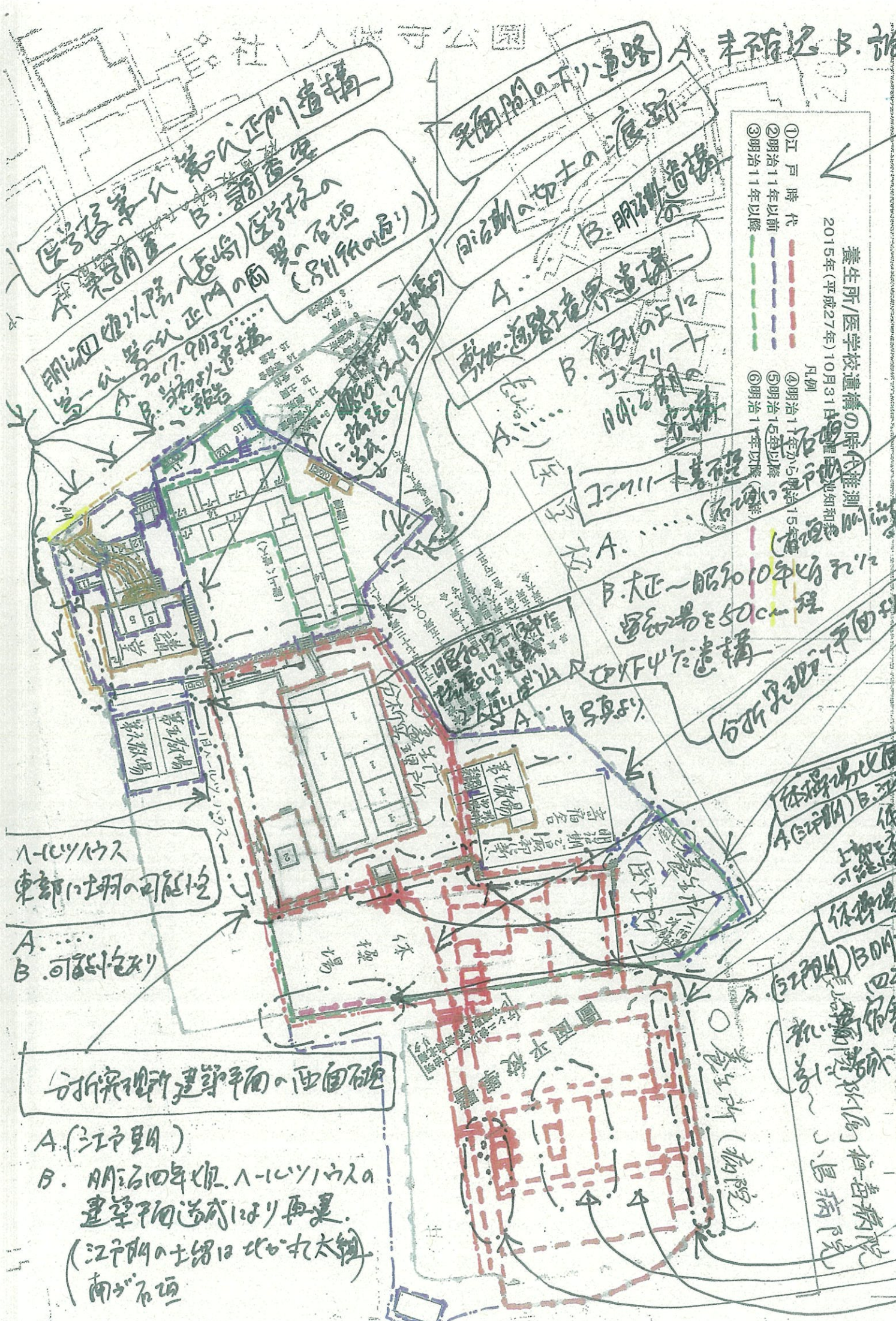
私達は、皆様に、養生所/(長崎)医学校等遺跡にとってなにが相応しいことなのか、共に考えて欲しいと願っています。

以上

善玉所/(長崎)医学校遺跡への
長崎文化財課と善玉所研究会の見解相違の概略

2017年(平成29年)11月16日 木曜日

善玉所研究会 代表 池田和恭



長崎市文化財課と養生所をめぐり見解の相違の検証 2017年(平成29年) 11月16日 木曜日

全体に ①
建物の遺構や土の痕跡の構造
(明治11年の長崎高等女学校への移転時に13号の敷地を確保し建設)

A. 調査不審 B. 調査要
A. 遺構 B. ハルツハウスの敷地の土の痕跡の上にハルツハウスの便所ありの可能性

明治期で最初新しい高層ビル
A. ... B. 周囲の土の痕跡を調査要

二階建洋館と付属建物
A. 未確認 B. 確認要
(敷地内には西側に土の痕跡あり)

コンクリート校舎の遺構
A. 現地の校舎遺構で大抵に前年
B. 明治11年以降の体育場の遺構

石垣と石垣
A. (近世) B. (近世) 石垣と石垣の境界と校舎の遺構が一致 = 平面は一致
東面石垣 A. 後世に築かれた結果 B. 当初の土の痕跡の遺構である

建築平面
A. (江戸期) B. (江戸期) 土の痕跡の遺構

東面石垣の内側の石垣
A. 当初の石垣 B. 養生所2号館の遺構

平石の列
A. 明治期の建物基礎 B. 養生所2号館の遺構

柱穴群
A. 養生所以前に不明 B. 養生所2号館の遺構の可能性

旧長崎市立佐古小学校の北敷地(長崎県長崎市西小島町16)の北面の西部の石垣の実測、及び既存の図面との比較

2016年(平成28年)12月4日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

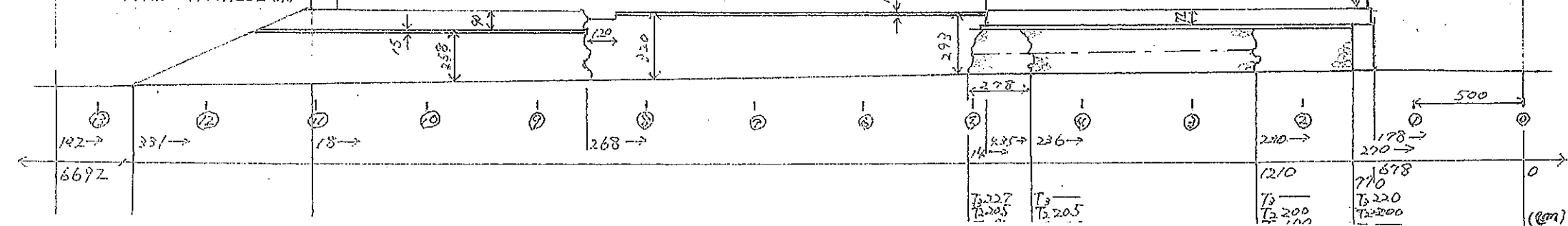
3. 長崎医学校第十二敷地建物略図(明治15年現在)
『長崎医学百年史』発行 長崎大学医学部「長崎医学の百年」中西 啓
昭和三十六年三月三十一日 発行

2. 醫學校平面圖(明治11年以降)
『検査技師のための長崎散歩』著者 中西啓
昭和五十二年四月二十五日 発行

1. 醫學校境内全圖(明治11年以前)
『検査技師のための長崎散歩』著者 中西啓
昭和五十二年四月二十五日 発行

4. 実測図 (1/250)

実測者 池知和恭
実測日 2016年(平成28年)11月23日(水)



旧長崎市立佐古小学校の北敷地(長崎県長崎市西小島町16)の西面の北部の石垣の実測、及び既存の図面との比較

2016年(平成28年)12月4日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

3. 長崎医学学校第十二敷地建物略図(明治15年現在)
『長崎医学百年史』発行 長崎大学医学部「長崎医学の百年」中西啓
昭和三十六年三月三十一日 発行

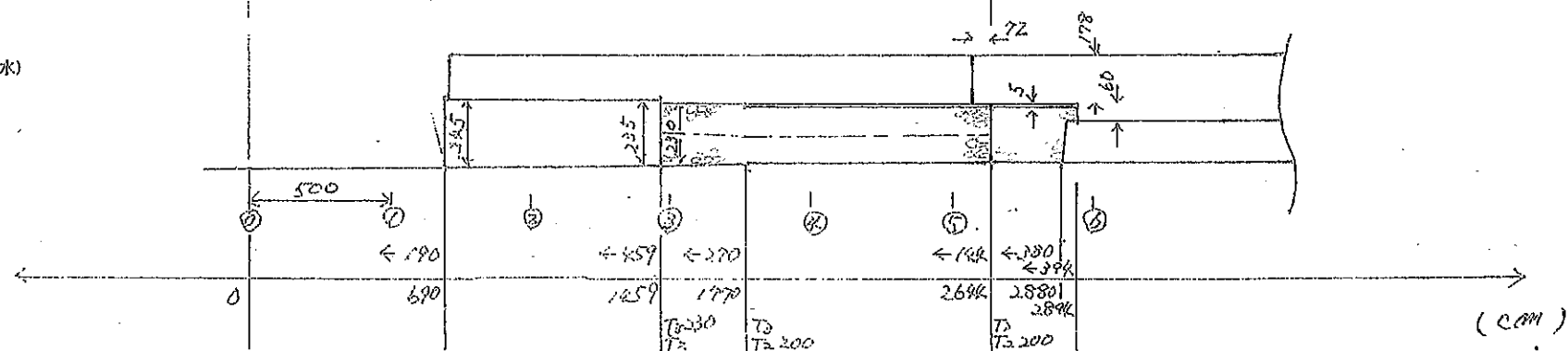
2. 醫學校平面圖(明治11年以降)
『検査技師のための長崎散歩』著者 中西啓
昭和五十二年四月二十五日 発行

1. 醫學校境内全圖(明治11年以前)
『検査技師のための長崎散歩』著者 中西啓
昭和五十二年四月二十五日 発行

4. 実測図(1/250)

実測者 池知和恭

実測日 2016年(平成28年)11月23日(水)

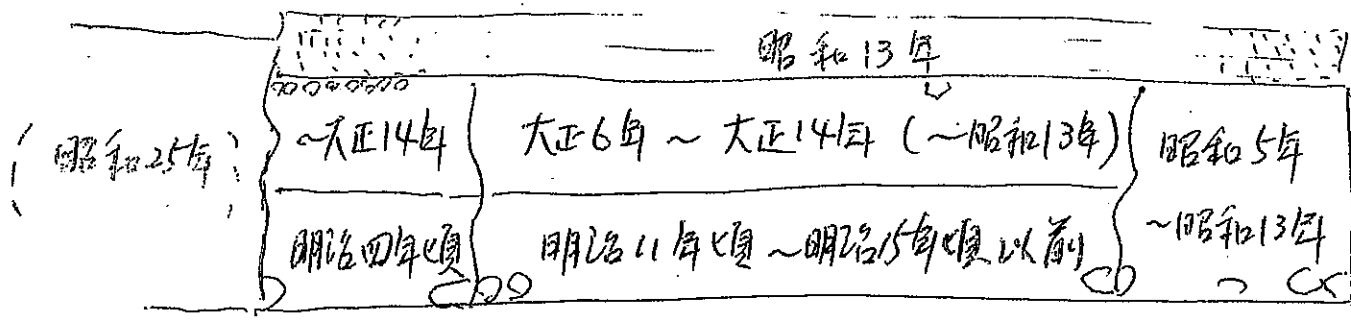
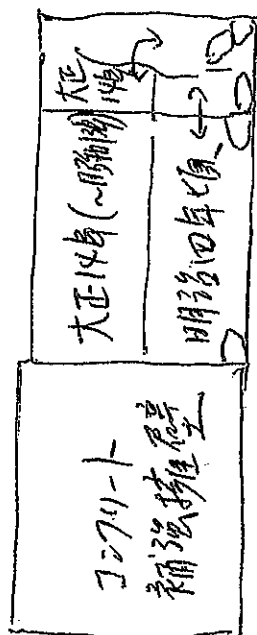
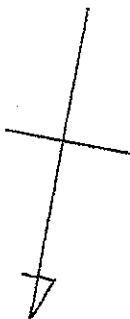


(長崎)医学校遺構(正門西翼石垣)及び関連遺構(石垣)の築造年代推測

(旧長崎市立佐小学校敷地北西部)

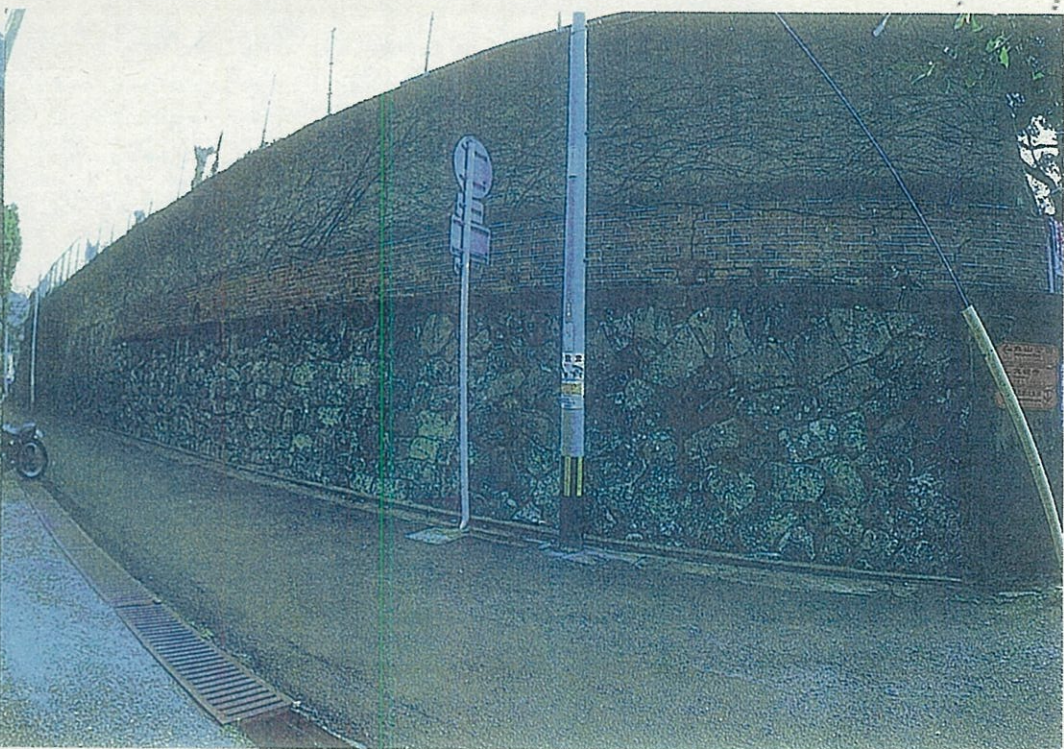
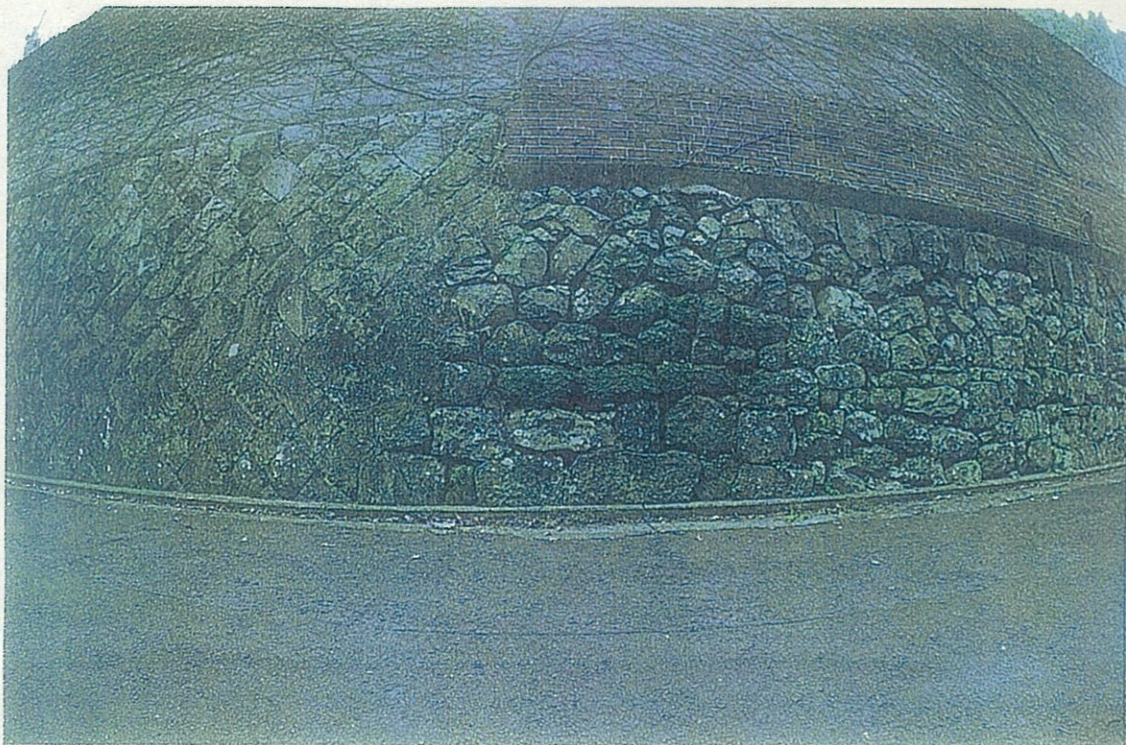
2017年(平成29年)8月20日 日曜日

養生所環境学会代表 池知和恭



昭和5年～昭和13年
(補強工事)







2017年(平成29年)10月初旬までには上の土地は全て掘り下: 工: 74-1の地: 0 石垣が崩壊。2017年(平成29年)11月16日(木) 普門寺(浄土宗) 地元の茶





明治24年から明治35年頃までの間に
撮影された写真と推測される。

佐古分校 大正6年(1917)卒業アルバム

寄棟造二階建洋館は明治35年頃に建築された
長崎県立甲斐長崎医学校の講堂です。
明治24年に医学校が浦上地区に移転した後
明治35年に明治12年に大徳寺境内跡に建築された
長崎病院が浦上地区に移転した。教壇と
教員室。1917年頃撮影。大正6年(1917)。

養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存・保護・整備・公開について

2017年(平成29年)11月5日 日曜日 生所を考える会 代表 池和森

養生所は、幕末、幕府が行う長崎海軍伝習のうちに成立した医学伝習が、海軍伝習閉鎖後、幕府により独立、佐古の丘に設立され、精得館、明治に入り長崎府医学校等となり現代の長崎大学医学部や薬学部へ継承されます。長崎海軍伝習では、同時に、飽の浦に長崎製鉄所(修船場)が設立され、明治中期以降三菱長崎造船所に継承されます。

医学伝習は日本で最初の近代西洋医学の教育、養生所はアジアで最初の教育病院附属の医学校、長崎製鉄所は日本で最初の蒸気動力で稼働する近代西洋式工場です。長崎海軍伝習は、幕府による近代西洋海軍力の創始であり、日本開国即ち条約による国交樹立と開港による自由貿易による国力の蓄積、その基盤となる日本で最初の体系的近代西洋科学技術の導入で、幕府とオランダ国の協力による日本で最初の国際協業で雄藩も参加、日本の国として初めて具体的な西洋文明の受容に取組み成功します。長崎は蘭学の成熟東漸等江戸と結ぶ日本開国の母体/前線の軍事/情報/交易の都市、日本開国や長崎海軍伝習は幕府による世界国力均衡中日本の存亡を賭けた国策です。

マルクスはエンゲルスに書簡で日本の開港を資本主義が地球を一巡したと注目します。長崎海軍伝習と継承する施設で育った人々は、太平洋横断航海、幕府による関東でのフランス人の協力による横浜製鉄所及び横須賀製鉄所(横須賀海軍造船廠、現アメリカ軍横須賀基地、明治四年に日本

最初の乾式船渠を竣工)の建設と運営、明治以降の近代海軍、大学/文部省の設置と東京大学以下教育、鉄道、造船/重機械工業、天文台と気象台、灯台と水路、医制/衛生行政/薬事行政、博愛社(後日本赤十字社)設立と、各界で近代日本の体制整備と世界水準の発展に貢献します。

長崎海軍伝習と医学伝習から養生所/精得館、長崎製鉄所、横浜製鉄所及び横須賀製鉄所の歴史は、近代日本の基盤となり、私達の現代の生活に直結する歴史です。

幕府の近代西洋科学技術導入の事業は現在もよく創業の地に継続して運営され、故に、当時の姿を残存するのはほぼ“養生所/(長崎)医学校等遺跡”のみと考えられます。

当該遺跡は、江戸期から明治期、現代初頭にかけて人々が活動した痕跡を、その活動期間の主要な活動の全ての活動空間の範囲を中核地域である建物敷地と外周道路に包含して現存し、一帯に主要な遺構と遺物が散在し、写真図面文献等資料も充実し、推移と原状をほぼ憶測無く知ることができる、遺跡として完全な姿を有する遺跡です。

私達は、日本の近代現代を、中世の精神生活の変化等連続した道程によると捉えます。2017年10月21日土曜日日本経済新聞は文化蘭で『文明開化の音 江戸後期から』『「明治維新を機に近代化」より「連続性」重視』と題し、近年、日本の近代化、経済大国の原流について、政治体制の「断絶」より社会思想経済等様々な分野で「連続性」を重視する研究が主流になっている、2018年の明治150年に向け新たな視点に基づく出版が相次いでいる、と三点の著作を例示し動向を伝えています。中世の研究にも進展があります。

私達は、当該遺跡について、医学は主に概念であり遺構として地味ですが、日本の開国の遺跡であり近代西洋科学技術導入史上の近世から近代への「連続性」を表現する日本と世界で唯一の遺跡、土地造成と建物等の推移の精度ある情報提供と憶測の余地のない土地の造形の再建が可能な、遺跡として完全な存在であり、最初の病院は外国人(オランダ人)が設計した日本で最初の建築である可能性を含み、特徴ある基礎を有し、完全性と真正性を潜在、我が国の歴史の正しい理解のために欠かせず日本と世界の人々にとって歴史上学術上価値が特に高い重要な遺跡、『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』と間接に、世界遺産『明治日本の産業革命遺産』へ直接に連続し、文部科学大臣が指定する『特別史跡』及び包含する特徴ある基礎は『重要文化財』及び活用として新たに長崎より提案が可能な『日本遺産』の中核を構成する資産として相応しく、世界に過去から現在迄の日本の国の在り方を発信する基盤となる遺跡と考えます。x

日本人の 心の迎賓館たり

海軍伝習、長崎製鉄所、医学伝習
現代日本の国のかたちはここからはじまる。

2015年秋、長崎市文化財課により佐古小学校養生所跡地の発掘調査で養生所遺構が発見されました。養生所遺構を長崎市民や子供たちの生活の中に生かしていくにはどうすればよいかを仁田・佐古の方々と一緒に考えたく、このシンポジウムを企画しました。

幕末の長崎で行われた日本とオランダの国際プロジェクト、海軍伝習は、江戸幕府が主体的に西欧文明を受容すべく発案し、海軍の設立にとどまらず、近代科学技術と近代医学を組織的に導入するものでした。佐古小学校の丘に建てられた養生所は日本初の124ベッドの近代的な西洋式病院であり、ボンヘ・ファン・メルデルフォールトは侍と町人、日本人と西洋人の区別なく、民主的な患者中心の医療を行い、封建社会で育った松本良順と弟子たちに強い衝撃を与えました。彼の創始した近代西洋医学教育により育まれた医師たちが日本の近代医学への革命を担いました。ハルデスによって設立された長崎製鉄所で育まれた科学技術者たちは日本の近代科学技術への革命を担いました。この海軍伝習で、オランダ人教師たちの新しい物の考え方に触れ、日々生まれ変わっていった若者たちが維新回天に活躍したのです。

当日は幕末佐賀研究会の方々が養生所跡や高島秋帆邸跡を見たいと参加されます。佐賀藩(鍋島直正公)は長崎警備を担当し、藩の自然科学と近代科学技術レベルは、日本各地の藩藩を圧倒するものでした。反射炉を建設、大砲を鋳造し、神之島・四郎力島の砲台を建設しています。三重津海軍所では蒸気船を建設、幕末最大の海軍力を持つ藩でした。維新回天で活躍した大隈重信、副島種臣、佐野常民、相良知安、江藤新平、大木喬任を輩出しました。

お忙しいところ恐縮ですが、ご来場たまわれば幸いです。



養生所とその遺構を考える

2016年7月17日(日) 13:30-16:00

入場観覧無料

長崎市仁田・佐古地区ふれあいセンター 第一研修室

講演Ⅰ 『海軍伝習・養生所と日本の近代化』

相川 忠臣 長崎大学名誉教授 著書『出島の医学』

講演Ⅱ 『養生所等遺構の現状と未来への展望』

池知 和恭 養生所を考える会代表

講演中の御質問・御発言は随時、挙手にて受け付けますので、その都度御質問いただいて結構です。
なお講演の後、話題・御質問・御発言など自由時間も予定しております。

主催

養生所を考える会

後援

長崎歴史文化協会

お問い合わせ

090-3730-1858 [池知] / 095-848-5616 [相川]

2017年(平成29年)4月28日 金曜日

旧佐古小学校校地の養生所遺跡群の歴史的価値について

長崎大学名誉教授、相川忠臣

出島に商館医として1848年に赴任したオットー G. J. モーニッケは聴診器をもたらし、種痘を普及した日本近代医学のさきがけであります。ヨーロッパと東アジアを知悉した国際医療人モーニッケの見た幕末の日本の医療は悲惨な状況でした。梅毒、天然痘、ハンセン氏病のような伝染病の予防の公衆衛生行政施策は皆無で、伝染病患者を隔離する病院もなく、国立医学校も医師国家試験もないので今後の改善は望めないと彼の報告書にあります。そのような状況を打破する日本の近代医療革命は長崎の養生所を舞台に始まりました。

1. ポンペによる近代西洋医学教育の創始と日本全国への普及

ペリー来航により幕末の対外危機が頂点に達した1855年、日本海軍の設立を目指した海軍伝習がオランダ政府の協力で長崎で開始しました。この日本とオランダ両国の国際プロジェクトは、海軍設立にとどまらず長崎製鉄所と養生所・医学所を建立し、近代科学技術と近代医学を組織的に導入するもので、日本の産業革命と医療革命の始まりでした。

1857年11月、J. L. C. ポンペ・ファン・メールデルフオールトは西役所で医学伝習を開始し、19世紀、自然科学の発達により大きく変貌した近代西洋医学を系統的に教え明治から現在へと発展する日本近代医学の礎を築きました。将軍御目見医師、松本良順の協力を得て1861年9月、医学所に併設された124ベッドの日本初の近代的西洋式病院、養生所を設立。養生所は小島佐古の丘に建てられ、屋上には日蘭友好の象徴として日本とオランダの国旗がはためいていました。養生所において、ポンペは侍・町人、日本人・西洋人の別なく治療し、医師は自分自身のものではなく病める人のものであると戒め、民主的な患者中心の医療を行い、封建社会に育った弟子達に衝撃を与えました。松本良順は万人の健康を護る衛生思想と牛乳・肉食の普及に尽力し、彼の処方した安価な薬を提供し、貧しい人々の健康を護ろうとしました。ロシア兵の為の稲佐マタロス休息所で検梅を開始、江戸根津の遊郭でも実施しました。

2. ボードインは最新の臓器別医学を教え、彼の弟子達は医療行政を確立。

ポンペの跡を継いだA. F. ボードインは検眼鏡、喉頭鏡をもたらし、最新の臓器別医学を教えました。聴診器出現後循環器と呼吸器の診断と治療が進歩し内科学が臓器別に進展。検眼鏡、喉頭鏡、膀胱鏡や子宮鏡のような光学機器と各器官の組織染色技術の進歩で近代的眼科学、耳鼻咽喉科、泌尿器科学、婦人科学に発展しました。このような最新の臓器別医学にとどまらずおそらく最新の医療法も彼により日本に伝えられました。養生所に分析窮理所を設置してK. W. バラタマを招聘。ハラタマは自然科学即ち物理学、化学等を医学・医療を学ぶ前の予科として教え、養生所の調剤も担当しました。分析窮理所跡は日本

の近代的な化学、物理学と薬学の発祥の地であります。養生所は精得館と改名、明治維新後長崎医学校となりました。精得館頭取の相良知安はボードインからオランダの医療法を、大徳寺に寓居していた G. H. F. フルベッキにアメリカ憲法を学び、人民の健康を護る医療法、醫制畧則を案出しました。相良は岩佐純とともに維新政府に登用され、東京大学医学部の前身、大学東校を設立、ドイツ医学を導入しました。大学東校にはポンペの最優秀の弟子佐藤尚中を、大学南校にはフルベッキを教頭として迎え、日本の近代教育を担う大学を設立しました。近代教育もまた小島佐古の丘から発祥したのです。ハラタマは後に大坂舎蜜局を設立、ボードインは大坂医学校を緒方惟準と共に設立しています。ハラタマの後任はユトレヒト陸軍軍医学校教官で、陸軍薬剤官であった A. J. C. ヘールツです。長崎、京都、横浜で活躍、長与専斎のブレーンとして、輸入薬物を検査する司薬場や日本薬局方の成立に貢献しました。ポンペ、ボードイン、マンスフェルトに学び長崎医学校長であった長与専斎は文部省に出仕、岩倉遣欧使節団に加わり、英米独の医療を視察後、オランダで医療監理制度の実状を調査しました。長与専斎は帰国後、衛生局を創立し醫制を施行し、東アジアで初めて万人の健康を護る公衆衛生行政を開始しました。醫制はオランダの医療法と相良知安の醫制畧則を参考にして作られたと思われます。

3. 近代医学教育、近代教育、民主的な考え方、公衆衛生行政は小島佐古の丘に発祥し、日本の近代化は長崎から東アジアに波及。

丸山公園に民主国家を夢見た坂本龍馬像、唐人屋敷跡には国民国家建設を目指した孫文の像があります。長崎を訪れる東アジアの人々は、なぜ日本は先駆けて近代化できたのかを昔も今も知りたいのではないのでしょうか。日清戦争後、近代化の方策を求め、多くの東アジアのエリートが日本に留学しました。漢字交じりの日本語は蘭書翻訳に苦しむ過程で、オランダ語の影響を受け近代化し何でも翻訳できるまでに進化しました。正に和華蘭チャンポン文化の精華です。数世紀かけて物理学、化学や医学の専門用語と概念が日本語に定着したからこそ、海軍伝習後、速やかに近代科学技術や近代医学を導入できました。開国後は自然科学のみならず、政治、法学、経済、語学、思想といった人文科学分野の専門用語と概念が日本語に速やかに取り込まれました。日清戦争後、台湾と朝鮮に日本語による小学校から大学までの近代教育が定着、近代化の基盤が作られました。中国では和製漢語が近代化の手助けをしました。小島佐古の丘に発祥した近代教育、民主的な考え方と公衆衛生行政は日本全国にとどまらず、広く東アジアに普及しました。朝鮮と台湾での公衆衛生行政により人口が著しく増加しました。台湾では司馬凌海の薫陶を受けた後藤新平が民政長官として活躍しました。養生所・医学所、分析窮理所は日本ばかりでなく、アジアの国々にとっても医療の近代化の象徴です。

1945年8月9日
原子爆弾により被災



被爆直後の長崎医科大学附属医院

1949年5月
国立学校設置法に伴い、「長崎大学医学部
附属病院」へ改称



焦土から復興しつつある浦上の街並みと
長崎大学医学部・附属病院(1958年)

2003年10月
医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、「長崎大学医学部・歯学部附属病院」へ改称

2004年4月
国立大学法人化に伴い、病院の開設者が
国から国立大学法人長崎大学に変更

2009年4月
学部附属病院から、大学直轄の病院となり
「長崎大学病院」へ改称

2011年9月20日
開院150年

長崎大学病院 150年のあゆみ

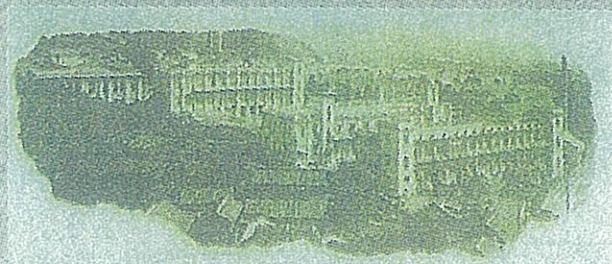


左から分析寮理所、医学所、養生所(1863年)

1857年11月12日
オランダ軍医ポンペが長崎奉行所西役所内
(現在の県庁)で医学の講義を始めた。
長崎大学医学部のおこり

1861年9月20日
長崎小島郷(現在の長崎市立佐古小付近)
に養生所を開設。日本最初の西洋式近代病
院。長崎大学病院のおこり

1923年4月
養生所開設以降、国や県といった管轄変更
などによる数度の改称を経て、「長崎医科大
学附属病院」となる

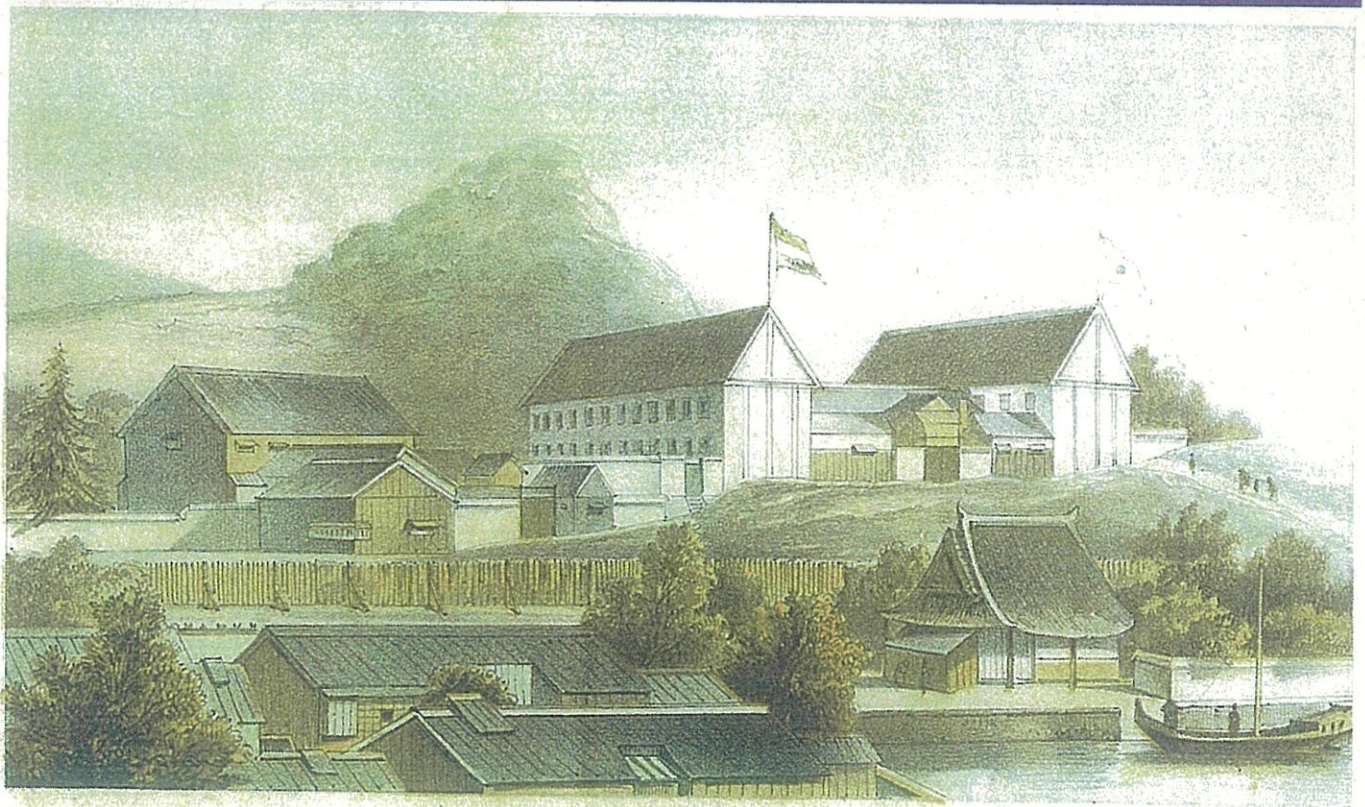


1930年の長崎医科大学附属医院

ポンペは風通しのよい小高い丘にあり、水量が豊富で患者が通いやすい所を希望



日蘭の国旗はためく日本初の西洋式病院養生所は日蘭友好の象徴



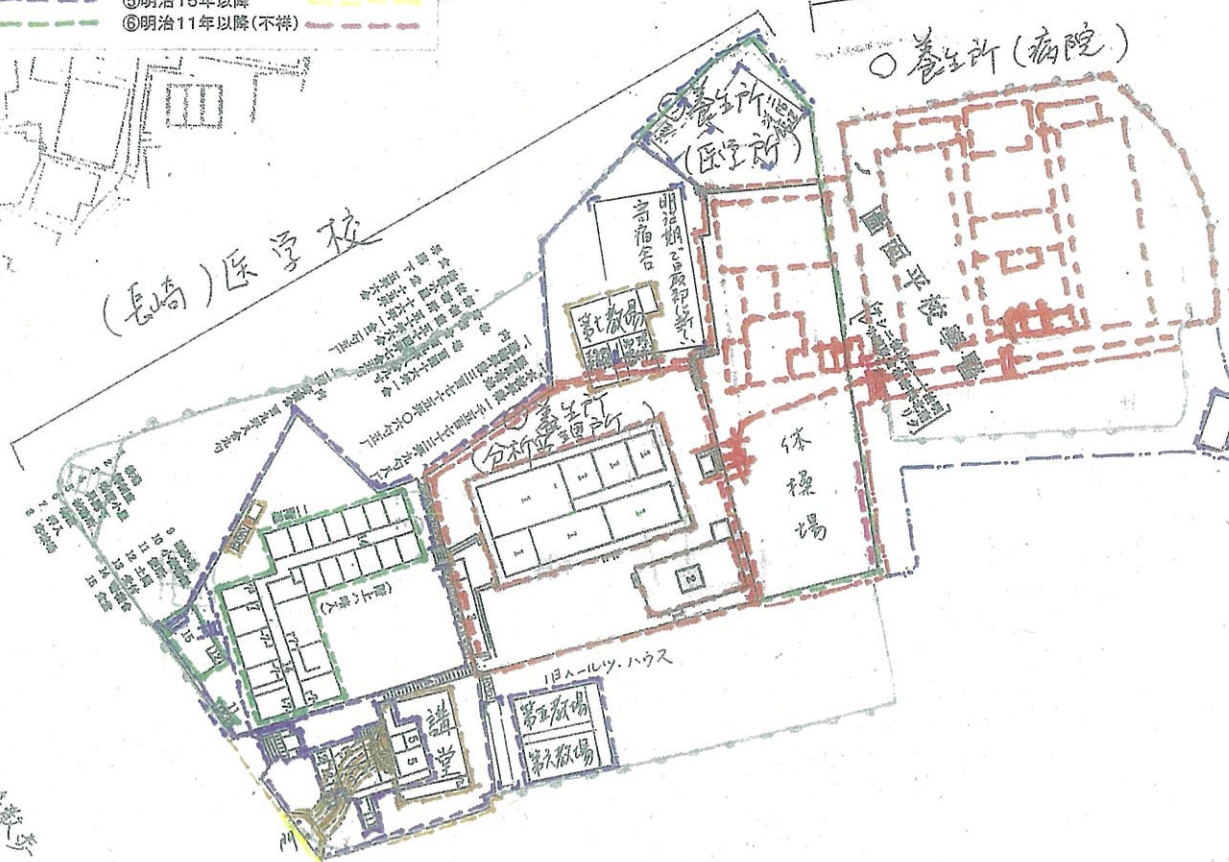
RIET HOSPITAAL TE NAGASAKI.
geopend 20 Sept' 1861

2015年(平成27年)10月31日 土曜日 池知和恭

凡例

- ①江戸時代 ②明治11年以前 ③明治11年以降 ④明治11年から明治15年頃 ⑤明治15年以降 ⑥明治11年以降(不祥)

長崎病院 附属 梅毒病院
～ 小島病院

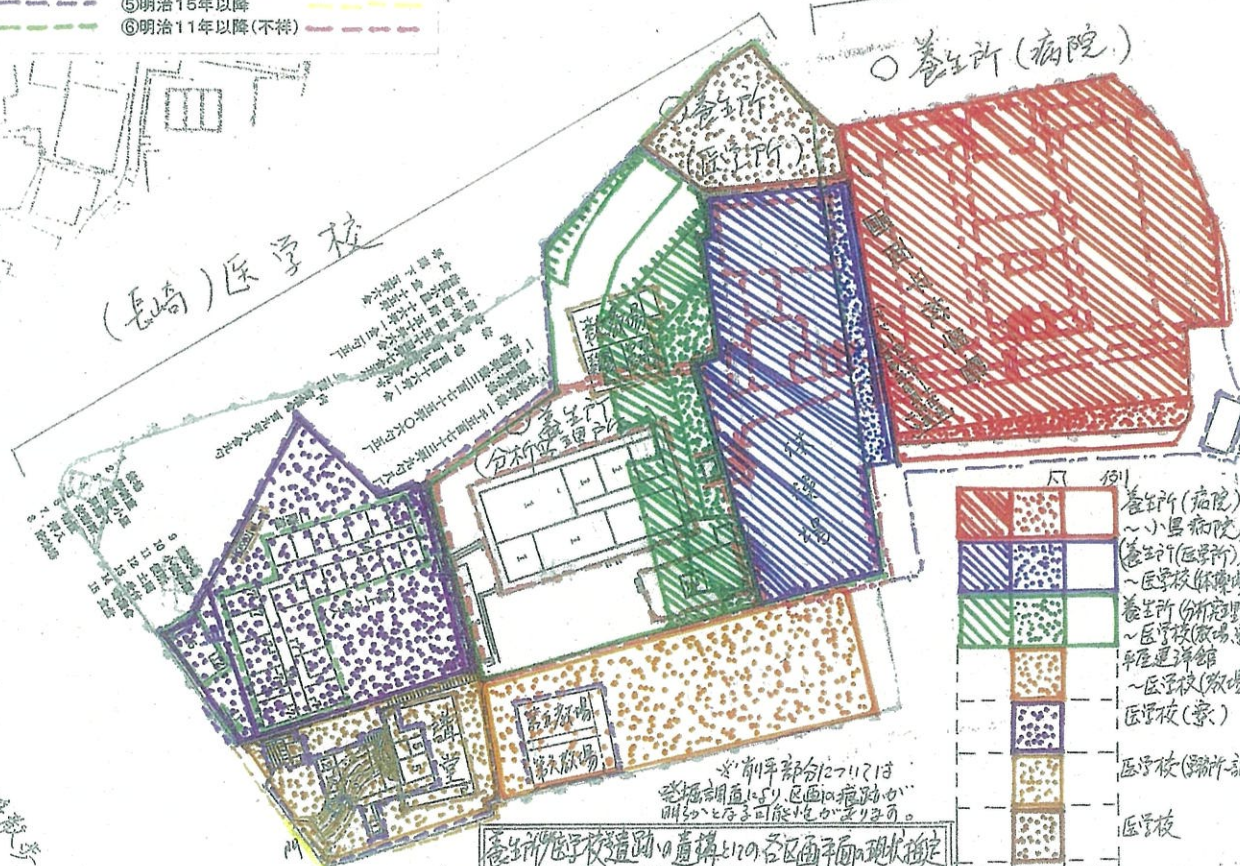


2015年(平成27年)10月31日 土曜日 池知和恭

凡例

- ①江戸時代 ②明治11年以前 ③明治11年以降 ④明治11年から明治15年頃 ⑤明治15年以降 ⑥明治11年以降(不祥)

長崎病院 附属 梅毒病院
～ 小島病院



作成：2017年(平成29年)4月27日(休) 著者：谷公重、謝安和、栗

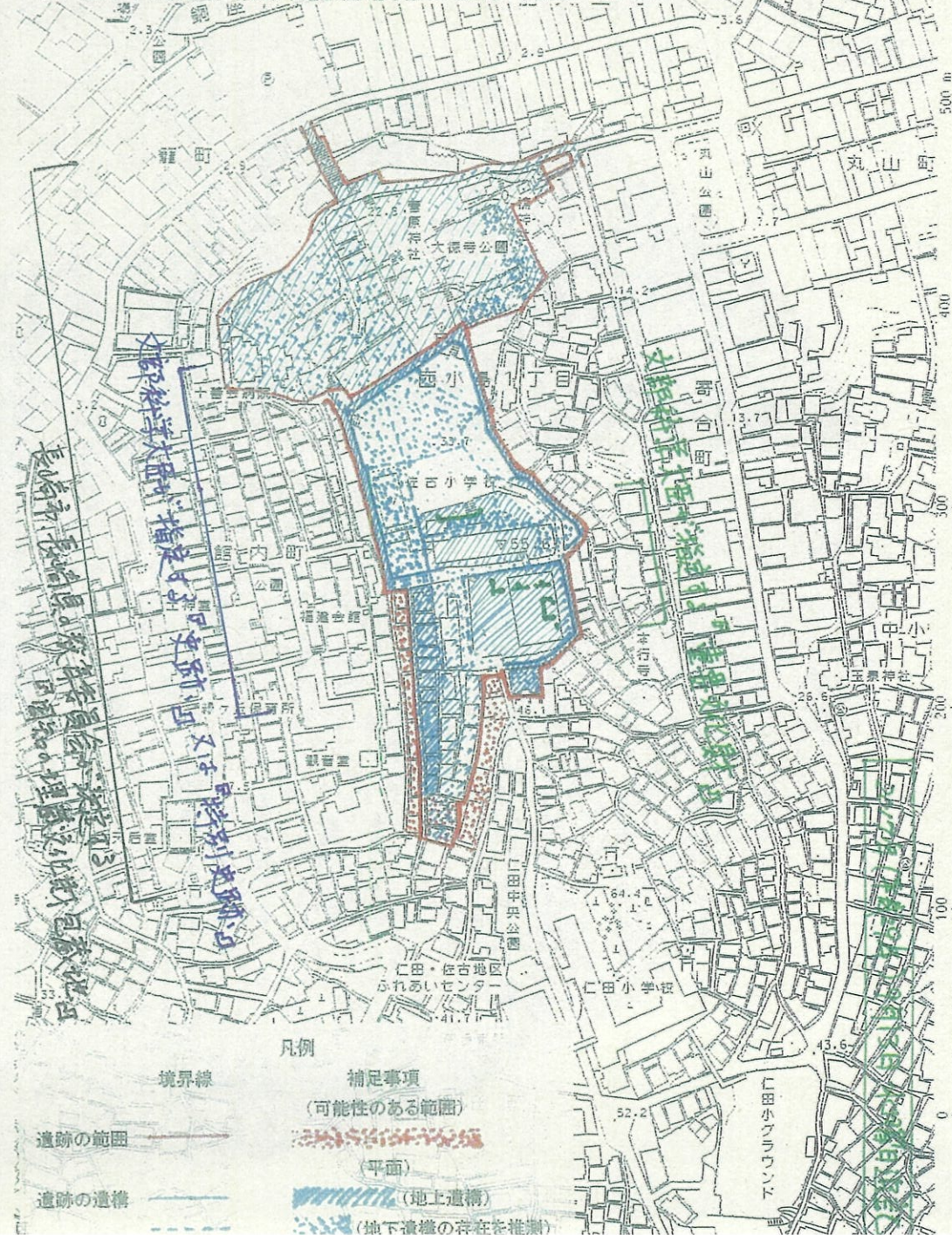
現存 埋藏 削平

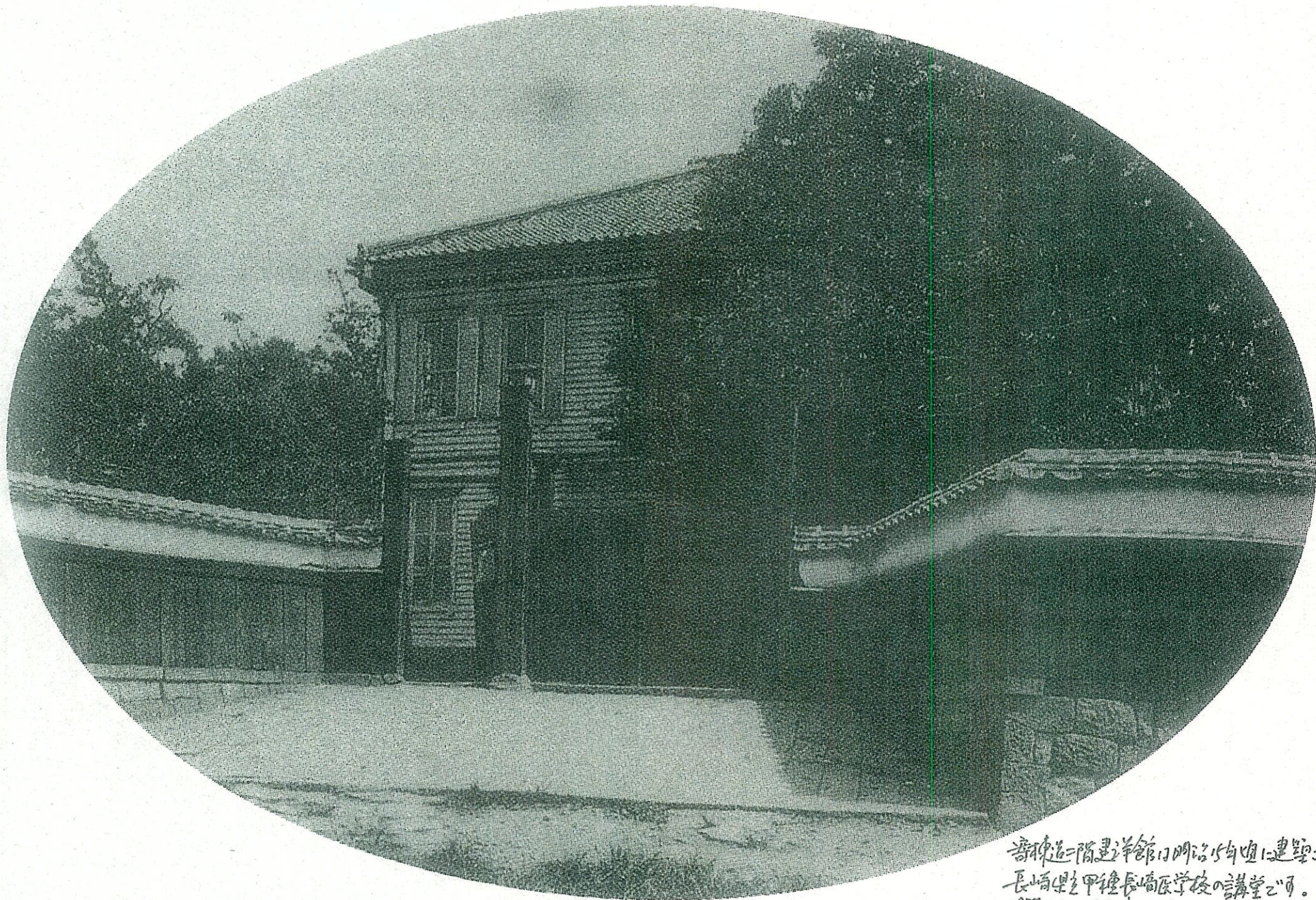


『養生所/(長崎)医学校等遺跡の範囲の概念図』

2017年(平成29年)7月9日 日曜日 養生所を考える会代表 池知和恭

改訂1:2017年(平成29年)7月23日 日曜日:旧大徳寺境内と大楠神社一帯を遺跡の範囲に追加。

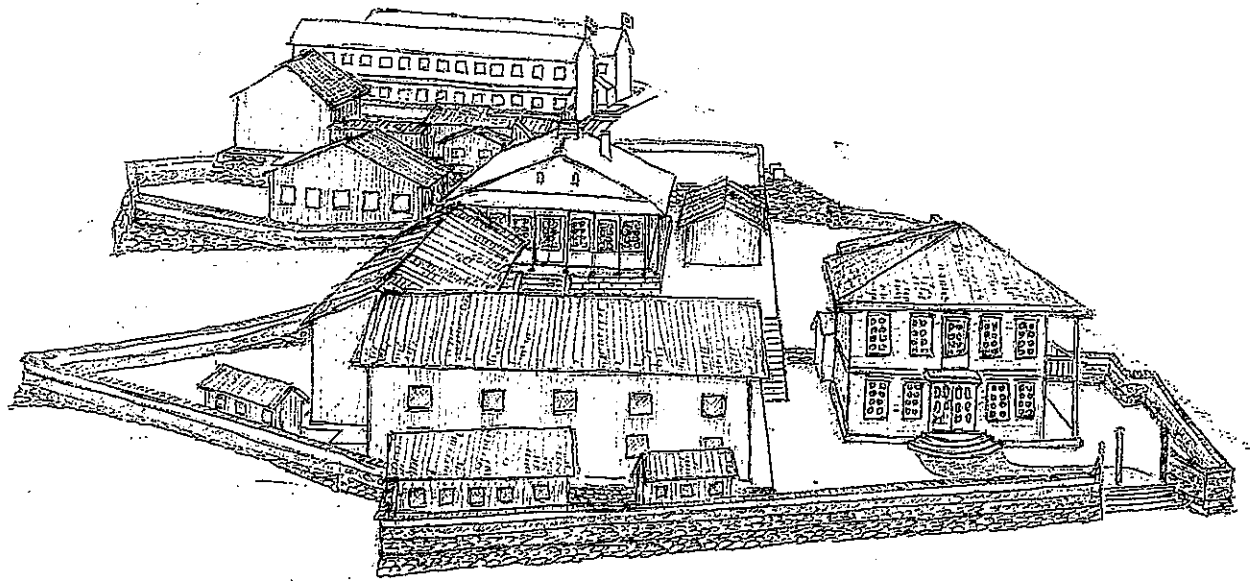




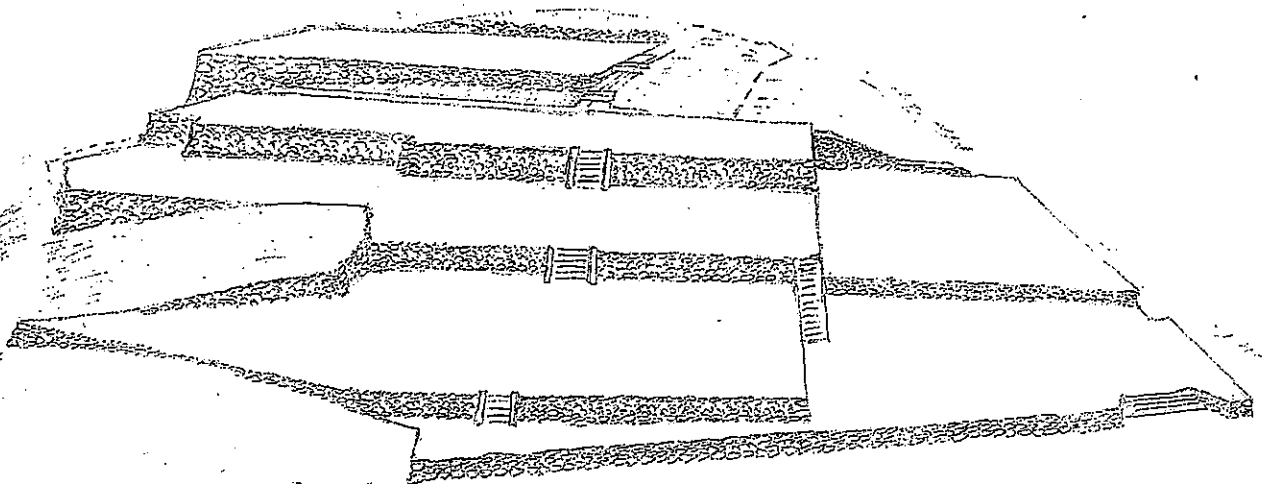
明治24年から明治35年頃までの間に
撮影された写真と推測される。

佐古分校 大正6年(1917)卒業アルバム

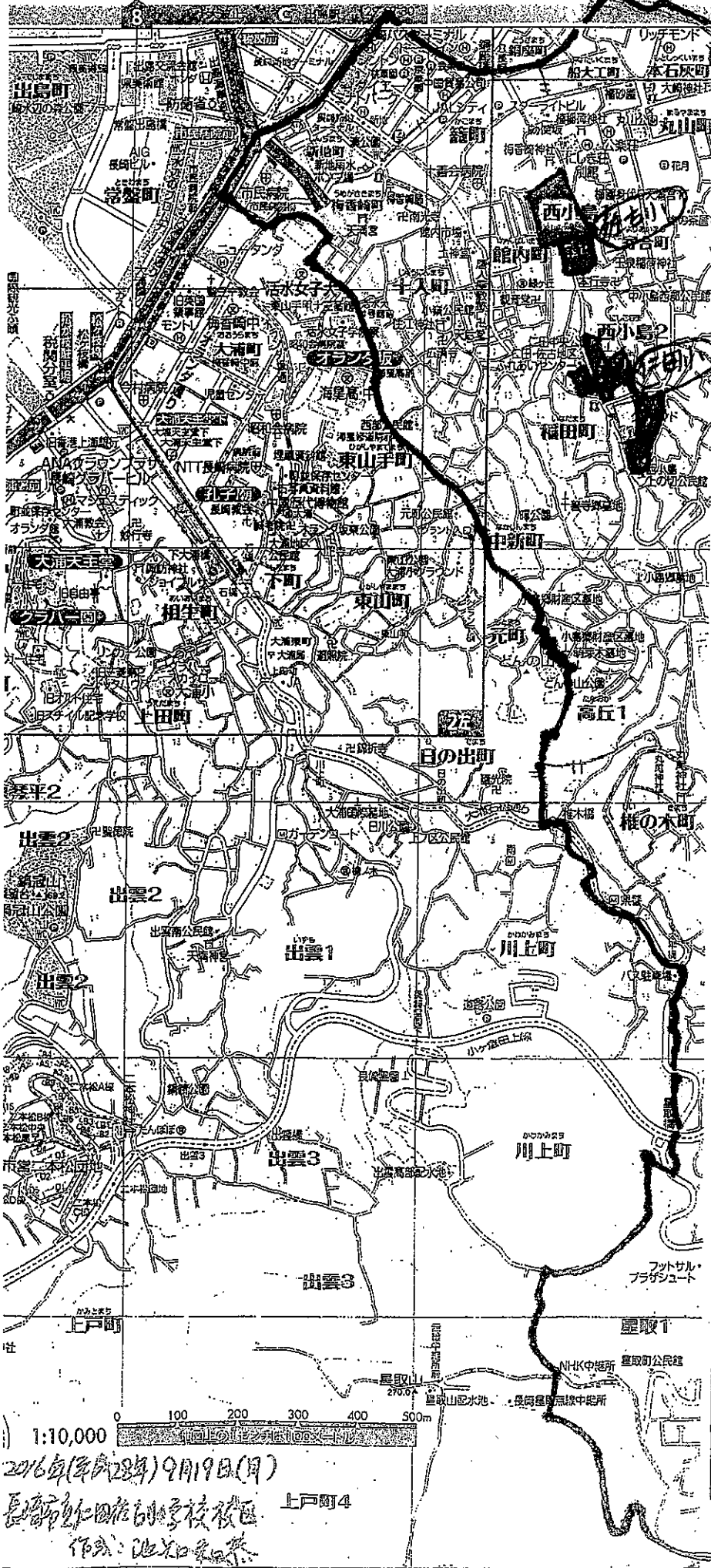
奇形造二階建て洋館は明治15年頃に建てられた
長崎県立甲種長崎医学校の講堂で、
明治24年に医学校が浦上山里村に移転した後
明治35年に明治12年に大徳寺庫裏跡に建てられた
長崎病院が浦上山里村に移転して、敷地と
築造、旧倉庫を改装して、今も使われている。



姓名: 王宇 性别: 男 出生日期: 2000.12.17 身份证号: 36010320001217001 民族: 汉族 籍贯: 江西九江 学历: 本科 学位: 学士 专业: 计算机科学与技术 研究方向: 人工智能 导师: 张明 联系电话: 13807911234 电子邮箱: wangyu@163.com 联系地址: 江西省南昌市红谷滩区红谷中大道1666号 邮编: 330000

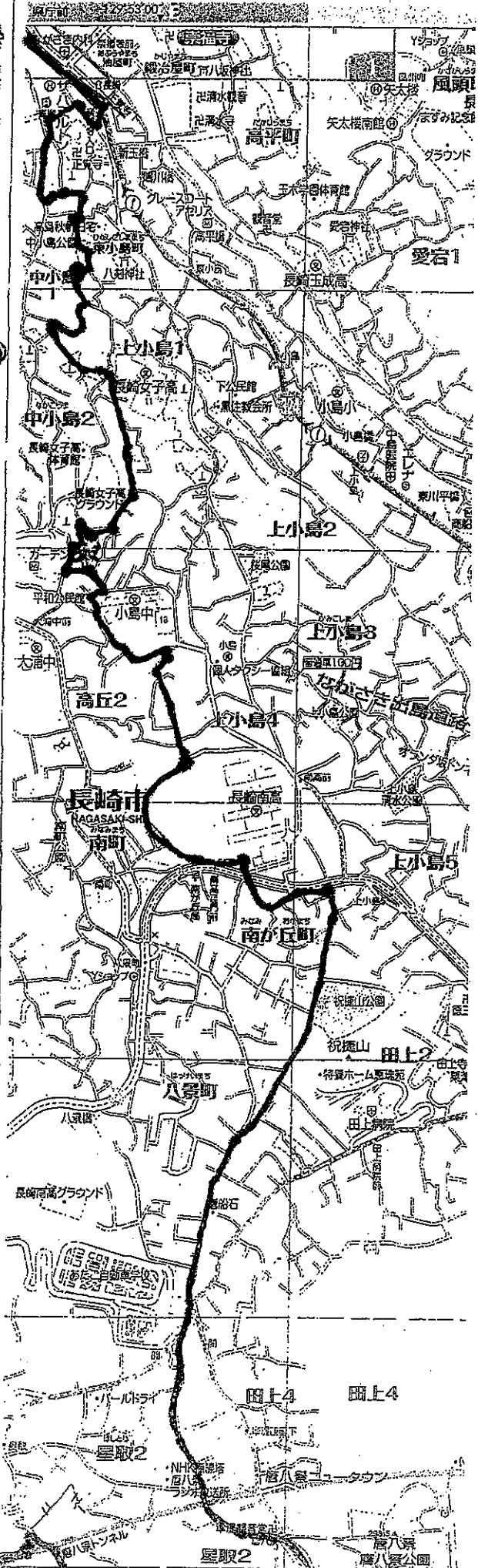
[illegible]

- | | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| ① 国道 | ② 私鉄 | ③ 町村役場 | ④ 病院 |
| ⑤ 主要地方道 | ⑥ 地下鉄 | ⑦ 出張所 | ⑧ ホテル・旅館 |
| ⑨ 一般府県道 | ⑩ 市区町村界 | ⑪ 警察署・交番 | ⑫ 銀行 |
| ⑬ 主な幹道 | ⑭ 町・大字界 | ⑮ 消防署 | ⑯ 神社 |
| ⑰ 一般道路 | ⑱ 丁目界 | ⑲ 郵便局 | ⑳ 寺院 |
| | | ㉑ 官公署 | ㉒ 工場 |



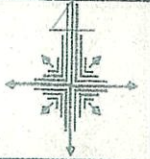
1:10,000
2016年(平成28年)9月19日(月)
長崎県立田原小学校校図
作成:池口口口

- | | | |
|-------------|----------|---------------------|
| ① スーパーマーケット | ② 信号機 | ③ いろいろな情報を探そう |
| ④ レストラン | ⑤ 一方通行 | ④ グルメ |
| ⑥ マンション・寮 | ⑥ 右左折禁止 | ⑤ ホテル |
| ⑦ 街区符号・地番 | ⑦ 高さ制限 | ⑥ ショップ |
| ⑧ 一般駐車場 | ⑧ 踏切 | ⑦ http://k.maple.jp |
| ⑨ トイレ | ⑨ 事故多発地点 | |



明治時代初期「醫学校境内全圖」

- H29年5月調査
- H29年7～8月調査
- H29年8月調査
- 究理所石垣ライン



※現地見学をご希望の方は、本紙連絡先まで、ご連絡下さい。
私達は、現地見学をご希望の方が集まれば、長崎市に見学の申し入れを致します。
日程、案内者、見学コース等の詳細については、改めてご連絡致します。

分析究理所建物遺構及び敷地石垣検出状況

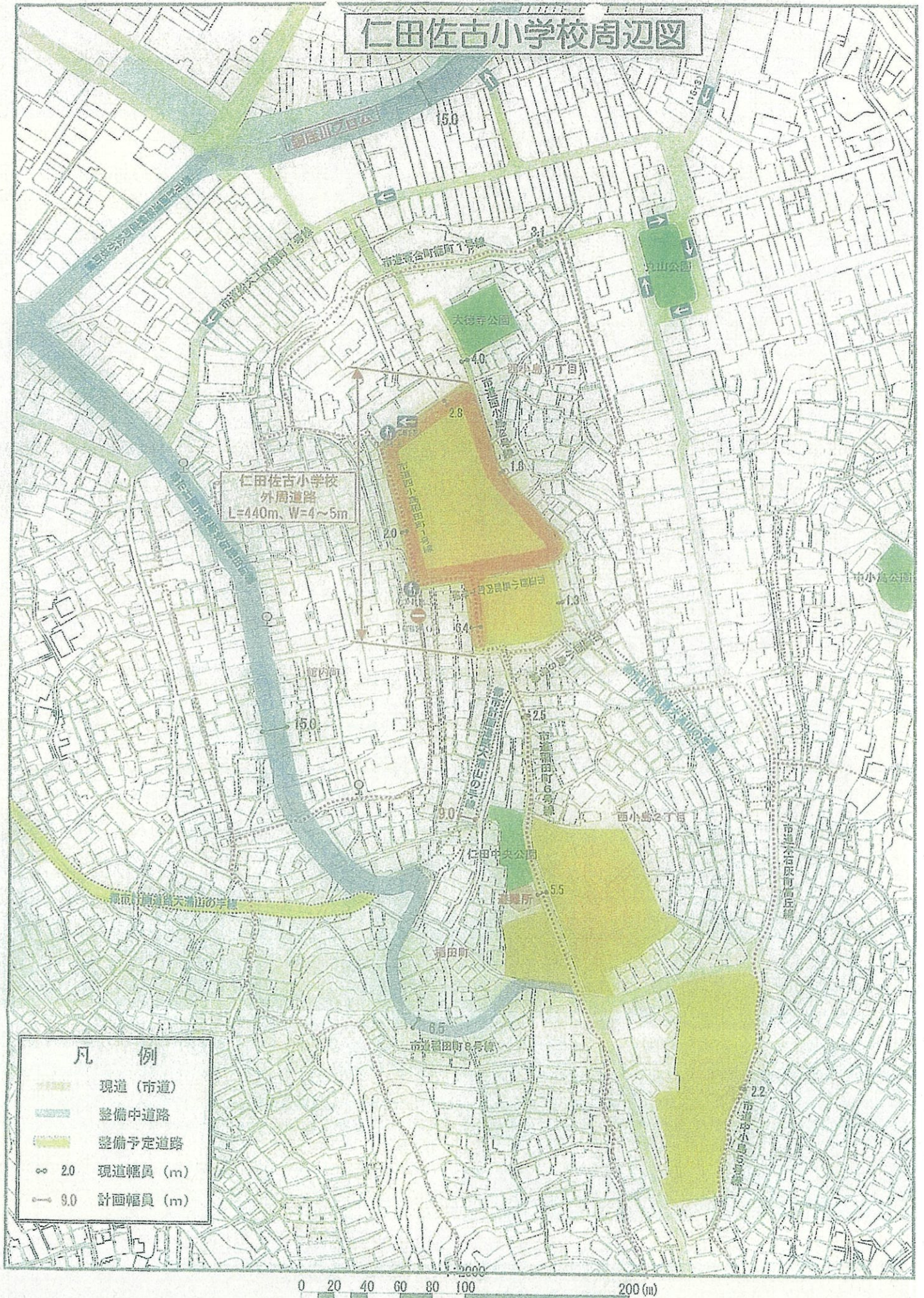
縮尺 1:500

0 25m

(A3紙サイズをA4紙サイズに縮小しています)

作成:池知 和泰

仁田佐古小学校周辺図



県立大・佐野教授 記念講演要旨

出島から考える「開国」

「長崎史観」推進を



「出島から考える『開国』」をテーマに講演した佐野教授
＝長崎市出島町、県美術館

〈長崎市出島町の出島和蘭商館跡の「出島表門橋」が25日から一般供用されるのを前に、県立大地域創造学部の佐野真由子教授が4日、同市で「出島から考える『開国』」と題し記念講演した。要旨を紹介する〉

幕末の1859(安政6)年に横浜、長崎、函館の3港が開かれたのに合わせ、初代駐日英国大使ラザフォード・オールコックが着任した。彼は後に「大君の都」という本の中で、最初に寄港した長崎の様子を紹介している。その具体的な記述を通して、当時の状況がいくつかわかってくる。

一つは、出島は西洋文明を吸収する窓口であると同時に、海外に向けた日本の情報発信拠点でもあったという点だ。オールコックは、過去の出島商館員らの「回想録」などを来日前に読んでおり、日本のことも意外とよく知っていた。

次にオールコックは中国で長年勤めた後、日本へ異動した事実である。英国外務省の当時の人事資料を見ると、極東外交の一環で日

日本の情報発信拠点

本と中国のオペレーションを一体的に考えており、欧米側にとつて日本の「開国」は、極東外交の一部局の増設にすぎなかったのだ。

開国期に来日した欧米人は例外なく日中を比較する視点も持っていた。外交史を考える際、日本と欧米という視点だけではなく「東アジアにおける日本」という視点を持たないと実態を見落としてしまうだろう。

では長崎の経験は国内でどう位置づけられていたか。3港開港前の57年、幕府は貿易拡大に向け出島で

貿易調査をした際、開国論を唱えていた幕府きつての秀才、岩瀬忠震を派遣した。その結果、出島の会所貿易を踏襲する形で江戸に近く大型貿易もできる横浜の開港が提案されたのである。

オールコックの長崎関連の記述には「鎖国からの開国」と語られてきた幕末史の見直しを促す鍵がいくつもある。長崎は常に開かれていた。今も街中でその痕跡に出合うが、まだ十分、長崎の自意識にはなっていないのではないだろうか。53年のペリー来航、54年の日米和親条約、59年の3港開港をもって「開国」が語られがちだが、それは横浜や江戸を中心に考える「横浜史観」といえる。19世紀の国際関係史で長崎は格別の存在だ。長崎を起点に見れば日本史、世界史、東アジア史は違ふものになってくる。それを「長崎史観」と呼び推進することを提唱したい。(田賀農謙龍)

文

化

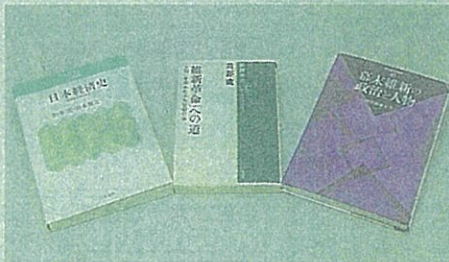
1868年の明治維新を機に日本は近代化の道を歩み始めたといわれてきた。こうした歴史の「断絶」を指摘する見方に対して、近年は「連続性」に重きを置く研究が主流になっている。すでに江戸後期には社会、思想、経済など様々な分野で、文明開化につながる変革があったとの説だ。来年の維新150年に向け、新たな視点に基づいた本が相次いでいる。

「明治維新で政権の形を跡づけた『維新幕府』が、大きく変わった『命への道』(新潮社)の事実。しかし、薩長を今年5月に刊行した東京大学教授(日本政治思想史)の外部直氏(日本政治思想史)の外部直氏は、そこでは明治維新倒したという『幕末維新物語』だと、根本にあっては19世紀の「ロング・リヴォリューション」(長い革命)の「一つの過程と位置づけ」。

より『連続性』に着目すべきだと考えた。江戸時代から明治時代の思想家たちの姿を通じ、社会と思想の構造を長、富永伸基、山片蟠桃

進歩史観へ変化

文明開化の音 江戸後期から



明治維新を捉え直した本が相次いでいる



外部直氏 谷本雅之氏 久住真也氏

新視点の研究相次ぐ

「維新を機に近代化」より「連続性」重視

ら。彼らを通して、古い時代に理想があるとすると儒教の歴史観が揺らぎ、「今」の道に従うべきだという進歩史観に変わる様子を明らかにする。同時に商業活動を肯定する考え方も広がった。それは静かな社会・思想革命といえるだろう。

「なぜ武士が率先して身分制廃止に取り組んだのか」という問いに、新という新しい要素が加

わったが、社会全体が抜本的に変わったとはいえないだろう」と語る。こちらが明治維新に「断絶」ではなく「連続性」をみる見方といえる。

さらにこうした産業へ労働力を供給したのが、馬耕技術を得たことで人材に余裕の出た農家であり、それは「小農経営の労働力配分戦略」に基づいたものだったという。

「日本経済の強みは中小企業の多さにある」と言われる。(源流ともいうべき)小農社会の変遷を調べることは、現代の問題を考えるうえでも役立つと谷本氏は期待する。

久住氏自ら執筆した「政治君主としての徳川家茂」では、若い14代將軍は果敢の君主であったことを紹介している。ほかの論文では開国交渉の最前線に立った幕臣の岩瀬忠震や加賀藩、仙台藩など雄藩の藩主などを取り上げた。そこから「幕府の地ならしの上に明治政府の外交政策などが決まった」(久住氏)という「連続性」が浮かび上がる。

第2巻は明治国家形成期の政治と行政の関係をテーマとする予定だ。

「1868年を特別視するのではなく、明治維新から現在にいたる歴史を俯瞰することが大切なのは」と外部氏。長期的かつ複眼的な視点を持つことが求められていると述べた。

(編集委員 中野悠)

大いなる変化がもたらす思想の変化があったからではないか。徳川時代に培われた価値観が明治時代の西洋文化の受け入れにつながった」と外部氏。

昨年12月に出版した「日本経済史」(有斐閣)は近世から現代まで約400年にわたる日本経済の動向をまとめたものだ。第1章「近世経済」の成立と展開、第2章「移行期の日本経済」第3章「産業革命」と「在来的経済発展」では主に江戸期から明治期までを取り上げ、明治維新が日本経済に及ぼした影響について言及している。

これらの章を担当した東京大学教授(日本経済史)の谷本氏は「17世紀に始まった『小農社会』の持続的な展開が、日本の経済発展を特徴づけた大きな要因となった。19世紀半ば以降の日本経済には幕末の開港、明治維新という新しい要素が加

も経済発展を支えた。経済大国の源流をたどる」と語る。こちらが明治維新に「断絶」ではなく「連続性」をみる見方といえる。

「敗者の徳川幕府は無能で何もやっていなかったのではない」というイメージがあった。もちろんそんなことはなく、幕府が果たした役割は大きい。幕府、藩、朝廷の3者から維新をとらえたいと考えた」と語るのは、明治維新史学会で「明治維新史論集」(有志舎)の編集幹事を務める大東文化大学教授(日本近世・近代史)の久住真也氏。昨年9月に第1巻「幕末維新の政治と人物」が出版された。

文

化

学術書として異例の40万部を超えた奥座勇一著「応仁の乱」(中公新書)に象徴される室町ブームが広がりをみせている。新刊だけでなく既刊の室町本にも注目が集まり、城郭考古学でも成果が見られる。「分かりにくい時代」「戦国につながる無秩序」といった従来の室町観が変化してきた。

9月下旬、京都市の国際日本文化研究センターで同センター助長の奥座氏が「内藤湖南、応仁の乱を論じる」と題し講演。会場は聴衆で満員になった。内藤は戦前を代表する東洋史の大家で、日本史にも多大な影響を与えた。応仁の乱を「日本史上最大の事件」「現代日本を知るには応仁の乱以後を知れば十分」と論じたことが広く知られる。なぜ東洋史家が応仁の乱を論じたのか。奥座氏

は乱の全体像を把握するよりも、奈良・興福寺の僧侶の日記に視点を定め、畿内中心に乱の実態を詳述することに注力。多くの関係者の利害と意思が複雑に絡み合った内乱だけに、定量的測定の

は乱の全体像を把握するよりも、奈良・興福寺の僧侶の日記に視点を定め、畿内中心に乱の実態を詳述することに注力。多くの関係者の利害と意思が複雑に絡み合った内乱だけに、定量的測定の

生き残りに必死
「応仁の乱」と同様、論考の立ち位置を明確にして分かりやすさにつなげたのが同じ中公新書の亀田俊和著「観応の擾乱」。室町幕府の初代將軍、足利尊氏と弟の直義の対立が全国の武士や朝廷を巻き込んだ激しい権力闘争に発展した経緯について読み解いている。

従来、新興勢力が支持する尊氏の執事の高師直を革新派、公家や寺社を尊重する直義を保守派に分けるのが主流だった。だが実際には武士たちは両者の間で離合集散を繰り返して、勝敗は何度も入れ替わった。亀田氏は従来説は図式的すぎて逆に分かりにくい。大半の武士たちは生き残るため、優勢な側に付くことが必死だったことを前提にして考えるべきだと話す。

室町時代は戦乱続きの無秩序な時代というイメージが根強い。「観応の乱」の担当編集者、上林達也氏は「曲がりなり

にも約240年続き、それなりに秩序ある時代だった。戦国時代や幕末で尊重する直義を保守派に分けるのが主流だった。だが実際には武士たちは両者の間で離合集散を繰り返して、勝敗は何度も入れ替わった。亀田氏は従来説は図式的すぎて逆に分かりにくい。大半の武士たちは生き残るため、優勢な側に付くことが必死だったことを前提にして考えるべきだと話す。

室町時代は戦乱続きの無秩序な時代というイメージが根強い。「観応の乱」の担当編集者、上林達也氏は「曲がりなり

にも約240年続き、それなりに秩序ある時代だった。戦国時代や幕末で尊重する直義を保守派に分けるのが主流だった。だが実際には武士たちは両者の間で離合集散を繰り返して、勝敗は何度も入れ替わった。亀田氏は従来説は図式的すぎて逆に分かりにくい。大半の武士たちは生き残るため、優勢な側に付くことが必死だったことを前提にして考えるべきだと話す。

秩序あった

応仁の乱は地方分権

変わる室町観

関連本のブーム続く



室町時代を扱った本に注目が集まる



飯盛城跡には石垣が数多く残る(大阪府大東市)

近世の城郭の起源？
信長の手法先取りか

城郭考古学の分野で注目されるのが大阪府の大東市と四條畷市にまたがる飯盛城跡だ。室町初期、標高約300mの山地に築かれた山城で、室町末期の1560年、畿内を支配した三好長慶が本拠地として整備した。両市の現地調査で昨年までに33カ所の石垣跡を

確認。航空レーザー測量で城跡が東西400m、南北650mの規模と判明し、曲輪跡と見られる地形も多数読み取れた。飯盛城へと居城を移しており、この意味からも信長の手法を先取りしていたと言える。(大阪・文化担当 田村広済)

信長は領土の拡張に合わせ尾張から岐阜、近江へと居城を移し、権力基盤を強化した。長慶も摂津から堺や奈良により近い飯盛城へと居城を移して

信長の手法を先取りしていたと言える。(大阪・文化担当 田村広済)

文

化

16世紀末に豊臣政権が各地に築いた城郭跡で新たな遺構が相次ぎ発見されている。徳川の天下となった後、「豊臣の城」はほとんどが取り壊され、その姿には未解明の部分が多い。調査や研究が徐々に進展し、江戸時代につながる城郭の発展過程が明らかになりつつある。

京都市伏見区で今年、深さ3〜4メートル、幅5〜7メートルの溝が発見された。これは本丸の遺構と判断された。

発展過程表す

秀吉が築いた大坂城や聚楽第と同じ五七桐や菊の文様を描いた金箔瓦など、100点以上の瓦類も同時に出土した。石垣が粗い加工のまま自然石を積み上げた「野面積み」であることも、大坂城や聚楽第と共通する。これまで指月伏見城は場所すら特定できず、実在を疑う見方もあった。

「この城は「天守台だけ築かれ、天守は建てられなかった」との説もあったが、礎石の発見が決め手となり、16世紀末には天守が構えられていたことが確定した。建造主は秀吉の弟で大和を治めた豊臣秀長が、その後任の増田長盛とみられる。

長盛は関ヶ原の戦いで西軍について徳川勢と敵対したため、改易されている。その際に天守は取り壊されたようだ。

同志社女子大学の山田邦和教授(考古学)は「位置が特定できたのは大きな成果」と指摘、石垣の遺構を元に「石の加工技術が発達し、江戸時代に向けて個々の石が巨大化する過渡期に位置づけられる」と分析する。

奈良県大和郡山市にある大和郡山城跡の天守台(石垣を築いた天守の台)に天守が広まっていたことが物語る。

消えた豊臣の城実像に光

大和郡山城 天守の存在が判明 指月伏見城 石垣跡で場所特定

ていたこと
も判明した。
聚楽第に
天守はあっ
たのか。天守がそびえる姿を描いた絵図が何点か残るものの、専門家の意見は割れている。「あった」と考える中井均・滋賀県立大学教授(城郭史)は、大和郡山城や富山城など、その後には数多く築かれた城郭を根拠に挙げる。

始まり、秀吉が発展させた。豊臣政権は当時、最大規模を誇った大坂城を

(大阪・文化担当 田村広司)

研究が大きく進んだ。一連の成果を基に京都府教育委員会などが作成した推定平面図によると、本丸は東西400メートル、南北600メートルほどの長方形。江戸時代初期に建造された現在の二条城をしのぐ規模だ。北、西、南の各面には馬出し(城の出入り口を土塁や堀で囲った防御施設)が付随した。

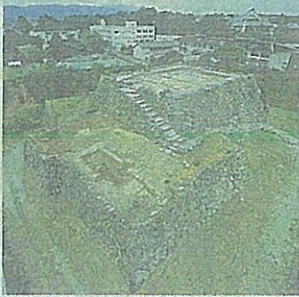
政庁とした城郭、聚楽第跡(京都市)でも発掘と研究が進む。秀吉の失脚後、秀吉の手で徹底的に破壊され地上に痕跡は一切残っていないが2012年、本丸南の堀と見られる石垣が東西約32メートルにわたって見つかった。聚楽第跡で発見された遺構では最大規模で、往時の姿に関する

に馬出しが付随する、聚楽第と類似した構造。その本丸の四隅のいずれかには天守を置く。「聚楽第は平地の城としてひとまずの完成を見た。その後の平城のモデルになったでしょう」

土塁を巡らせた中世までの山城に対し、本格的な天守や高い石垣を備えた近代城郭は織田信長に

指月城、大和郡山城、聚楽第の3つの城跡には石垣や構造など共通点が多い。「秀吉の城の集大成といえる大坂城から数多くの城が派生し、徳川政権に引き継がれた。その流れの川上に3つの城は位置づけられる」と中井教授は指摘する。

平城のモデルに
いずれも長方形の本丸



天守建造の証拠となる礎石が出土した奈良県の大和郡山城跡。大和郡山市提供



推定された聚楽第の位置
馬出し
本丸
馬出し
京都御所
京都府庁
二条城
千本通り
堀川通り
烏丸通り
今出川通り
丸太町通り

文

化

戦国時代、群雄割拠した大名は全員が天下統一を狙って京を目指したわけではない。アジアに目を向けた西国の大名たちの活動の様子が、近年の歴史研究で明らかになっている。日本産の硫黄や銀がアジアを流通した結果、一部の大名は対外貿易に乗り出した。外国人が住む国際都市も国内に出現。国盗りだけに終始しなかった国際派大名の実像が見えてきた。

大名、大友義興(宗麟)の家臣が薩摩(鹿児島)の島津氏の家臣に送ったもので、関連する文書などから1573年に書かれたと推定される。

「この時期、大友氏は自ら船を仕立てて南シナ海の先のインドシナ半島にまで派遣していた。今年9月に『アジアのなかの戦国大名』(吉川弘文館)を出版した名古屋学院大学教授の鹿毛敏夫氏はそう指摘する。

1578年ごろ、カンボジア国王が宗麟に銅銃やソウを贈ろうとするが、島津氏は贈答品を載せた船を抑留。79年には

島津義久が同国王に書簡と贈り物を送っている。16世紀後半、アジアに目を向けたのは大友氏や島津氏だけではない。肥後(熊本県)の相良氏は中国の明に船を派遣。肥前(長崎県)の松浦氏はシャム(タイ)の国王に書簡を送っている。

では西国の大名はなぜ活発な貿易活動を展開できたのか。注目されるのが硫黄や銀だ。硫黄は火薬の原料として主要輸出品の一つ。大友氏や島津氏の領地で採れ、産地には人が集まり関連産業も栄えた。「サルファー(硫黄)ラッシュ」だ。

天下人にも影響。16世紀前半には「シルバールッシュ」に沸く。西国の有力大名だった大内氏が主導して石見銀山(島根県)を本格開発。日本産の銀は瞬く間に海外に流出し、東アジアの「国際通貨」になった。

「石見銀山が東アジアの貿易構造を大きく変えた」と話すのは、7月に「天下統一とシルバールッシュ」(吉川弘文館)を出した名古屋学院教授の本多博之氏。西国大名の積極的な対応によって進んだ東アジアの貿易構造の変化は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった天下人の経済政策にも影響を及ぼしたという。

品の一つ。大友氏や島津氏の領地で採れ、産地には人が集まり関連産業も栄えた。「サルファー(硫黄)ラッシュ」だ。

天下人にも影響。16世紀前半には「シルバールッシュ」に沸く。西国の有力大名だった大内氏が主導して石見銀山(島根県)を本格開発。日本産の銀は瞬く間に海外に流出し、東アジアの「国際通貨」になった。

「石見銀山が東アジアの貿易構造を大きく変えた」と話すのは、7月に「天下統一とシルバールッシュ」(吉川弘文館)を出した名古屋学院教授の本多博之氏。西国大名の積極的な対応によって進んだ東アジアの貿易構造の変化は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった天下人の経済政策にも影響を及ぼしたという。

西国大名がアジアとの交易に乗り出すと、中国やヨーロッパの商人の日本進出も活発になる。例

えは中国人は九州を中心に西日本各地に「唐人町」を形成。大友氏の本拠である豊後府内(大分市)では、唐人町に住む中国人らしき名前の人物が近隣の町人と連れだって伊勢神宮に参詣したとの記録が残る。「マイノリティ集団として孤立することなく、近隣に住む日本人とも交流を深めていた」(鹿毛氏)のだ。

一つはアジアとの結びつきの前段にあつたのが明との勘合貿易。室町幕府3代将軍足利義満の時代に始まり、15世紀後半、幕府の衰退とともに勘合貿易の実権は、堺商人と結んだ有力大名の細川氏や博多商人と組んだ大内氏の手に移り、後に

大内氏が独占する。通説では16世紀半ばに大内氏が事実上滅亡すると勘合貿易も断絶したとされる。だが、相良氏、大友氏や大友家の養子が後を継いだ新しい大内氏らが遣明船を派遣。海賊ではなく多国籍の海商集団といえる後期倭寇の活動とも相まって、公的な往来に代わる私貿易・密貿易で物流の規模はむしろ拡大した。と近年の研究では考えられている。

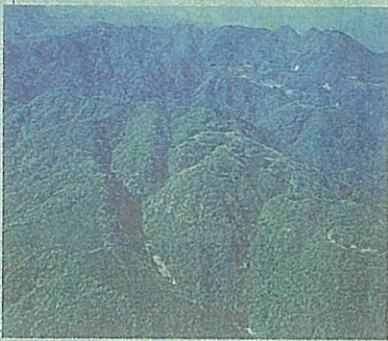
日明関係については、立正大学教授の村井章介氏を中心とする学際的な共同研究の成果が、10月に「日明関係史研究入門」(勉誠出版)として刊行された。副題は「アジアのなかの遣明船」で、対象は2国間の関係にとどまらない。

学界では1990年代以降、東アジア海域史研究が活発化。日本という国の枠を超えた視点からの研究が盛んになっている。中世日本の対外関係史研究を牽引してきた村井氏は「中世だけでなく、一國史という枠組みにとられずに日本の歴史をとらえる必要がある」と話している。

(文化部 神谷浩司)

戦国の世に

国際派大名あり



- 硫黄や銀で交易
- 西国に外国人街

大友宗麟の家臣が島津氏に送った書状(部分、東京大学史料編纂所蔵、島津家文書)と東アジアの貿易構造を要した石見銀山(島根県、大田市教育委員会提供)

昭和八年(1933年)九月二十二日 金曜日 長崎日々新聞 朝刊2面 第三版

『西洋醫學の發祥地』 小島病院を史蹟に文部省へ指定方を

長崎市西小島町縣立小島病院は、和蘭醫學華やかかなりし頃の長崎養生所の跡として、本邦病院創成の根源、長崎醫科大學及び病院の濫觴をなし、實に本邦における西洋醫學發祥の地として長崎が天下に誇るに足る名史蹟とされ夙に識者間に之が史蹟指定の機が擡頭してゐたが、二十日日本縣社寺兵事課より史蹟名勝天然記念物保存法に依り、史蹟として指定方を、願書、地籍圖、實測圖、見取圖、寫眞等を添え、文部大臣宛申請した。史蹟長崎養生所跡は、現在の縣立小島病院、佐古小學校、大徳園に亘る一帯を占むるものであるが、その沿革の概要を記せば左の通りである。(以下、沿革を紹介し省略)

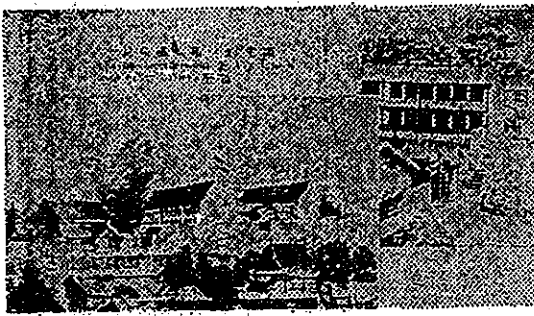
西洋醫學の發祥地

小島病院を史蹟に

文部省へ指定方を

長崎市西小島町縣立小島病院は、和蘭醫學華やかかなりし頃の長崎養生所の跡として、本邦病院創成の根源、長崎醫科大學及び病院の濫觴をなし、實に本邦における西洋醫學發祥の地として長崎が天下に誇るに足る名史蹟とされ夙に識者間に之が史蹟指定の機が擡頭してゐたが、二十日日本縣社寺兵事課より史蹟名勝天然記念物保存法に依り、史蹟として指定方を、願書、地籍圖、實測圖、見取圖、寫眞等を添え、文部大臣宛申請した。

結果、幕府も大に賛成し、安政六年直ちに長崎代官清水作重卿門に命じて敷地を選定せしめた茲に於てボンベは當時新たに渡來した海軍傳習所教官トローニンに其の設計を依頼し、彼國の軍醫兩院及び市民病院の制度を參照して萬延元年の時の長崎市小島町橋前庄に、北十五間、東西十七間の敷地を選定し、養生所なる建築物を設立した。此の養生所は主として市場民の救護を目的とする病院であつたが、文久三年ボンベは更に幕府に乞ふ



て養生所の敷地に更に醫局所なるものを併置することをなつた。即ち我國醫學學校の濫觴と稱すべきである茲に於て松本良順を頭取にボンベを内科外科の教頭に任命し同年八月十六日開院式並に開校

式を舉行し、直ちに業務を開始したが本邦に於ける醫局設置の如きも實に此時代に始められたものである。其後文久二年に至りボンベが歸國したため新たに國人ボードキンをして之に代らしめたが、このボードキンの學識と徳性は共に世に敬慕する所となり、其の教を乞ふもの益々多くなり、其數は約千名に達したと云ふ。又同年松本良順を辭して歸國したので、八木彌平、戸塚玄海相次いで其の任となつた。其後慶應元年長崎奉行服部左衛門佐の養生所を以て精進館と改稱し、分析生理(化學局)の一棟を増設することとなり、國人ハラムを聘してその主任教師とした。其後明治元年維新の際九州鎮撫使榎村右衛門佐の醫學の素養を愛ひ、判官井上聞多をして精進館を修理せしめ、同年十月之を長崎府醫學校と改稱し、長崎府立大學と改稱し、新に規定を設け大學小學の二科を設け、外人を以て教師

とし同二年更に教養、幾何、物理、化學等の教授をたしめた明治四年文部省の所管となり、大に組織を改め校長を長崎府學校司改稱し定額制或萬國を支給した。明治七年征韓の役あるに際し學校を廢止して舊地、務局病院としたが、八年右事務が一應終局すると同時に是等建築物は長崎縣の所轄する所となり、茲に再び醫學校復興の機あり、結果長崎府立大學なるものを設置し、吉田興隆を院長とした同九年同府内に醫學部を開設し生徒を募集すると同時にその一部に長崎縣醫院を置くことになつた。同十一年一月この醫學部を長崎府醫院附屬第一醫務病院と改稱した。同十二年醫學部を廢止し生徒の府立所とした。同二十二年徵韓病院を長崎府醫院と改め、更に三十四年府立醫院と改稱し、大正七年縣立小島病院と改稱今日に至つたのである。(應氏は長崎養生所)



EV普及の条件

中国加速、日本は遅れ ③



米携帯 単独再建へ

ソフトバンク交渉打ち切り ⑤

日本経済新聞

11月6日

月曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 03-5270-0251
〒100-8086 東京都千代田区大手町1-3-7
大塚支社 03-7639-7111
名古屋支社 052-243-3311
西田支社 092-473-3300
札幌支社 011-281-3211

化学とデザインで面白いこと
アイカ工業

http://www.aica.co.jp

購読のお申し込み
0120-21-4946
http://www.nikkei4946.com/

日経電子版
http://www.nikkei.com/
お問い合わせ(7:00-21:00)
0120-24-2146

クールジャパン過半未達

国の成長戦略の一つ、日本文化の輸出を奨励するクールジャパン(CJ)戦略が、機軸が揺るがない。発足から丸4年の投資24社中、決定後1年を超す事業の過半が収益などの計画を達成できていないことが日本経済新聞の調べで分かった。経営陣の強い意向から慎重論を退けて投資した結果、損失リスクを抱える事例が相次ぐ。「まず投資ありき」の姿勢がクールジャパンの戦略なき膨張を招いている。(関連記事3面)

戦略なき膨張 規律欠く官民

CJ機構の出資先は過半が計画未達

出資先	出資決定額(億円)	現状
イセタン・サ・ジャパンストア(百貨店運営)	9.7	集客や収益低迷
トーキョーオタクモード(ポップカルチャー発信)	15	赤字額が計画より膨らむ
ベトナムの冷蔵物流施設	7.35	稼働率低迷。収益計画は未達
アニメコンソーシアムジャパン(アニメ海外配信)	10	3月に保有株売却。3億円超の損失
シンガポールの日本食フードタウン事業	7	月次で売上高、損益の計画未達続く
ワクワク・ジャパン(日本のテレビ番組輸出)	44	赤字続き。18年3月期に減損の可能性
グリーンティーワールドUSA(米国で日本茶カフェ)	2.6	出店遅れ。パートナーが提携解消要求
百戦録(民泊仲介)	3	赤字続きで、人員削減や拠点統廃合
シファニーニッポン・インベストメント(外食の中東進出)	3	合併交渉が停滞し、出店できず
グローバル・ネクスト・アトム(外食向け食材加工)	3	中国の工場稼働が遅れる
力の意ホールディングス(ラーメン店「一風堂」)	7	株式上場し、10億円超の株式売却益
サス・エニス(欧州での地域産品販売)	1	16年の売上高、純利益が計画を上回る

(CJ機構の内部資料や独自取材をもとに作成。投資決定後1年以上経過した18案件から抽出。出資決定額は当時の為替レートで換算)

た一関係者。だが大西氏は今春に退任。太田氏は日経新聞に苦戦を認め「いま立て直そう」としていることを明かした。

不透明な案件

アニメや食文化を輸出するクールジャパン戦略。政府は17年度の関連予算を459億円と前年度比22%増とした。中核が海外需要開拓支援機構と、この正統名称のCJ機構。運営期間20年。出資金約700億円の8割超は財政投資で賄う。国を挙げた自国文化の輸出は韓国が先を行く。たどるべき道は、15年の輸出は387億円と日本を3割超上回る。ドラマや家電を韓国製の化粧品や電器をアジアで販売する循環も生まれた。

対抗策の柱がCJ機構だが、計24社、約460億円(決定額)の投資の成果は十分でない。内閣府や関係者の証言を検証すると、決定後1年以上の18社中、出店や収益が計画を下回る案件が少なくとも10社あった。官民ファンドは民衆負担を避けるため、店内敷の多い。だが不振が自立するのは経営陣と個人的なつながりがある条件だ。「早くやっつけろ」。

CJ機構の海外取組の中心は、海外で展開する老舗ブランドや十八銀行など長崎の地盤の企業。運営と組む米国の日本茶カフェ事業。15年4月に5割、2・5億円を投じた。

この社取組は長崎市のゆかりがあり、長崎連合の中心人物と旧知の仲。機構の元社員は相手の計画や経営能力に疑問があり、一度は断った。と明かすが、復活した。社外取締役は客観的に投資の是非を判断するのが本分だ。日経新聞記者は、この社外取締役と会い、関与の度合いについて聞いた。回答を避けた。O.B.を含む複数の関係者によると、CJ機構では実績作りを急ぐあまり、経営陣の案件持ち込みが常態化していた。

日本茶カフェ事業は苦戦だ。1号店は1年夏に開いたが、店内敷の認可が下りず、持ち帰り専門に。2号店も出店計画が宙に浮く。長崎連合は9月に共同出資解消を求め、民事調停を申し立てた。「機構が過剰に経営に干渉してきた」と主張。スカパー・S.A.Tが66億円、CJ機構が44億円を出資し、日本のテレビ番組を海外で放送するWAKU JAPAN機構の飯島一暢会長

はスカパーの持ち株会社に社外取締役、複数の関係者は「飯島会長の持ち込み案件」と明かす。これも拡大路線がうまくいかず、需要が見込める国を絞り込む。20年度までに22カ国・地域で放送する計画を策定。今は8カ国・地域だが視聴率は伸びず、番組提供収入が振るわない。過去3年間、中立な意思決定をしている。CJ機構は「公正かつ中立的な意思決定をしている」と主張する。投資先と利害関係にある役員は、最終決定の場から外す。だが、検討過程での経営陣の不透明な関与は防げない。最高投資責任者(CIO)のポストも前任が突如辞めた。8カ月間も空席だった。世耕弘成経済産業相も問題視しており「CJ機構の根本的な見直しを指示した」と5月の国会で答弁した。厳密な戦略や投資規律を欠いたままでは、日本文化を広げる前に国の資金を浪費するだけに終わらねばならない。(斎藤雄介)

長崎市条例制定請求書

長崎市の小島養生所等遺跡の完全保存に関する住民投票条例制定請求の要旨

一 請求の趣旨

旧長崎市立佐古小学校に從來存在し、又、発見された現存する養生所等遺跡について完全な調査と保存を行い、当該遺跡地における開発行為である学校建設工事と外周道路拡幅建設工事を行わないことに対する賛否を問う住民投票を実施するための条例制定を請求する。

二 請求の理由

長崎市が旧長崎市立佐古小学校地に長崎市立仁田佐古小学校を建設する決定をしたことは承知しています。しかし、その過程において遺跡や新たに明らかになる学校建設に関わる種々の事象の完全な調査を実施せず又完了しないまま学校建設ありきで進んできたことは事実です。

日本とオランダの国旗が翻る二棟の三角屋根の病棟、文久元年に日本で初めての近代西洋医学による西洋式の附属病院「養生所」と近代西洋医学による体系的な医学教育が展開される医学校である医学所は長崎の高台の小島郷の佐古の丘に創建されました。

幕末の日本には、国立医学学校も伝染患者を隔離する病院もなく人々の健康を守る行政のしくみもありませんでした。来崎したオランダ人医師ボンペ・ファン・メルデルフオートはその状況を打破するために日本の医学・医療の革命の第一歩を踏み出したのです。明治二十四年になり養生所を継承した第五高等学校医学部が浦上に移転したために、明治三十九年に長崎市佐古尋常高等小学校になりました。昭和になり長崎市立佐古小学校は栄えた後、生徒数の減少で学校が立ち行かなくなり、二〇一六年(平成二十八年)四月より二〇〇米程南方の長崎市立仁田小学校と合併することになりました。長崎市は、旧佐古小学校地に両校の合併後の校舎を建てることを決定した後に、当地の発掘調査を発動し養生所・分析究理所・明治期の遺構・異物が発見され、一帯が養生所等の遺跡であることが長崎市民に認識されました。前オランダ・ライデン大学教授ハルメン・ボイケルス氏(現長崎大学教授)はこの遺跡は「出島」と同等の価値があると評価しています。

この旧佐古小学校地を全面的に学術調査して遺跡の価値を明らかにし敷地内と外周道路、遺跡の基盤である土地の造形に於いて一部でも損壊や損耗のない保存を行い、長崎市と長崎市民の象徴とし学校を旧仁田小に建設し、旧佐古小学校地、現代の日本の全ての西洋医学の基盤となる日本で唯一の近代西洋医学の発祥に係わる遺跡として残す賛否を問う住民投票を実地するための条例を請求します。

三 請求代表者

住所 長崎県長崎市籠町一番三十五号 自営業

氏名

高橋 正行

生年月日

昭和二〇年五月二十九日

性別 男性

住所 長崎県長崎市東琴平二丁目八番八号 無職

氏名

鯨島 和夫

生年月日

昭和二十二年一月一日

性別 男性

住所 長崎県長崎市清水町二番二〇号 長崎大学名誉教授

氏名

相川 忠臣

生年月日

昭和十八年三月五日

性別 男性

右のとおり地方自治法第七十四条第一項の規定により別紙条例案を添えて条例の制定を請求します。

平成二十九年九月二十七日

長崎市長 田上富久様

代表者証明書 交付申請

「小島養生所」保存の住民投票求め

長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地(西小島1丁目)で見つかった日本初
の西洋式近代病院「小島養生所」遺構について、市民
団体「養生所等遺跡の完全保存を實現する市民の会」
は27日、遺構の完全保存と
学校建設の是非を問う住民
投票条例の制定を求めるた
め、請求代表者証明書の交
付を申請した。市は28日以
降に交付予定だが、地方自

請求代表者証明書の交付を申請
する高橋さん(右)＝長崎県役所



治法に基づき選挙期間中に
署名活動ができないため、
同団体は衆院選終了後の10
月23日から始める予定。
代表者は、高橋正行さん
(72)ら同会の代表世話人の
全3人が務める。署名活動
の期間は選挙期間中を除く
1カ月以内で、市内有権者
の50分の1(約7200人)
の署名が集まれば、市長に
住民投票条例の制定を請求
できる。市長が条例案を提
出し、可決されれば住民投
票が実現する。

同会は署名活動開始ま
で、遺構を普及させるため
市民向けの勉強会などを開
く予定。目標の署名数は1
万人分としている。

申請後、市役所で会見し
た高橋さんは「学校と遺跡
保存を両立できるとするの
は理解できない」と話した。
(宮本祥太)

小島養生所住民投票 来月23日署名開始へ

市民団体に証明書交付

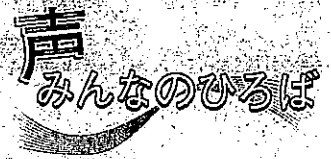
長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地(西小島1丁目)で見つかった日本初
の西洋式近代病院「小島養生所」遺構を巡り、同市は
28日、遺構の完全保存を求
めている市民団体に、住民
投票条例制定を市長に直接
請求するための代表者証明
書を交付、告示した。

市民団体は「養生所等遺
跡の完全保存を實現する市
民の会」。住民投票では遺
構の完全保存と学校建設の
是非を問いたいとしている。
市内有権者の50分の1
(約7200人)の署名が
集まれば、市長に条例制定

を請求でき、市長は意見を
付けて市議会に条例案を提
出する。

通常、告示から1カ月間
の署名活動に入るが、地方
自治法に基づき選挙期間中
は活動できないため、同会
は衆院選投票開票後の10月23
日に開始する予定。

28日、市役所で証明書を
受け取った同会代表世話人
の一人、高橋正行さん(72)
は「速やかに署名活動に移
れるよう準備する」と話し
た。
(宮本祥太)



民生委員児童委員

一ノ瀬成憲(72)

長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地で見つけた日本初の西洋式近代病院「小島養生所」遺構を巡り、市民団体が、遺構の完全保存と学校建設の是非を問いたいとして住民投票を求めています。遺構がどれほどの価値があるのか、歴史的観点でどうなのか、一部の関係者には大それた物と思いますが、私には理解しがたく、過去の物とは思えません。

遺構保存より新校舎建設を

は市側に委ねたようです。また遺構についても市は、新校舎と併存する形で遺構の一部を展示し、残りは埋め立て保存するなどとしています。

遺構の保存と新校舎建設地変更を巡る動きに強い憤りを感じます。将来に期待し、新校舎を心待ちにしている子どもたちのためにも悪影響を与えることがあってはなりません。

いままら新校舎の建設地が変更となれば、地域の人は納得できるでしょうか。私も変更には反対です。今問われているのは、建設予定地に予定通りの新校舎ができるかどうかだと思います。(長崎市)



自営業 高橋 正行(72)

長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地(旧佐古小跡)で見つけた日本初の西洋式近代病院「小島養生所」遺構。この遺構を見て私は感動しました。

養生所は、江戸時代末に幕府に招聘されたオランダ軍医ボンベと松本良順らの動き掛けで開院しました。コレラがまん延した年もあり、数多くの命を救ったのがこの「医学発祥の地」に誇りと自信を深めました。

幸い9月定例長崎市長議会に、長崎大や市民の陳情を受け、新校舎の基礎工事は継続審査となりました。しかし長崎市は、「遺構の一部を保存、学校建設は予定通り」の方針を変えていません。

小島養生所 遺構全体保存を

ん。このままでは貴重な遺構が破壊され、永久に消滅しかねません。

今日の事態を招いた原因は、長崎教委がこの遺構の歴史的価値について、地元の学校建設検討会に十分な情報提供をしなかったことにあると私は思います。遺構に関して「児童のためには学校建設を急げ」との声の一方で、旧佐古小の児童から「私たちを守ってくれた大クスが切られてしまい、悲しい」との声もあります。

私たちは、学校建設の場所を旧仁田小敷地に変更し、遺構全体の学術調査をして国際文化都市にふさわしい万全の対策を求めています。(長崎市)

長崎史談会会員

草場 里見(59)

江戸末期に開院した日本初の西洋式近代病院「小島養生所」の遺構が旧佐古小体育館の敷地内で昨年発見されたのに続き、今年はさらに「分析研究所」の遺構も発見された。

長崎市は、旧体育館の敷地に新体育館を、旧校舎の敷地に仁田佐古小の新校舎を建設することになっている。

市民の中には遺構の完全保存を望む人もいれば、計画通り新校舎建設の早期着工を望む人もいる。私としては折衷案として新校舎は建設予定地にそのまま建設し、体育館は校舎に最も隣接した運動場の端に建設することを提案したい。そして、今の体育館建設予定地にはぜひ小島



計画変更し養生所復元して

養生所を復元してもらいたい。運動場が若干狭くはなるが、

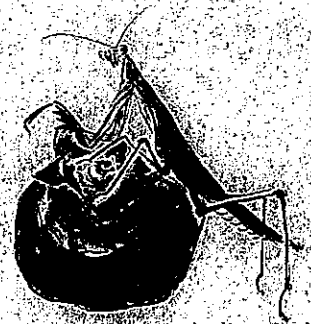
新体育館は高床式にして人が通れるようにすれば、夏に陰の下で運動の休憩ができる。体育倉庫もこの下に造ればよい。

昭和34年に佐古小には学級数が30あったのに対し、現在は14で当時の半分以下となっており、児童数もかなり減少している。運動場が多少狭くなるのはやむを得ないのではなからうか。

民間シンクタンクが今年実施した全国の市区町村別魅力度アングレートで、長崎市は前年の16位から今年23位に後退した。市はもともと長崎の歴史を大事にし、歴史を通して長崎の魅力をアップしてほしい。

(長崎市)

秋山 信義(無職・眞仙正)



柿にカマキリ

民生委員児童委員

山口 広助(47)

私には夢があります。それは、その学校の卒業生として後輩たちに自分たちの街や自分たちの学校の歴史を自慢してほしいのです。

これまで10年以上ゲストディレクターとして旧長崎市立佐古小で地域や学校の歴史を教えてきました。実は私はその歴史を知らずに卒業し、大人になって初めて佐古小の校歌の素晴らしさや記念碑、石垣などにその歴史を感じる事ができました。今思えばこの風土が歴史を好きにさせたのかもしれない。世界遺産にも引きを取らない歴史の上で学ぶ喜び、仁田小と統合して仁田佐古小になった



文化育み 皆が集う「聖地」に

た以降も、この地域で学ぶ子どもたちに熱く語り掛けたいと思います。

文化の伝え方は人それぞれで違います。それが正しいというものではありません。できれば、この場所が「聖地」のように、卒業生のみならず医学関係者が長崎市で学会があった際は必ず足を運ぶ仕組み、またその場所をそこで学ぶ子どもたちが案内する仕組み、全ての人が集う「若葉の杜」になればと思います。

今、子どもたちに何を伝えるべきか。地域が敵対し分断することはないよう、仁田佐古小の子どもたちには文化の中で文化を育む人材になってほしいものです。

(長崎市)

市が学校建設推進文書

小島養生所保存 市民団体は抗議

長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地で見つかった日本初の西洋式近代病院「小島養生所」遺構の完全保存を求める市民団体は6日、同市が学校建設を推進する文書を地元住民に回覧させ「誤った印象を与えている」として、市に抗議した。市民団体は10月下旬から学校建設の是非を問う住民投票を求める署名活動を始めており、「妨害行為」と反発している。

文書は、25人の住民代表でつくる学校建設の懇話会が9月29日に開いた協議内容を市がまとめたもの。市は10月27日に地元の34自治

会長へ文書を送付し、各区での回覧を依頼した。

文書では、協議で多くの委員が建設推進を支持し、一部が遺構の保存を求めたとしながらも「懇話会の総



市の担当者(左端)に抗議文を手渡す市民団体のメンバー。長崎市役所

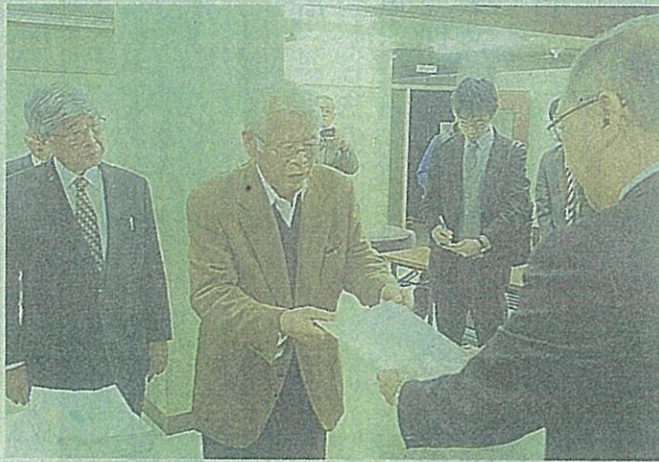
意としては早期の学校建設を推進してほしいとのことであった」と紹介。また9月の市議会でも市文化財審議会会長が「(遺構は)さほど珍しいものではない」と発言したことを記載したが、同28日の同審議会でも「残すべき価値がある」とされた見解は、懇話会に報告せず文書にも載せなかった。

市民団体の鮫島和夫代表世話人は6日、市役所を訪れ、市の担当者に抗議文を提出。抗議文で「学校建設の推進は懇話会の総意ではない。遺構に対する低い評価だけ紹介している」と主張した。

市側は「文書は懇話会の協議結果をまとめただけ。抗議内容を精査し対応を考える」としている。

(田下寛明)

「小島養生所」保存 住民投票求め 1万6889人分 署名提出



期待される一方、無許可営業や騒音などのトラブルが問題視され、来年6月には、家主に宿泊者名簿の作成などを義務付ける住宅宿泊事業法が施行される。

署名簿と関係書類を提出する高橋さん(中央)

＝長崎市選挙事務局

長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地(西小島1丁目)で見つかった日本初の西洋式近代病院「小島養生所」遺構の完全保存を求める市

民団体は17日、完全保存の是非を問う住民投票条例の制定に向けた署名1万6889人分を市選管に提出した。市選管が今後審査し有効

な署名数を確定させる。条例制定の直接請求に必要な市内有権者の50分の1(約7200人)を上回れば、田上富久市長は地方自治法に基づき、市議会に条例案を提出しなければならない。

市民団体は「養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会」(代表世話人・高橋正行さんら3人)で、10月23日から署名を集めていた。同市大黒町の市選挙事務局で署名簿を提出した高橋さんは取材に「多くの市民が遺構の大切さを理解し、署名をしてくれた。市や市議会はしっかり受け止めてほしい」と話した。

(宮本宗幸)



「お答え」

「小島養生所」遺構について

長崎市文化観光部文化財課長

大賀 史郎

長崎市教委施設課長

岩永 浩

本欄でこれまでご意見がありました表題の件についてお答えします。

長崎市は、旧佐古小学校敷地内で発掘調査を行い、日本初の近代洋式病院である小島養生所に関する石垣、玉砂利などの遺構が見つかった。体育館側の敷地を、既に市の史跡に指定し、遺構は保存することとしています。

一方、校舎・グラウンド側の敷地

では、分析研究所跡の礎石や排水溝など、過去の土地掘削などで破壊された遺構の一部が見つかり、分析研究所などの存在や位置を確認することができました。これらの遺構は、埋め戻しによる現状保存を基本としますが、新校舎建設の支障となる部分は、精度の高い記録をとって取り除き、その活用を努めます。

学校建設に伴い体育館には、十分な広さの展示室を併設し、分析研究所や医学科を含む小島養生所などの遺構や資料などを展示する予定です。関係者と協議の上、子どもたちが近代医学発祥の地で夢を持って学べるよう、校舎と遺構の併存に取り組んでまいります。

小島養生所保存

「署名運動妨害」と告訴

市民団体が長崎市長らを

長崎市立仁田佐古小の新校舎建設予定地で見つかった日本初の西洋式近代病院「小島養生所」遺構の完全保存を求める市民団体は22日、住民投票条例制定に向けた署名期間中、市が学校建設を推進する趣旨の文書を地元住民に回覧させた行

為は地方自治法が定める「署名運動妨害」などに当たるとして、田上富久市長と関係する課長ら職員6人の告訴状を長崎地検に提出した。

長崎地検は記載内容を確認した上で受理するか判断する。回覧文書は地元住民でつくる懇話会が9月29

日に開いた協議の内容を市がまとめた。市が10月27日に同小校区内の34自治会長へ送付し回覧を依頼した。同会は10月23日から署名活動を開始していた。

告訴状などによると、署名活動開始に合わせて文

書が送付され、地域住民の署名を思いとどまらせたと指摘。また、文書に協議の内容と異なる記載をし建設を進める意向を反映させたとして、虚偽公文書作成など四つの罪に当たるとする。

市民団体の鮫島和夫代表世話人は「署名のお願いをしたときに『市の文書が来ているから協力できない』というところが実際に起こった。明らかに妨害行為」と話した。市は懇話会から協議内容の伝達を依頼され「妨げる意図はない」としている。(宮本祥太)

小島養生所遺構の保存問題

報道部・田下 寛明

旧佐古小敷地と
小島養生所の主な遺構の配置図



住民投票 実施なるか

「分析研究所」発見で状況一転
改めて問われる価値

ニュース 最前線
ながさき

2015年秋、長崎市西小島1丁目の市立田佐古小の新校舎建設予定地、日本初の西洋近代病院とされる小島養生所「の遺構が見つかった。長崎大学病院の歴史とされ、市民団体は完全保存を求めているが、市側は新校舎と併存する形で一部を展示し、残りは埋め戻して保存する方針を崩していない。市民団体側は住民投票を求める動きに踏み切り、早ければ11月定例会で条例案が審議される見通しとなった。同市初の住民投票となるか、経緯と論点を整理した。

今年11月1日、田下寛明市長は長崎大の片峰茂孝長(当時)と市役所接室で向き合った。市長は、文化庁との協議の進展、遺構の調査状況は残存状況から困難と報告し、一部を展示する考えを示した。2人は遺構の活用で協力する

今年11月1日、田下寛明市長は長崎大の片峰茂孝長(当時)と市役所接室で向き合った。市長は、文化庁との協議の進展、遺構の調査状況は残存状況から困難と報告し、一部を展示する考えを示した。2人は遺構の活用で協力する

見方、状況は一転。市は全面調査にかしを切った。市は9月定例会で新校舎の建設を始める議案を提出、分析研究所遺構は建設場所と重なるため、精密な調査を残して取り除く方針を示した。だが、市議会では遺構の価値を認め、長崎大との協議が必要と判断。議案を継続審査した。遺構の価値を問われた市文化財審議会は「残すべき価値がある。ただし、遺構を取り除く建物と建物を建てることは市で判断して決定すべき」と回答。学校建設の可否は明確な意見が出た。

一方、一部保存で一致した市と長崎大との関係は変化。長崎大だけでなく、養育部も保存の要望活動に加わった。市は継続審査の結論を出さず、10月末に臨時会を開き、市議会と水面で交渉したが、大学側との協議がまとまらず、土壇場で保存を断念した。

こうした中、市民団体は今年7月、住民投票条例案制定の直接請求に向けた署名1万8000人分を市選管へ提出。有効署名数は未確定だが、請求に必要な市内有権者の50分の1(約7200人)を超えていた。順調に進めば、11月定例会(27日12月14日)終盤にも条例案が提出される。

今月中旬以降には、地元国会議員や文化庁調査官も現場を非公開で視察。遺構の価値を再確認する動きも出る中、住民投票条例案の議論を通じて、保存の是非が改めて問われる。

新校舎遅れ児童に影響

仁田佐古小 校舎等建設計画地域懇話会

会長 山口 司さん



—長崎市西小島2丁目

「地域住民は養生所をどう評価しているのか。旧佐古小の校舎で、養生所などを源流とする長崎大、医学部ありしと歌われ誇りに感じている。だが、遺構そのものについて、郷土の歴史として大切にきた。懇話会でも遺構の保存方法を議論したが、一部をモニュメント的に残し、新校舎を共存させる方針でまとまった。完全保存を求める市民団体の考えとは価値観が違う。懇話会でも遺構の保存を求める声はあるのは、それは一部、学校統廃合の議論が始まった当初から建設場所

「地域住民は養生所をどう評価しているのか。旧佐古小の校舎で、養生所などを源流とする長崎大、医学部ありしと歌われ誇りに感じている。だが、遺構そのものについて、郷土の歴史として大切にきた。懇話会でも遺構の保存方法を議論したが、一部をモニュメント的に残し、新校舎を共存させる方針でまとまった。完全保存を求める市民団体の考えとは価値観が違う。懇話会でも遺構の保存を求める声はあるのは、それは一部、学校統廃合の議論が始まった当初から建設場所

近代化導いた宝物残せ

完全保存を実現する市民の会

代表世話人 鮫島 和夫さん



—長崎市江戸町

「なぜ小島養生所を分析研究所の遺構の完全保存を求めるのか。養生所と分析研究所はそれぞれ日本の医学と自然科学を近代化に導いており、世界遺産級の価値があると考えられている。遺構を完全保存すれば過去の資料を基に復元も可能で、観光客やコンベンションを誘致する強い動機となる。長崎市の政策とも合致する宝物は残すべきだ。学校建設を急ぐ地元住民は保存運動は歴々と戸惑っている。これまで養生所の歴史的意義が広く理解されていなかった。遺跡発見後に価値が見直され、徐々に行政の地獄にある。

「なぜ小島養生所を分析研究所の遺構の完全保存を求めるのか。養生所と分析研究所はそれぞれ日本の医学と自然科学を近代化に導いており、世界遺産級の価値があると考えられている。遺構を完全保存すれば過去の資料を基に復元も可能で、観光客やコンベンションを誘致する強い動機となる。長崎市の政策とも合致する宝物は残すべきだ。学校建設を急ぐ地元住民は保存運動は歴々と戸惑っている。これまで養生所の歴史的意義が広く理解されていなかった。遺跡発見後に価値が見直され、徐々に行政の地獄にある。

ズーム

小島養生所 江戸幕府の招きで医学教育を任されたオランダ人医師ボネラが1861年に開いた病院。隣にはオランダ人が日本人に近代医学を教えた学校施設「医学所」を配置し、これが後の長崎大医学部につながる。65年にはオランダ人医師ボードインが、化学や物理などを専門的に教える「分析研究所」を新設した。これらが、明治維新前後に日本の近代医学、薬学、自然科学教育の礎となったとされる。

仁田佐古小の新校舎建設 仁田佐古小は旧仁田、佐古両小を統合して2016年4月に設置。現在、児童は旧仁田小学校舎を使用している。長崎市政委員会は地元住民らでつくる地域懇話会などと6年間協議し、新校舎を旧佐古小敷地に建設すると決定。旧仁田小の敷地は3カ所に分かれており、ほぼ1カ所にまとまっている旧佐古小の方が円滑な学校運営ができてきたと判断した。新校舎は19年4月に開校予定だったが、小島養生所遺構の発掘調査で20年1月に延期されている。

「文化庁は養生所遺構の国史跡指定は困難と見ている。学校建設を推進する市文化庁に対し積極的に遺跡の価値を認め、ほしいと求めたとは思えない。研究所も新たに見つかり、状況は変化している。地域の遺構保存の是非は、市全体で実施する住民投票に託すのか。費用は1億円以上とされる。国家的な歴史を持つ遺跡の保存は国も関わるべき問題で、市民の財産と守るべきという視点で考えることもできる。費用はかかるが、なぜ市民が住民投票を求める事態に陥ったのか考えてほしい。その責任は重要な遺跡の価値を市民に丁寧に説明してこなかった行政の拙さにある。

養生所遺構の保存と活用についてのお願い

長崎市長 田上 富久 殿

このたび長崎市文化財課による佐古小学校における養生所跡地の発掘調査で、養生所の礎石が発見されました。北棟西端の礎石はほぼ当時のまま残されており、歴史上価値の高い史跡であります。養生所は南棟と北棟の2棟でした。明治初期南棟は取り壊され、北棟のみは梅毒病院の一部として使用されていました。

1855年から4年間のオランダによる海軍伝習が終了した後、ポンペとハルデスは残留しました。1862年、長崎大学の開祖ポンペは日本最初の近代西洋医学の医学校と附属病院である養生所・医学所を、ハルデスは長崎製鉄所を設立しました。養生所と長崎製鉄所は、日蘭の国際プロジェクトにより日本に近代的な医学と科学技術が組織的に導入された証であり、長崎の誇るべき世界的遺産であります。ポンペは風通しと採光の良い小高い丘にホスピタルを建てるように要望し、佐古小学校の地が選ばれました。124床の近代的な西洋式病院で、ポンペは侍、町人の区別なく民主的な患者中心の医療を行い、封建社会に育った医学生に衝撃を与えました。司馬遼太郎の『胡蝶の夢』や吉村 昭の『暁の旅人』に登場するポンペ、松本良順や司馬凌海が活躍した近代医学発祥の地であることを明示する養生所遺構の発見は医療に携わる我々にとり、心躍る出来事でした。

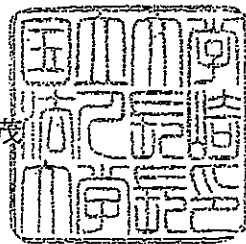
養生所二棟の礎石全体の精査と、医学所や分析窮理所跡地の調査が終了した後、国指定史跡等として認定され、遺構の保存と活用も考えられていくでしょう。体育館をどのような所に建てるか、外周道路をどのようにするか、養生所遺構をどのように展示すべきか、あるいは養生所復元まで考えるのかなど様々な可能性が考えられます。

観光に訪れる人々のみならず、これから医療を志す若人、近代医学発祥の地に学ぶ小学生に夢を与えるような養生所遺構の保存と活用の方向性を決定されんことを心からお願い申し上げます。

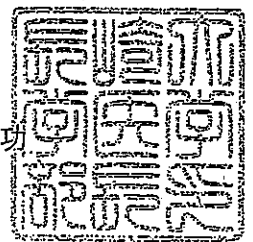
平成28年 2月 4日

長崎大学学長

片峰 茂



長崎大学医学部長 下川 功



長崎県医師会会長 蒔本 恭



長崎市医師会会長 奥 保彦



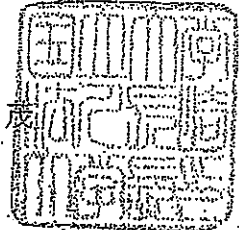
平成29年1月11日

長崎市長

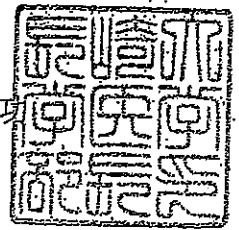
田 上 富 久 様

長崎大学

学 長 片 峰 茂



医学部長 下 川 功



「養生所遺構」の調査、保存、活用についての要望

オランダ人医師ボンペ・ファン・メルデルフォルトにより1861年に設置された養生所は、日本の近代医学が産声を上げた場所であり、また長崎大学の原点でもあります。長崎市文化財課の発掘調査により一昨年10月、建物の礎石や瓦敷など養生所の遺構が発見されたことは、私たち長崎大学関係者にとって大きな喜びでありました。

遺構の重要性に鑑み、昨年2月に、長崎大学長、医学部長、県及び市医師会長の連名で、貴殿に養生所に隣接した医学所、分析窮理所を含めた「養生所遺構」全容解明のための追加調査と、その後の適切な遺構保存・活用についての要請を行わせていただきました。そして去る11月30日には、追加調査の結果を市担当者から長崎大学関係者にご説明いただいたところであります。

今回の調査結果を踏まえて、遺構保存への私たちの思いはますます増大しております。長崎大学、医学関係者にとってのみならず日蘭交流の観点からも極めて貴重な歴史遺産です。また、出島を見下ろすこの地が適切に保存・整備されれば、周辺の唐人屋敷や大徳寺跡等とも合わせて、長崎観光の新たな目玉となる大きな可能性を有しています。先日、医学部長らとの意見交換の中で、文化庁関係者からは「養生所遺構」が文化財として極めて重要な価値を有するとの見解が示されました。

佐古、仁田両小学校の佐古への統合、校舎建て替えは既に正式の手続きを経て決定され既に工事に着手されていることは承知しておりますが、遺構発掘と

いう状況の変化を受けて、改めて「養生所遺構」の調査、保存、活用について以下の各項目について要望いたします。ご考慮いただければ幸甚です。

要望事項

- (1) 既に発掘調査がほぼ終了した養生所跡地については、適切な保存方策を講じるとともに、世界的歴史遺産（日本近代医学発祥の地）として、将来にわたって活用いただくこと
- (2) 調査が未だ不十分と考えられる医学所および分析窮理所等跡地については、追加調査を行い、石垣の価値を検討するとともに、新たな遺構が発見されればあわせて適切な保存方策を講じていただくこと
- (3) 重要な歴史遺産としての公的な認知を得るため、国の文化財登録、市の史跡指定など、将来の遺構保存・活用に向け最適切な手続きを行っていただくこと
- (4) 今後の「養生所遺構」の保存、活用について、長崎市と長崎大学の協働に向けた協議の場を設けていただくこと

埋文委 第1号

2017年2月3日

長崎県知事 中村法道 殿

長崎県教育長 池松誠二 殿

長崎市長 田上富久 殿

長崎市教育長 馬場豊子 殿

九州考古学会会長 小池史哲

長崎市小島養生所・医学校跡の調査と保存に関する要望について

標記の件について、別添書類の如く、当該遺跡は学術上きわめて重要な内容をもつものでありますので、貴殿において、適切な保存の対策が速やかに講じられることを要望いたします。

なお、当件の具体的な措置、対策については、2017年2月13日（月）までに、ご回答をくださるようお願いいたします。

記

一、別添書類

一通

以上

連絡先

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

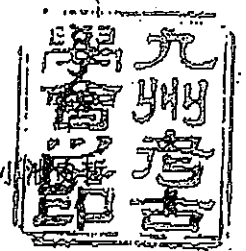
九州大学 大学院比較社会文化研究院

基層構造講座内 九州考古学会事務局

2017年2月3日

長崎県知事 中村滋道 殿
長崎県教育委員会教育長 池松誠二 殿
長崎市長 田上富久 殿
長崎市教育委員会教育長 馬場豊子 殿

九州考古学会会長



長崎市小島養生所跡・医学校跡の調査と保存に関する要望書

九州考古学会は、長崎市立仁田佐古小学校建て替え用地とされている佐古小学校敷地に所在する小島養生所跡・医学校跡の発掘調査の徹底と、これに基づく関連遺構の適切な保存を強く要望します。

2017年1月12日付の『長崎新聞』『西日本新聞』等の報道によれば、小島養生所跡・医学校跡の一部遺構を展示公開する一方、新校舎の建設工事での立会で遺構が見つかった場合に調査するという長崎市長の方針が示されました。長崎の歴史を語る重要な建物の保存と展示をいち早く決断された市長の姿勢に敬意を表します。

しかし、現在遺跡はその一部が発掘調査されているに留まり、学術的価値は未知数といわざるをえません。こうした段階で、学校建設に必要な部分を記録保存（破壊）する判断を下すことは拙速であり、重大な危惧を覚えます。小島養生所跡・医学校跡の建物の全容を把握するに足る調査とこれを踏まえた検討が不可欠です。

そのために、上位機関または文化庁による正式な指導・助言、ならびに市の文化財審議委員会、考古学や建築学、近代医学史などこの分野の複数の専門家を招いて調査指導委員会を設置し、そのもとで調査と保存計画を進めることが強く望まれます。

九州考古学会は、小島養生所跡・医学校跡の地下施設・周囲の石垣などの遺構全体を医学史上の重要史跡として保存し、遺構の本質的価値を損ねることなく現地保存することこそ、長崎市にふさわしい文化財保護の実現であると考えます。長崎市におかれましては、近年、遺跡地から学校等の公共施設を移転し、地域再生・振興のシンボルとして保存整備し、教育・観光資源に活用する機運が全国的に高まっていることを含め、一層慎重にご判断されますことを希望いたします。

つきましては、当遺跡の重要性にかんがみ、以下の措置が取られることを要望します。

記

- 一、現調査地で発見された小島養生所・医学校に伴う地下遺構、石垣等の地上遺構について、少なくともその学術的価値が確定するまで、現状のまま保存すること。
- 二、国や県など上位の文化財関係部局の指導を仰ぎ、調査にあたっては指導委員会等を設置し、これを踏まえて具体的な保存計画を策定すること。
- 三、小島養生所跡・医学校跡およびその周辺に展開する関連遺構を含めた施設の全体像を明らかにし、その調査過程で説明会等を開催して成果を公表すること。
- 四、以上をふまえて小島養生所跡・医学校跡を適切に保存し、整備・公開・活用を図ること。

以上

2017年2月19日

長崎県知事	中村法道殿
長崎県教育委員会教育長	池松誠二殿
長崎市長	田上富久殿
長崎市教育委員会教育長	馬場豊子殿
長崎市文化財審議会会長	下川達彌殿

日本医史学会理事長 小曾戸洋



洋学史学会会長 杏澤宣賢

長崎市旧佐古小学校校地の養生所遺跡群の調査と保存に関する要望書
について

別添の要望書と説明書にあるように旧佐古小学校校地の養生所遺跡群は学術
上きわめて重要でありますので、貴殿におかれましては適切な調査と保存の措
置を速やかに講じていただきますよう要望いたします。

尚、標記の件に対する具体的措置について、2017年3月10日までに文
書にてご回答くださいますようお願いいたします。

添付書類

要望書	一通
説明書	一通

連絡先

日本医史学会事務局

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

順天堂大学医学部医史学研究室内

洋学史学会事務局

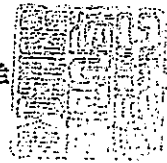
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学電気通信学部佐藤賢一研究室気付

2017年2月19日

長崎県知事	中村法道殿
長崎県教育委員会教育長	池松誠二殿
長崎市長	田上富久殿
長崎市教育委員会教育長	馬場豊子殿
長崎市文化財審議会会長	下川達彌殿

日本医史学会理事長 小曾戸洋



洋学史学会会長 沓澤宣賢

長崎市旧佐古小学校校地の養生所遺跡群の調査と保存に関する要望書

要望事項

1. 旧佐古小学校の校舎と体育館の解体工事を中止し、近代医学史、考古学、建築学などの専門家による養生所遺跡群の調査指導委員会を早急に立ち上げてその指導の下に調査解明されること。
 2. 養生所・医学所、分析窮理所、ヘルツハウス及び長崎医学校遺跡のある旧佐古小学校校地を、正門、通用門と周囲の石垣を含め、新しく体育館や校舎を建てずに全て残していただくこと。
 3. 文化庁の指導を仰ぎつつ、養生所・医学所、分析窮理所、ヘルツハウス及び長崎医学校遺跡の全体像を調査し、それを総合評価し、旧佐古小学校校地に出土する価値ある遺跡を対象として史跡指定の申請を文部科学大臣にさせていただくこと。
 4. 旧佐古小学校校地の遺跡群の保存と活用のあり方について広い分野の専門家による委員会を設け、市民に公開しながら検討していただくこと。
- 以上の事項についてご措置いただくよう要望いたします。

長崎市文化財課により養生所遺跡が発見されたことは医学や文化の日蘭交

流史に関心をもつ日本医史学会と洋学史学会の会員にとってこの上なくうれしい出来事でした。長崎市におかれましては養生所遺跡を市の文化財として一部顕在化して保存する予定と承っております。養生所遺跡の上に新体育館施設が建設され、一部を展示する方式では養生所遺跡の一部の破壊がまぬがれません。養生所時代の一時期を切り取って残すのではなく、養生所は養生所・医学所、精得館、長崎医学校そして佐古尋常小学校に至る歴史の刻み込まれた旧佐古小学校校地とともに残されるべきです。養生所遺跡群と小学校の共存は、観光客が多数押ししかけるだけでなく、養生所、梅毒病院、小島病院、分析窮理所、解剖所での薬品使用と石組みや不明の排水施設による土壌汚染は確実であると考えられるので無理であります。

仁田佐古小学校の新体育館施設が予定されている場所には養生所遺跡とその時代の石垣があり、新校舎建設の予定場所には医学所、分析窮理所、ヘルツハウス、長崎医学校時代の新講堂や石垣などの遺跡があると推定されます。現在、医学所、分析窮理所、ヘルツハウスの正確な所在が不明のまま重機が稼働し、新校舎建設のために旧佐古小学校校舎と校地が破壊されていくことに強い危惧の念を抱いています。旧佐古小学校の校舎と体育館の解体工事を速やかに中止されることを要望します。

長崎医学校校地に佐古尋常小学校が設置されたために都市化の荒波の中、奇跡的に残された養生所遺跡群（養生所遺跡と、予測される医学所、分析窮理所、ヘルツハウス、石垣などの各遺跡）の全容を近代医学史、考古学、建築学などの専門家による調査指導委員会を早急に立ち上げてその指導の下に時間をかけて調査解明されることを要望します。

長崎港を見渡し旧唐人屋敷と旧丸山花街を眼下に見る景勝の地にあり、フルベッキが寓居した大徳寺跡が隣接する旧佐古小学校校地全てを、後世のためにそのまま残す決断をされることを要望します。文化庁の専門家の指導を仰ぎながら、養生所・医学所、分析窮理所、ヘルツハウス及び長崎医学校の遺跡の全体像を調査し総合評価され、旧佐古小学校校地に出土する価値ある遺跡を対象として史跡指定の申請を文部科学大臣にさせていただくことを要望します。

国際港として日本の近代化に貢献した長崎を再認識し、国際観光都市として発展していく上できわめて重要な遺跡であり、旧佐古小学校校地の遺跡群の保存と活用のあり方について広い分野の専門家による委員会を設け、市民に公開しながら検討していただきますようお願い申し上げます。

説明書

養生所遺跡群の持つ歴史的意義について

天然痘を予防する種痘を普及した出島の商館医オットー・G. J. モーニッケは、幕末日本の医療について報告し、衛生行政政策が皆無で、伝染病を隔離する病院がなく、国立医学校、開業医試験もないと厳しい指摘をしています。そのような状況を打破する日本の近代医療革命は長崎の養生所を舞台に始まりました。

江戸幕府とオランダ王国によって幕末の長崎で行われた海軍伝習は海軍設立にとどまらず近代科学技術と近代医学が組織的に導入され、稀有の成功を収めた国際プロジェクトであります。海軍伝習の際、J. L. C. ポンペ・ファン・メールデルフォールトにより養生所・医学所が、H. ハルデスにより長崎製鉄所が設立され、近代医学と近代科学技術の革命が始まりました。日本の近代化に貢献できたことはオランダの誇りであり、ライデン大学教授で日本研究オランダ協会会長でもあったハルメン・ボイケルス教授は日蘭交流の歴史上で養生所は出島と同等の価値があるといっています。

1857年、ポンペは西役所で医学伝習を開始、近代西洋医学を系統的に教えました。養生所は1861年に建設され、日蘭友好の象徴としてその屋上には日本とオランダの国旗がはためいていました。ポンペは侍・町人、西洋人・日本人の差別なく治療し、医師は自分自身のものではなく病める人のものであると戒め、民主的な患者中心の医療を行い、封建社会に育った弟子達に衝撃を与えました。衛生思想は松本良順らにより普及しました。西洋医学は19世紀に近代医学へと大きく変貌し、ポンペは養生所において日本の医師たちに近代的な西洋医学を初めて体系的に伝え、明治から現在へと発展する日本の近代医学の礎を築きました。

ポンペの跡を継いだA. E. ボードインは分析窮理所を設置してW. K. ハラタマを招聘、物理学、化学等が教えられました。養生所は精得館と改名、明治維新後長崎医学校となりました。精得館頭取の相良知安はボードインにオランダの医療法を、G. H. F. フルベッキに佐古の丘の大徳寺で大隈重信とともにアメリカ憲法を学びました。維新政府に登用された相良は大学東校を設立、ドイツ医学を導入しました。大学東校にポンペの弟子佐藤尚中を、大学南校にフルベッキを迎え、近代教育を担う大学を設立しました。長崎医学校長であった長与専斎は文部省に出仕、岩倉遣欧使節団に加わり、英米独の医療を視察後、オランダで医療監理制度を調査しました。長与専斎は帰国後、相良の構想していた

醫制を整備して施行、衛生局を創立して万人の健康を護る公衆衛生行政を開始しました。ハタタマの跡を継ぐために長崎に赴任した A. J. C. ヘールツはユトレヒト陸軍軍医学校の薬学教官でした。長与のブレンとなり、輸入薬物を検査する司薬場設置を提案、東京司薬場から東京大学薬学部が始まります。

小島佐古の丘に発祥した近代教育、民主的な考え方と公衆衛生行政は東アジアに普及、養生所はアジアの国々にとっても近代化の象徴です。

出島と長崎の岬先端にある西役所、唐人屋敷とその背後小島佐古の丘にある養生所は、港に停泊する蘭船や唐船とともに、幕末海軍伝習の頃の長崎の原風景です。ポンペは風通しの良い小高い丘で、水の便がよく患者が通いやすいことをホスピタル (Hospitaal te Nagasaki) の建設地として希望しました。繁華街から患者が通いやすく、大徳寺のある景勝の一等地小島佐古の丘を提供した町衆には、近代医療に寄せる熱い期待があったのでしょう。

国際港として日本の近代化に貢献した長崎を再認識し、国際観光都市として発展していく上できわめて重要な遺跡であり、国の史跡指定に申請する価値があるのみならず、幕末の海軍伝習時代の遺跡とともに世界遺産指定等の可能性も考えられます。

2017年2月7日

長崎市長

田 上 富 久 様

一般社団法人日本考古学協会

埋蔵文化財保護対策委員会

委員長 藤 沢 敦

長崎市小島療養所跡・医学校跡の現地視察について（依頼）

拝啓 日頃より、本協会の活動に御理解と御協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

この度、当日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会では、貴教育委員会におきまして、現在発掘調査を実施されております長崎市小島療養所跡・医学校跡において、日本の近代医学の先駆けとなる極めて重要な遺構が検出されていることに重大な関心をもっております。

つきましては、遺跡の重要性に鑑み、当委員会として発掘調査の現状と遺跡の内容等を把握するための現地視察を下記により、実施させていただきたく、ここにお願い申し上げます。

なお、諸般の事情により、期日が迫っての依頼になりましたこととお詫びいたします。

まことに恐縮ですが、ご高配のほど宜しくお願いいたします。

敬具

記

日 時 2017年2月10日（金曜日） 午後1時30分～

派遣委員 佐藤浩司（日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会・代表委員）

稲富裕和（日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会委員）

田尻義了（日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会委員）

以上

【問い合わせ先】

一般社団法人日本考古学協会事務局（堀田・松崎）

〒132-0035 東京都江戸川区平井5-15-5-4F

TEL：03-3618-6608 FAX：03-3618-6625

Eメール：jim@archaeology.jp

2017年2月24日

長崎市長

田 上 富 久 様

一般社団法人日本考古学協会
埋蔵文化財保護対策委員会
委員長 藤 沢 敬

御 礼 状

拝啓

梅花の候、貴台におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る2月10日の小島養生所跡・医学校跡調査現場の現地視察に際しましては、ご多忙な時期にもかかわらず、ご丁寧に対応いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

今回の視察を通じまして、当該遺跡の学術的な重要性をますます認識いたしました。

当埋蔵文化財保護対策委員会といたしましては、遺跡の綿密な調査とともに、可能な限り現状保存されますようご尽力いただきますことを、切にお願い申し上げます。

敬具

平成29年9月12日

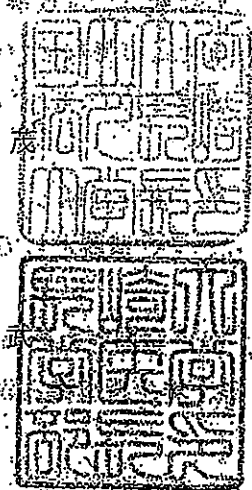
長崎市長

田上 富久 様

長崎大学

学 長 片 峰 茂

医学部長 永 安 正



分析窮理所、医学所を含む養生所遺構の調査、保存、活用についての要望書

養生所遺構の調査、保存、活用につきましては、平成28年2月に長崎大学長、同医学部長及び県・市医師会長より、平成29年1月には長崎大学長、同医学部長より、貴殿宛てに要望書を提出させていただきました。とくに後者においては、養生所跡地については適切に保存し世界的歴史遺産（日本近代医学発祥の地）として将来にわたって活用すること、医学所及び分析窮理所跡地については追加調査のうえ新たな遺構が発見されれば合わせて適切に保存いただくこと等、具体的な要望をさせていただきました。その後、養生所跡地については、保存方法・活用などに関して当方の要望を踏まえながらご対応いただいておりますことにお礼申し上げます。

さて、医学所及び分析窮理所跡地については、このたび追跡調査により新たに分析窮理所遺構が発見されたことを受け、改めて遺構保存に関する新たな要望書を提出させていただきましたことといたしました。

平成29年5月31日に遺構の追加調査の結果を市担当者よりご説明いただきましたが、その時は、旧佐古小学校校舎の位置にあった「医学所」、校庭の位置にあった「分析窮理所」については試掘を行ったものの関連遺構は残っていないとの報告でありました。その後、6月15日に医学部長ら長崎大学側関係者により市側立ち合いのもと現場視察を行った際に、分析窮理所跡についてはこれまで市側が行ってきた位置とは異なる試掘箇所を提案し了承いただきました。この新たな試掘調査に関する市側からの結果報告会が、先般9月5日に長崎大学にて行われ、学長、副学長、病院長、医学部長らに対して、分析窮理所の礎石の部分が新たに発見されたこと、この分析窮理所跡地を市指定史跡の追加指定範囲とすることなどが報告されました。

しかしながら、一方で小学校校舎建設に向けて来る10月から当該場所における杭工事が

開始される予定であると聞き及んでいます。教育関連の公共工事という点で計画を急ぐ長崎市の立場は一定理解できるものの、長崎大学としては、今回の新たな遺構の発見によりこれまでとは異なる対応を今後講じる必要が生じたものと認識しており、以下の事項について要望させていただきます。

- 1) 杭工事を延期し、分析竊理所遺構及び解剖室推定地の全面的な発掘調査を行うとともに、その遺跡としての価値について十分な検討を行う。
- 2) 既に発掘された分析竊理所遺構や解剖室推定地を含めて、保存対応を協議する。その際、養生所遺構と同様に見える形での現地保存・活用の可能性も検討する。

以上、ご考慮賜れば、幸甚です。



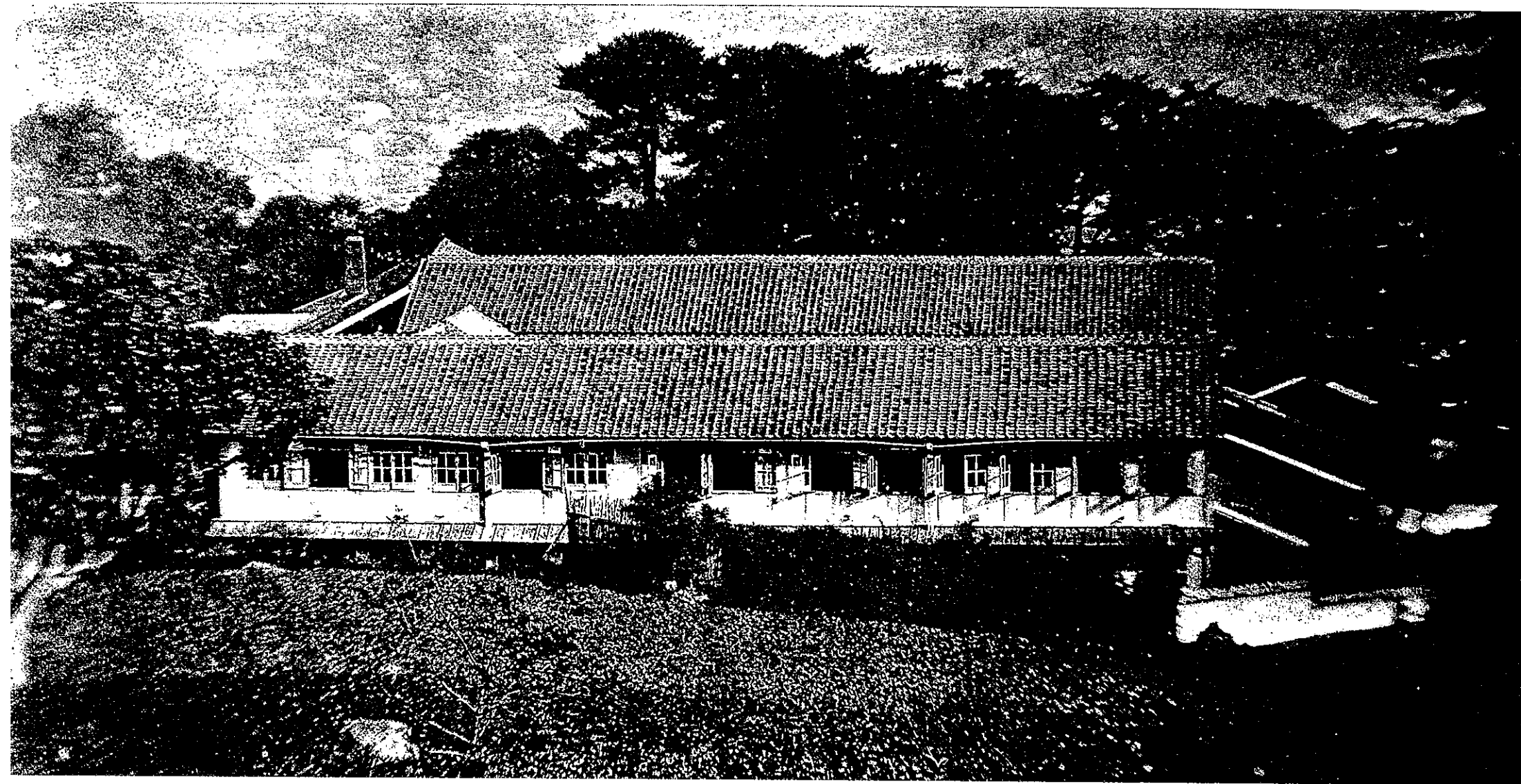






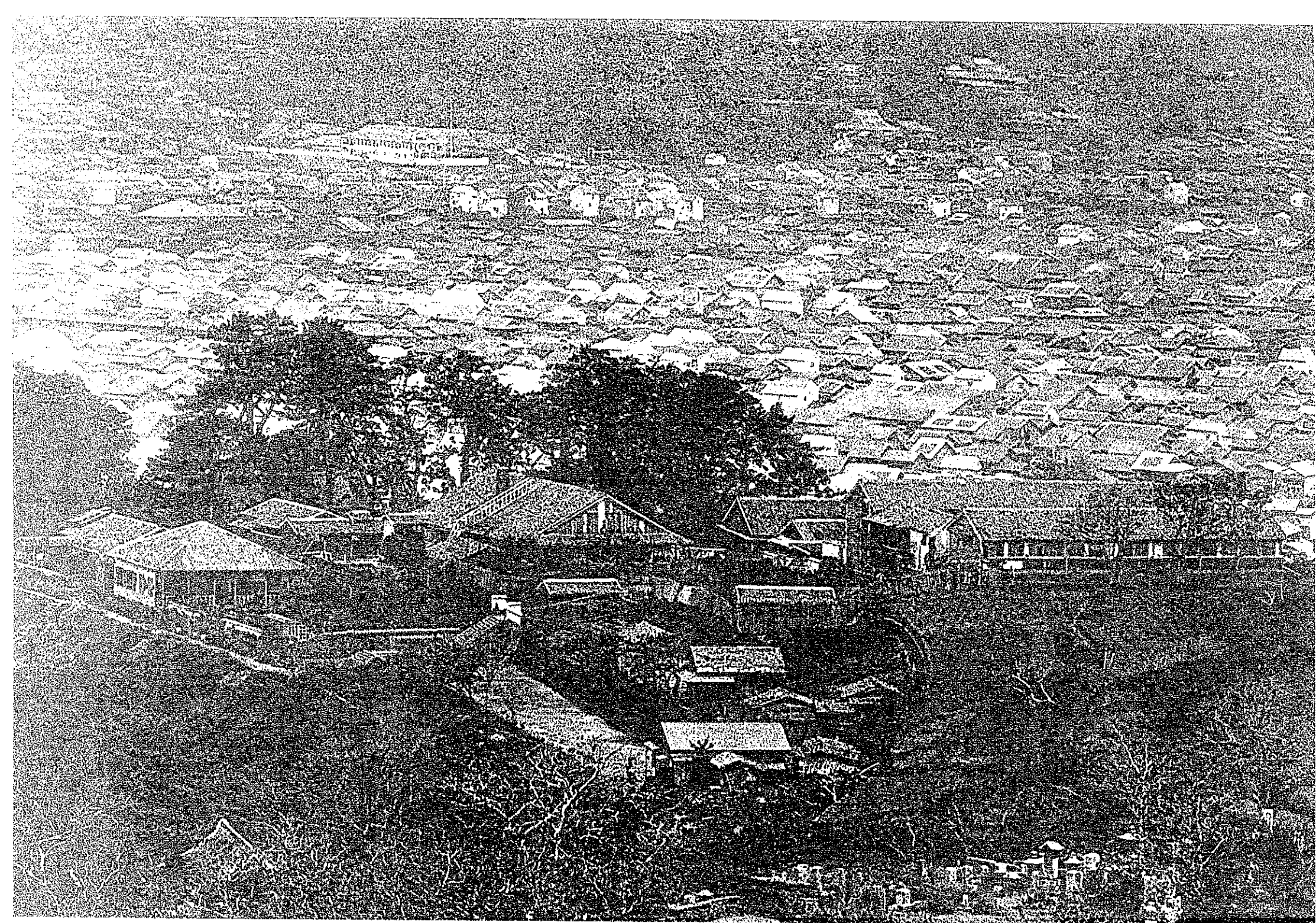


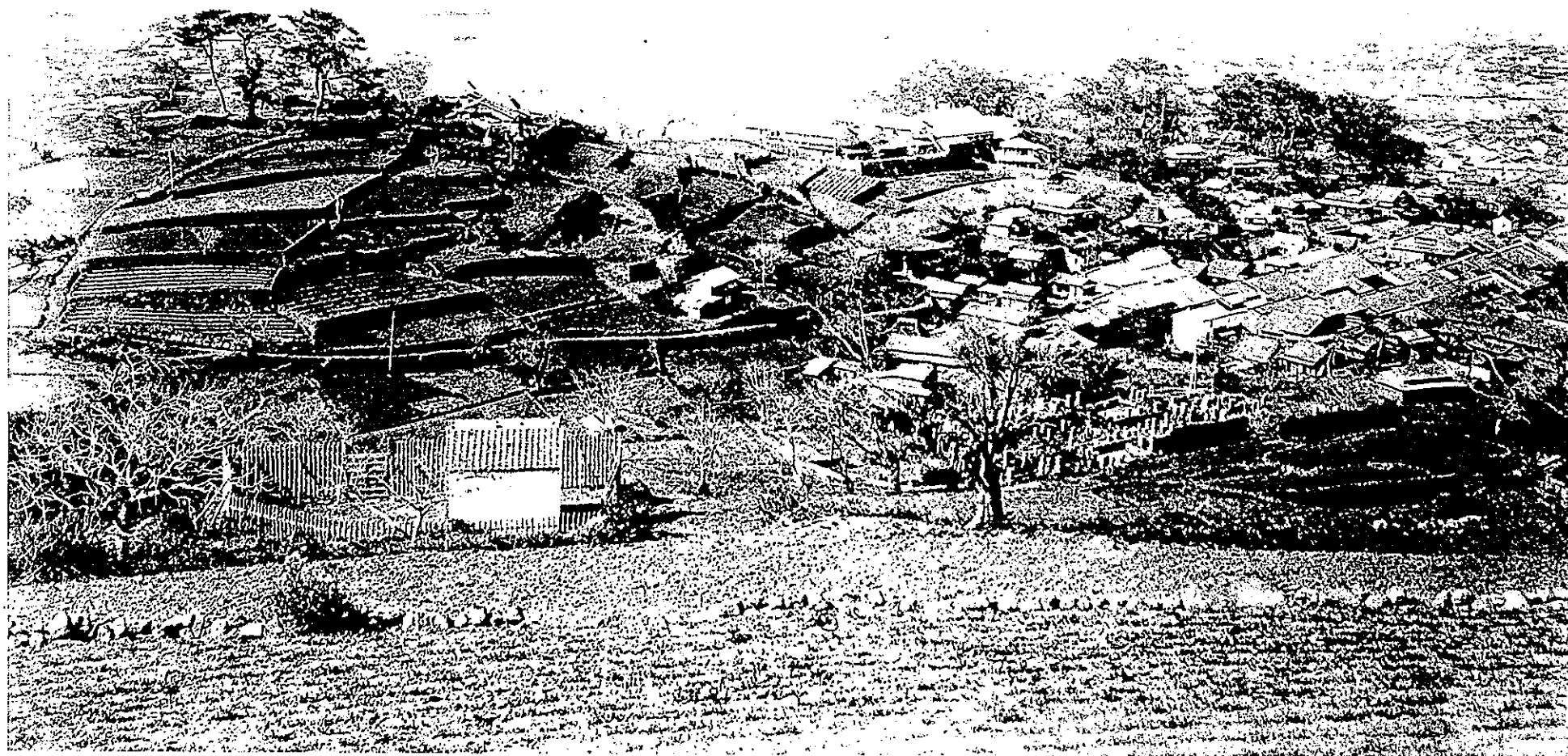




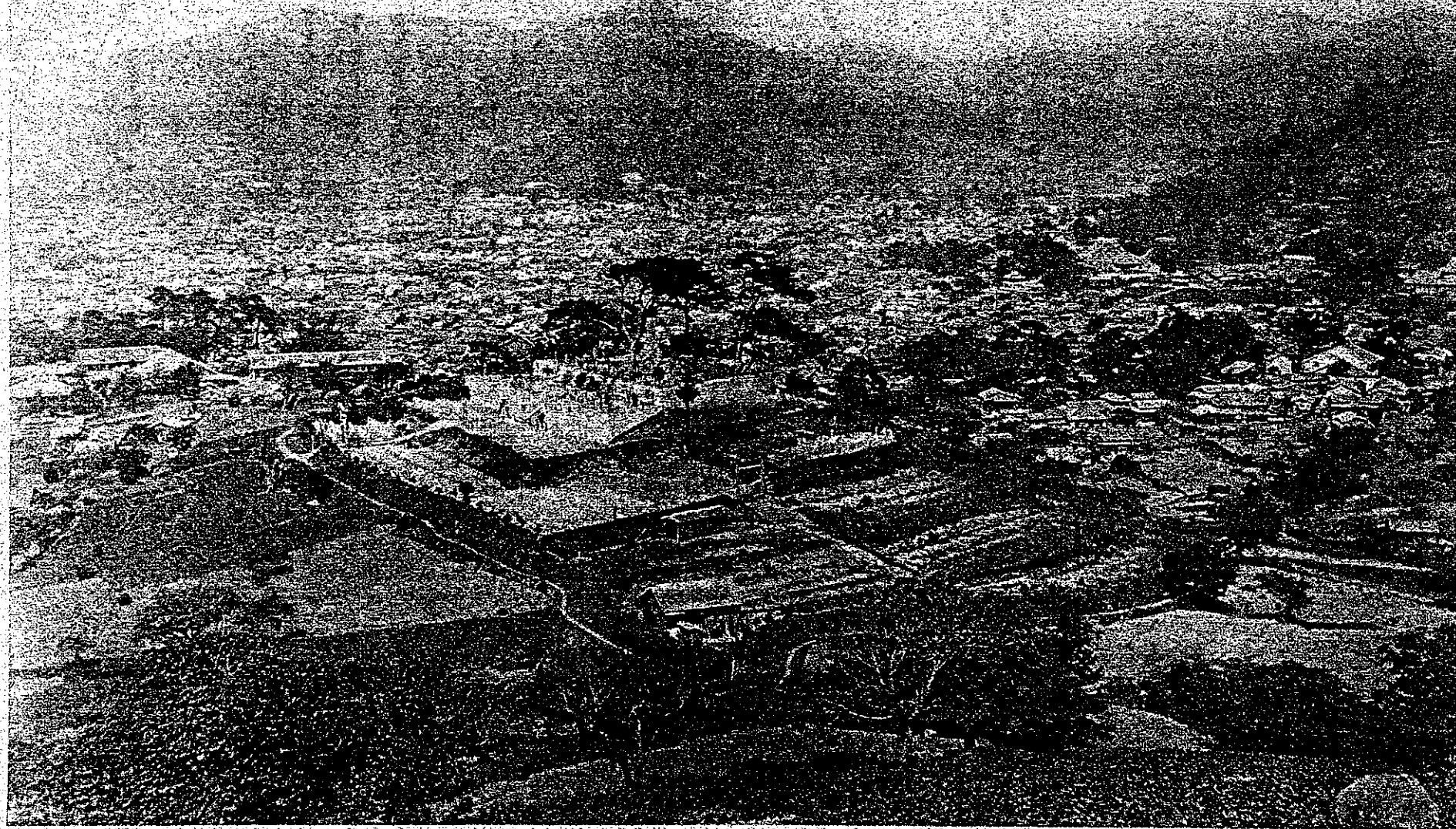








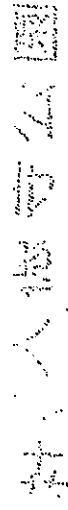
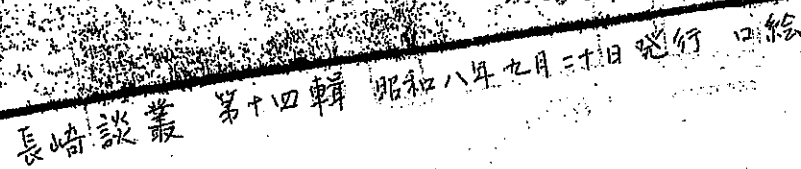








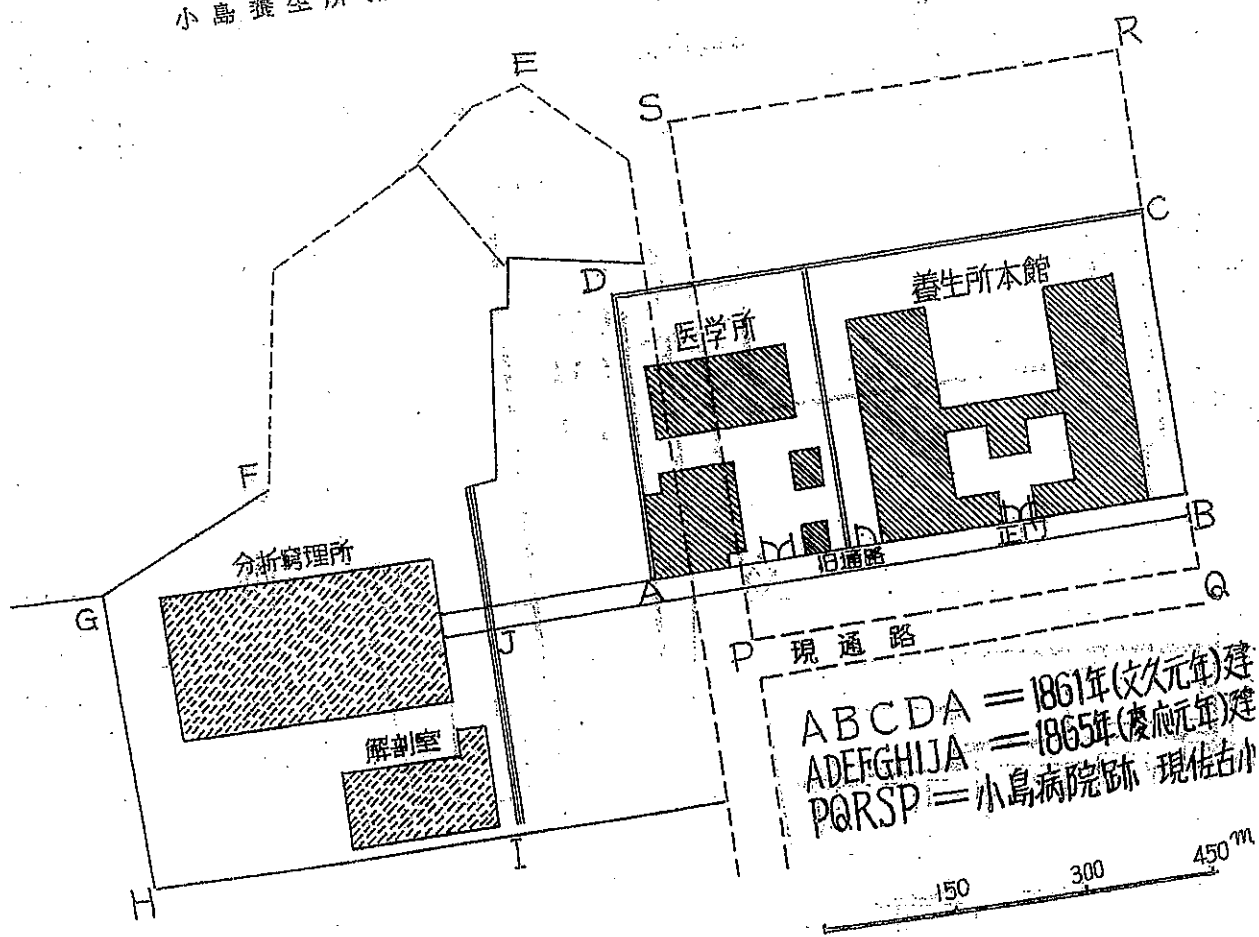


[illegible]

P13 ~ P31. 昭和十八年十二月三日
長崎市西小島町佐伯小學校講堂
木下尚江氏の講演筆記等

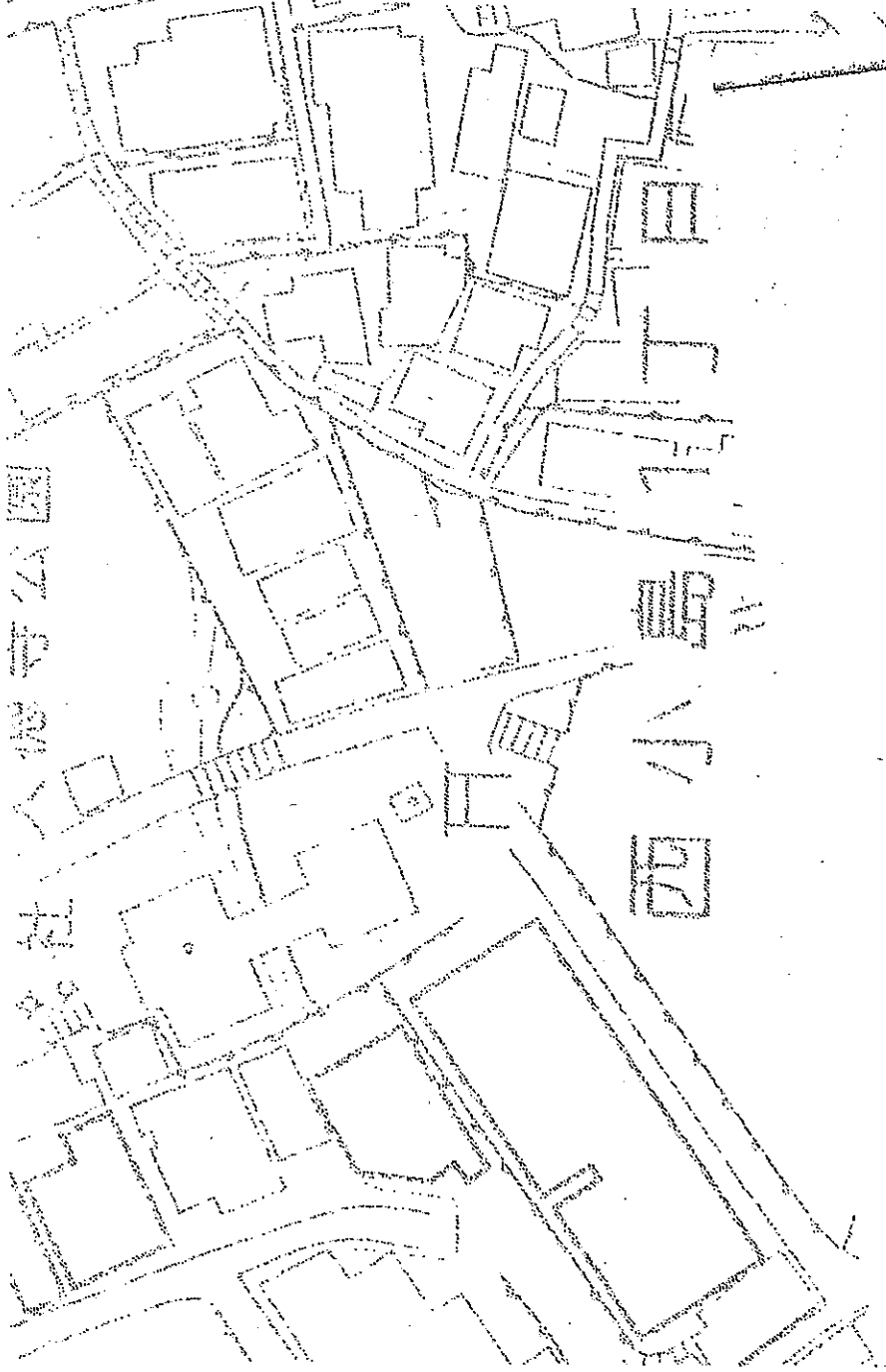
007

小島養生所(精得館)及び分析窮理所配置図

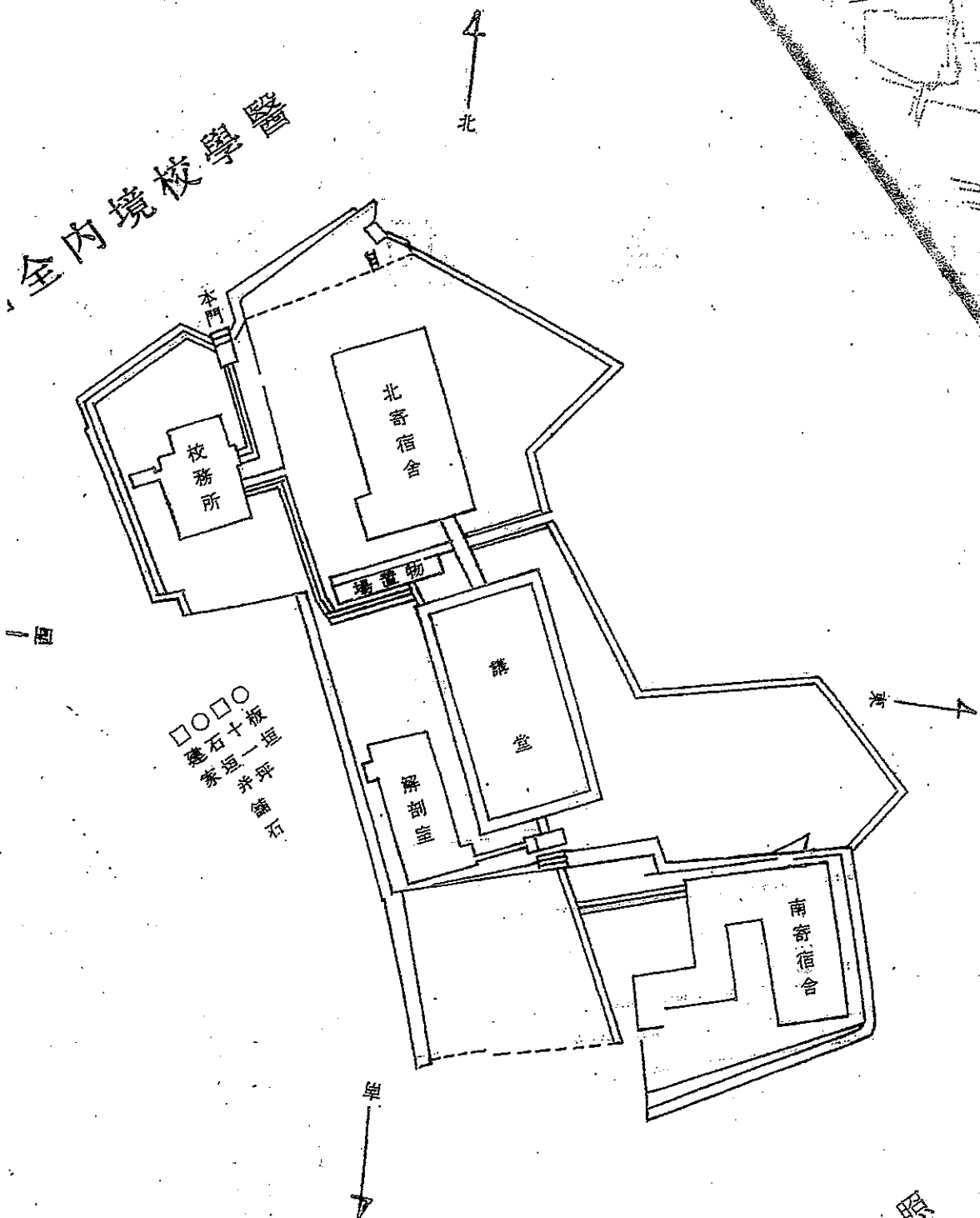


ABCDA = 1861年(文久元年)建
 ADEFGHIJA = 1865年(慶応元年)建
 PQRSP = 小島病院跡 現佐古小

『長崎医学百年史』“長崎医学の百年”中巻 第二章 挿図
 昭和三十三年三月三十一日現在



醫學學校內全圖

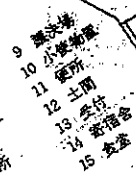


75頁參照

(明治十一年以前 (1975))

寄散歩 中西醫 昭和五十年

校學
レシニ後以年一十治明
レサ環取含宿密兩北南
リタ



検査技師のための長崎散歩

社会福祉

傳道館

社会福祉

社会福祉

分教場

教員室

教場

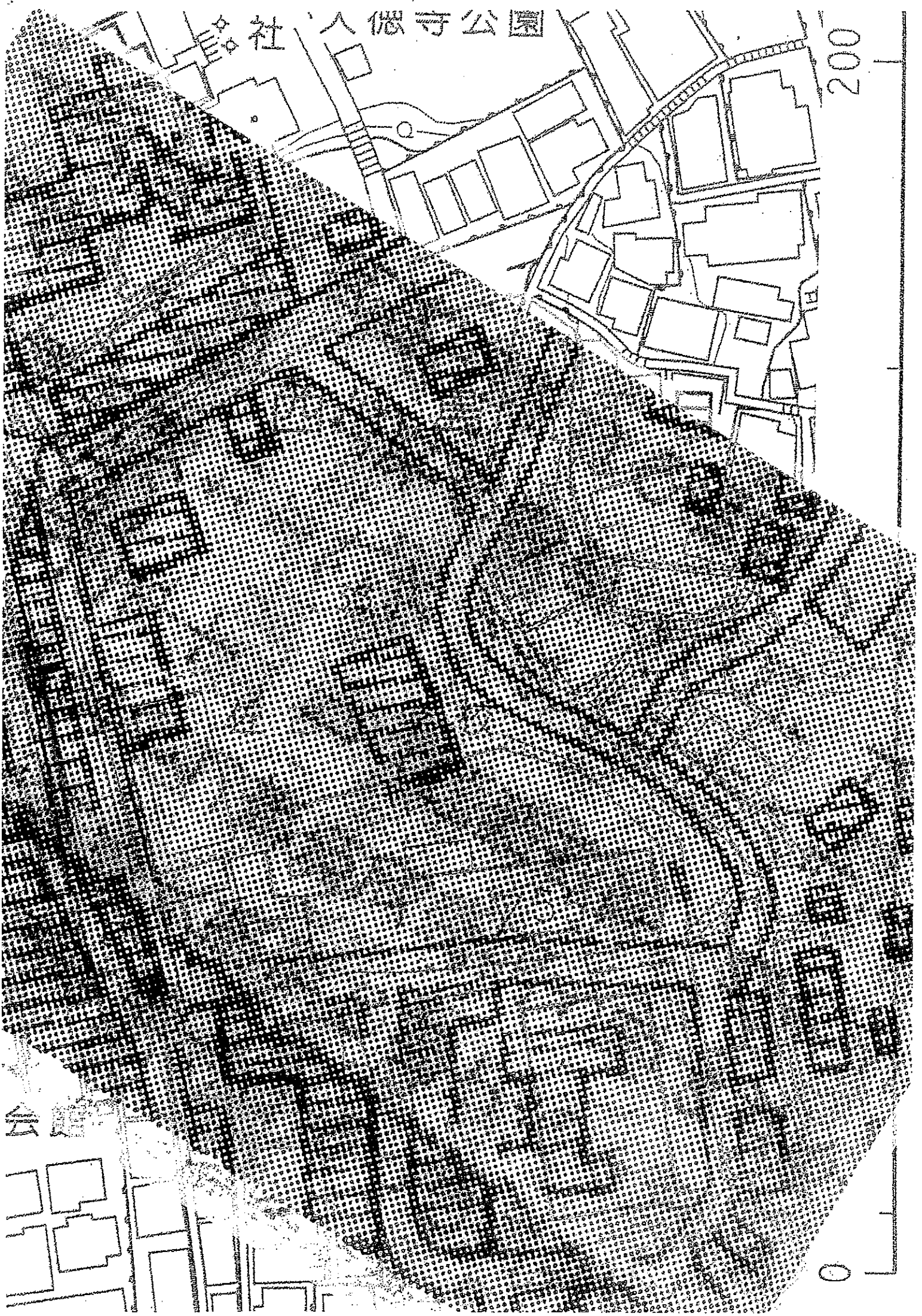


会館



公園寺人社

200



会館

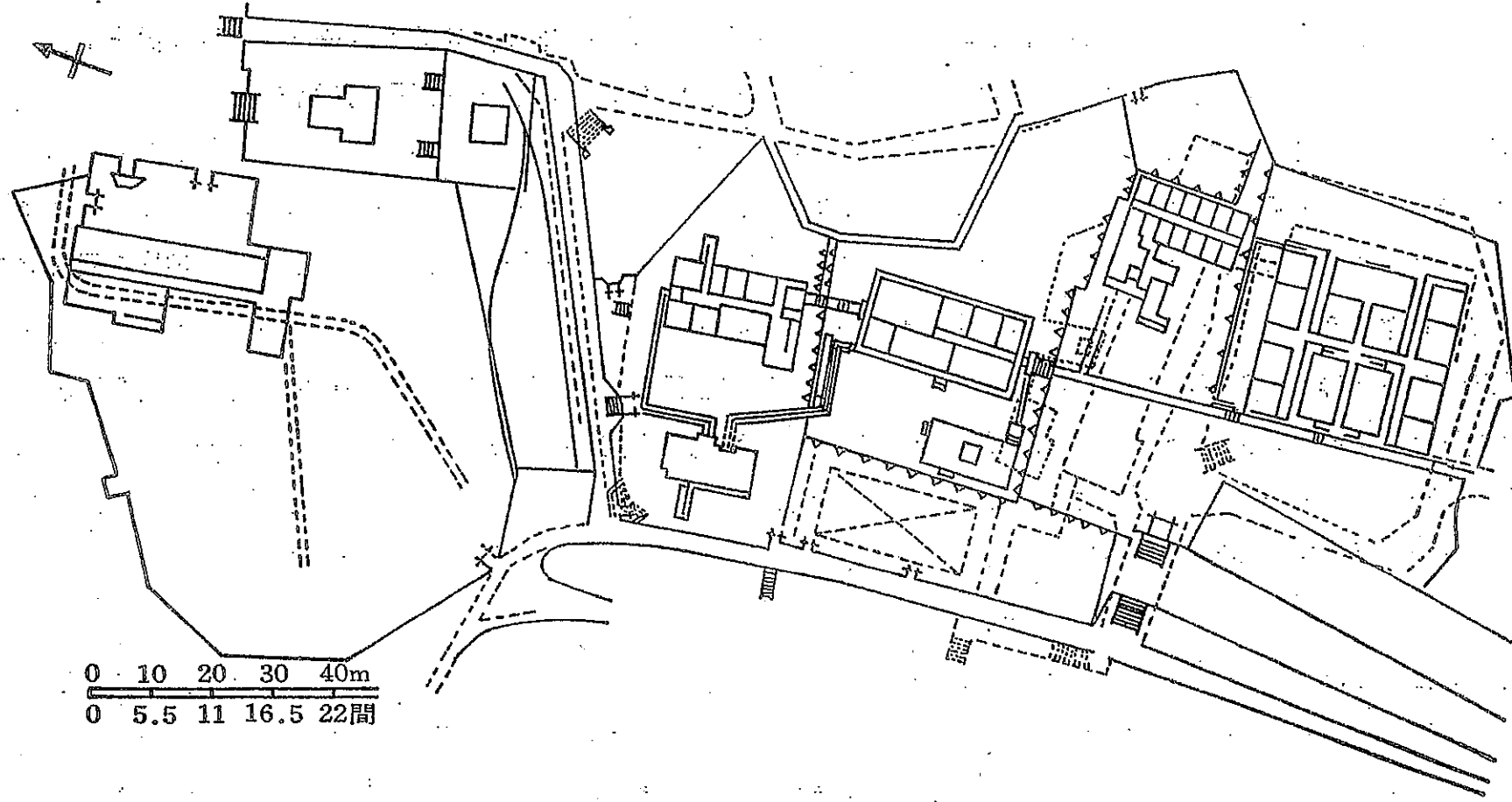
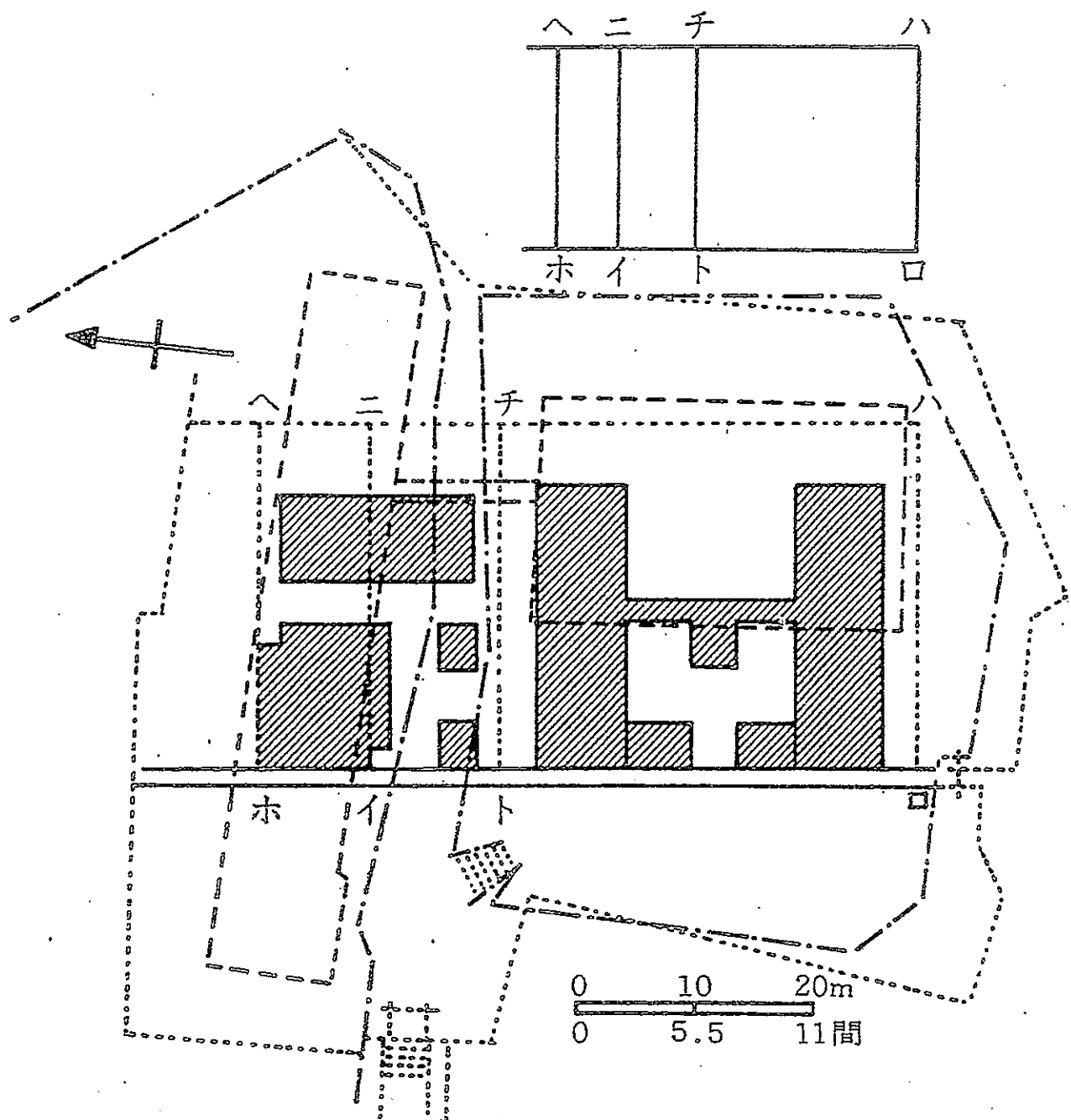


図8 長崎病院新築着工、南寄宿舍取壊し以前(明治11年1—3月)の佐古地区医系建物。
左から大徳寺跡の梅毒仮病院(梅毒崎病院)、医学校・病院地区に入って、北寄宿舍
(上)と校務室(下)、分析究理所と解剖室、上方に南寄宿舍、右端養生所以来の長崎病
院。両寄宿舍は二階建、階下だけ間取りを示す。長崎病院は両病棟二階建、北側病棟
の内部だけ判明している。南側病棟と病棟間の施設は今回は想定によって描いた。



——— 現佐古小学校境界線 - - - - 同鉄筋校舎・渡廊下
 建築予定敷地 (不明瞭につき上部に書出す)・明治初年の境界線

図7 養生所跡地と林。藤原による旧構推定

長崎談叢 第六十七輯 昭和五十八年七月十日 発行

(P73)

『明治初期の長崎医学校・病院不図述、特に建築物の興廃と戦時後病院指定二回の経験』
青木義典

自明治2年 分析究理所教室割当
至 同 6年

(イ)

講 堂	予 科 学	植 物 学 等	理 学 化 学	理 学 器 械 室	標 本 室	教 師 控 室	外 国 医 科
下 廊							
暗 室	準 備 室	教 援 上 の	兼 理 学 化 学 研 究	医 科 講 堂 其 他 解 剖 学			

「佐古小学校を中心とする旧址」より

明治10年後半期—同11年前半期

(ロ)

		理 学 器 械 場		外 国 教 師 休 息 場
化 学 試 験 場	化 学 器 械 並			

長崎医学校図(古賀文庫)より

明治15年現在

(ハ)

第 一 教 場			第 二 教 場
化 学 器 械 室	化 学 実 験 室	第 三 教 場	第 四 教 場

長崎医学校第12敷地建物略図より

図5 分析究理所間仕切りの変遷

長崎談叢 第大十七輯 昭和五十八年七月十日発行

(p53)

明治初期の長崎医学校病院概観、特に建造物の興廃と戦時仮病院指定二回の経験の青木義男

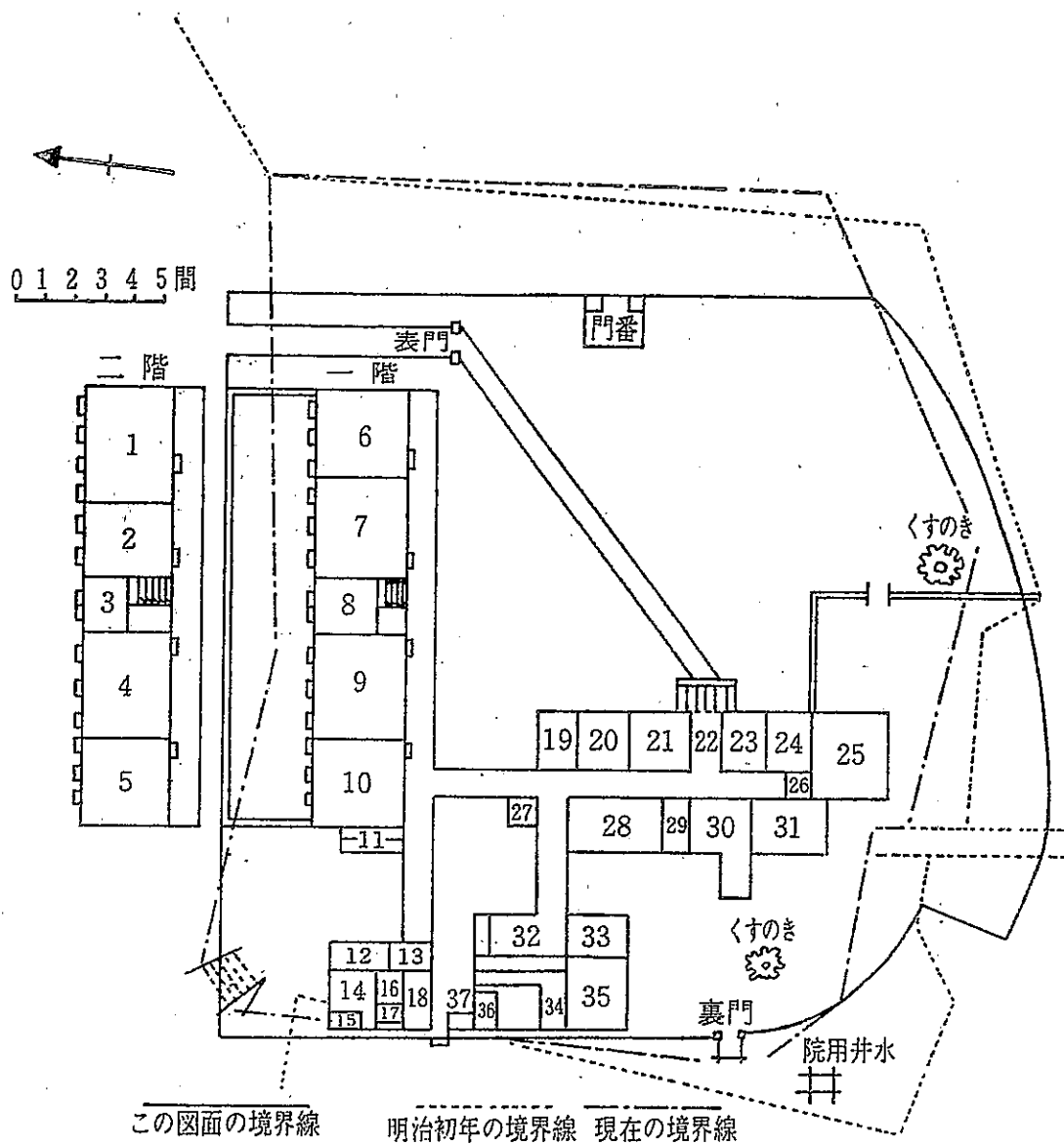


図9 明治14年8月改築成った梅毒病院

- | | | | | |
|----------|------------|------------|----------|---------|
| 1. 患者1番室 | 2. 同2 | 3. 同3 (個室) | 4. 同4 | 5. 同5 |
| 6. 同6 | 7. 同7 | 8. 看護室 | 9. 患者9番室 | 10. 同10 |
| 11. 患者便所 | 12. 13. 板敷 | 14. 洗足場 | 15. 溜水 | 16. 風呂 |
| 17. 洗場 | 18. 土間 | 19. 宿直室 | 20. 応接所 | 21. 事務所 |
| 22. 玄関 | 23. 小使部屋 | 24. 控所 | 25. 診察所 | 26. 暗室 |
| 27. 便所 | 28. 食堂 | 29. 患者物品預所 | 30. 薬局 | 31. 医局 |
| 32. 押入 | 33. 賄所 | 34. 物置 | 35. 板敷 | 36. 土間 |
| 37. 水セコ | | | | |

長崎談叢 第六十七輯 昭和五十八年七月十日 発行 (P81)
 『明治初期の長崎医学校・病院概説 特建造物の興廃と戦時仮病院指定二回の経験』青木義勇

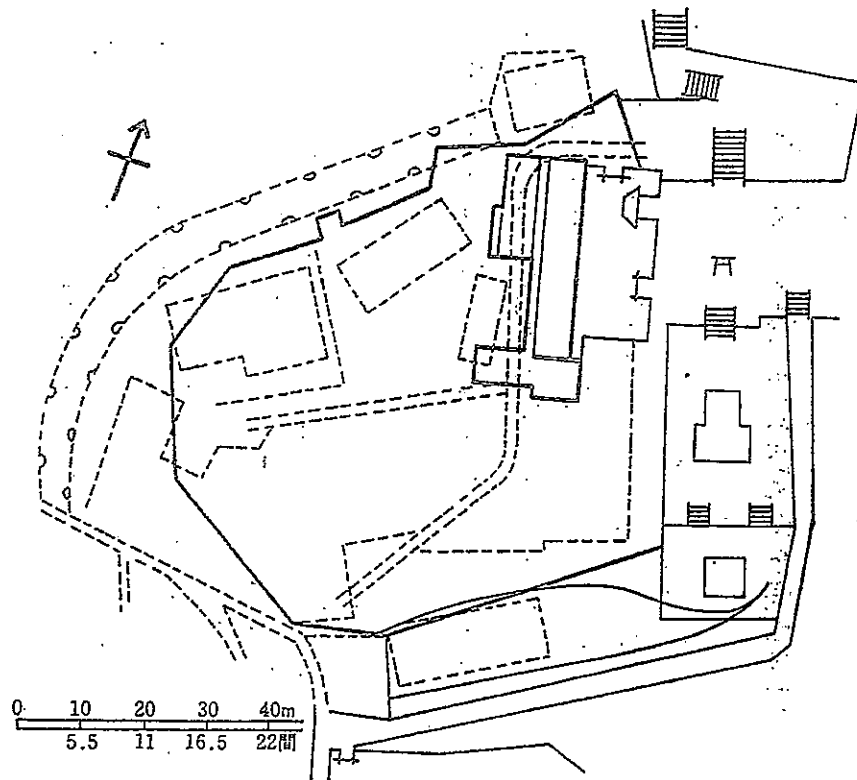


図2 梅毒仮病院（医学校及附近図による）

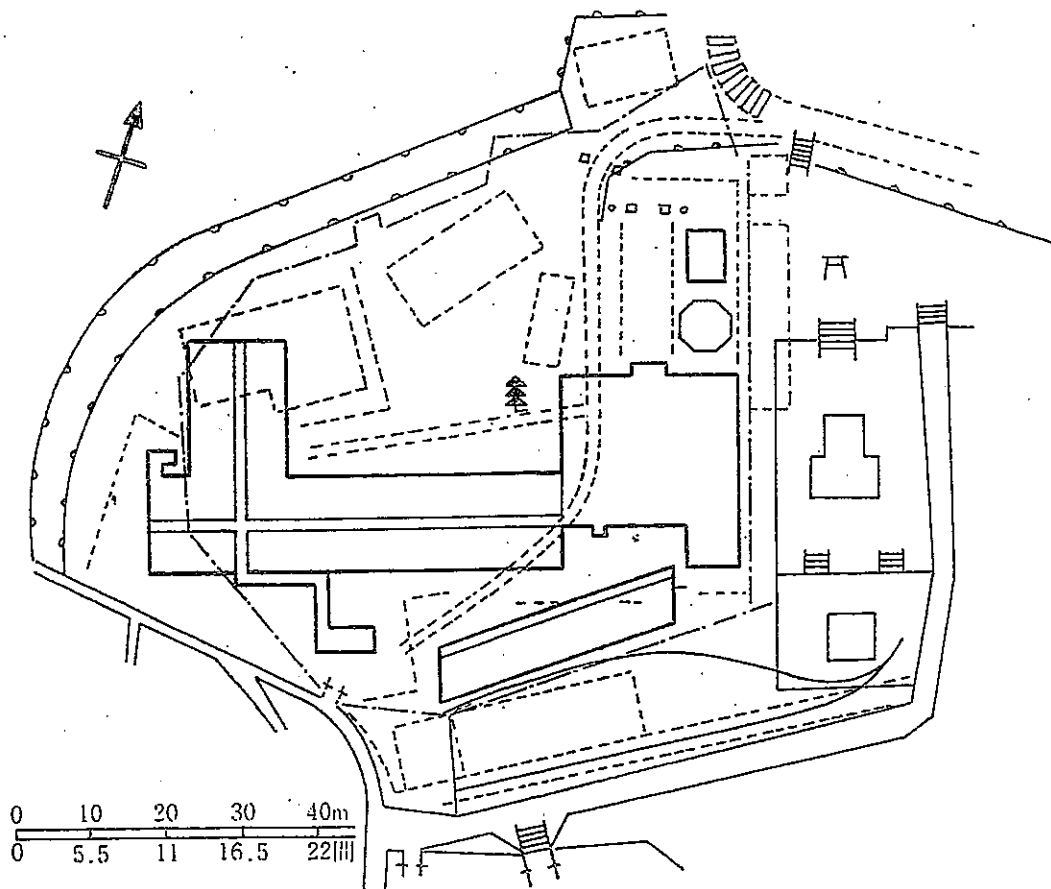


図12 長崎病院（大徳寺跡）図面の復元

長崎談叢 第九七輯 昭和五十八年七月十日発行

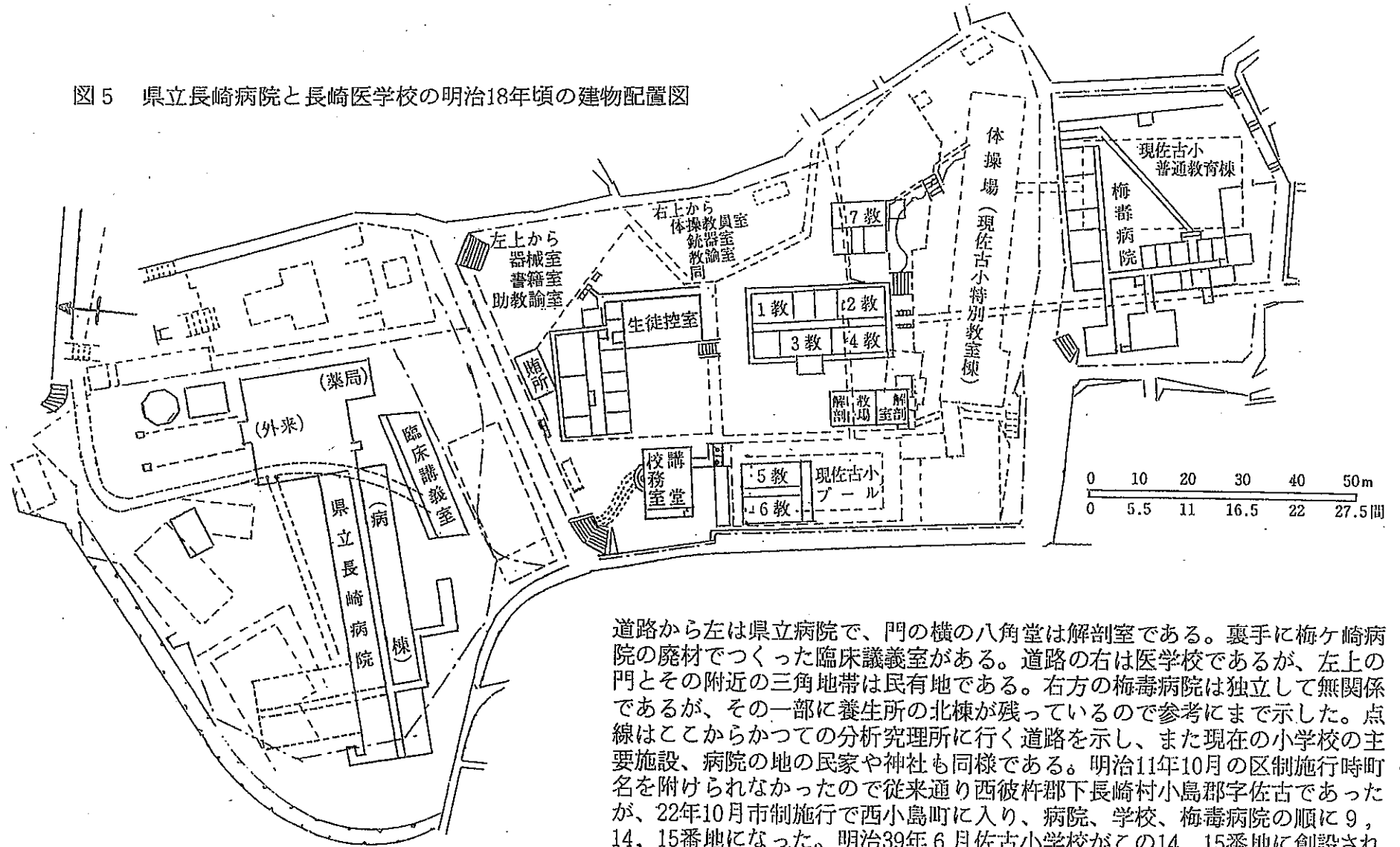
（図2：P44）（図12：P91）

明治初期の長崎医学校・病院概説、特に建造物の興廃と長崎仮病院指定二箇の経緯、著者義典

表6 明治16年4月政府提出書類添付見積書より

同		付		平家建病院	
梁桁	間行	梁桁	間行	梁桁	間行
五間	六合六勺	三間	四間	拾三間	拾三間
(建坪拾貳坪)		(建坪拾貳坪)		(建坪百四拾三坪)	
同		同		二階建患者室	
梁桁	間行	梁桁	間行	梁桁	間行
貳間	五合	貳間	五合	三拾間	七間
(建坪貳坪五合)		(建坪貳坪五合)		(建坪貳百拾坪)	
合計建坪百五拾七坪五合		二階建倉庫		平家建解剖所	
		梁桁	間行	梁桁	間行
		四間	三間	八角	一口
		(建坪拾貳坪)		(建坪拾貳坪三合)	
		平家廊下		拾桁	間行
		拾間		拾間	
		壹ヶ所		壹ヶ所	
		(廁屋を含めて、 建坪貳拾壹坪三合)		梁桁	間行
		三間		三間	
		壹ヶ所		壹間	
		同		同	
		廁屋		廁屋	
		壹棟		壹棟	
		梁桁		梁桁	
		間行		間行	
		五間		五間	
		六合六勺		六合六勺	

図5 県立長崎病院と長崎医学校の明治18年頃の建物配置図



明治初期の長崎医学校・病院概況

時に建造物の興廃と戦時仮病院指定二回の経験

青木義典

— 42 —

地図は、長崎市全図(明治40年)長崎市役所(市博)

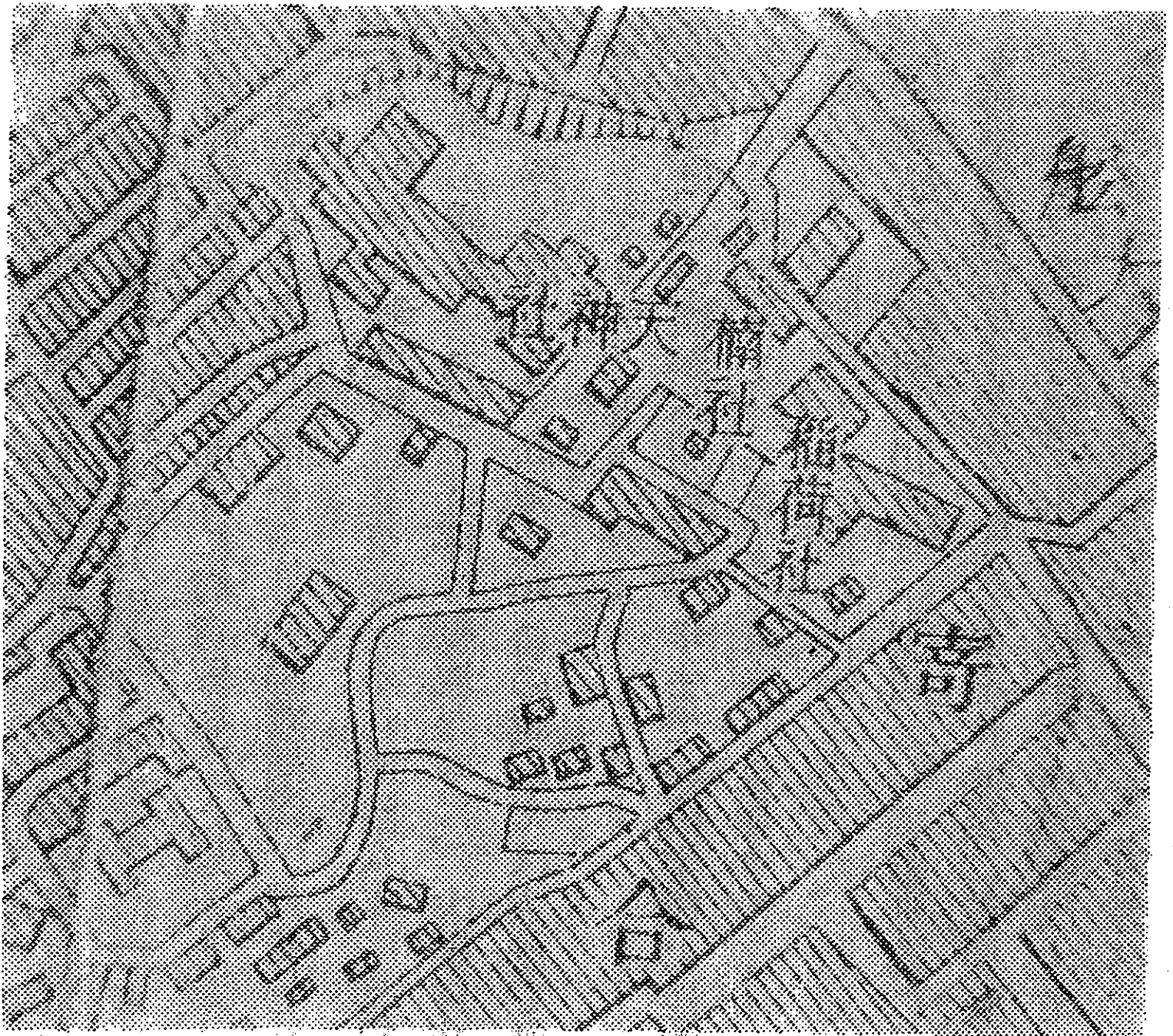


図1 地図(13)佐古地区拡大。上方はいわゆる大徳寺の地、その左上は県立長崎病院跡。中央左半は医学校跡で、残る建物中最大のものはかつての分析究理所、佐古小学校の開校式と新校舎成るまでの授業がここなどで行われた。他の建物中左の二つは元教場の一つと講堂。左下地図の折目にあたる下の一郭は県立小島病院で、ここが養生所跡地である。



長崎市主要部地圖

大正十年二月二十六日
長崎要塞司令部許可

招魂社



稻

新立小島病虎

佐野小島神社

島本大徳園

大徳

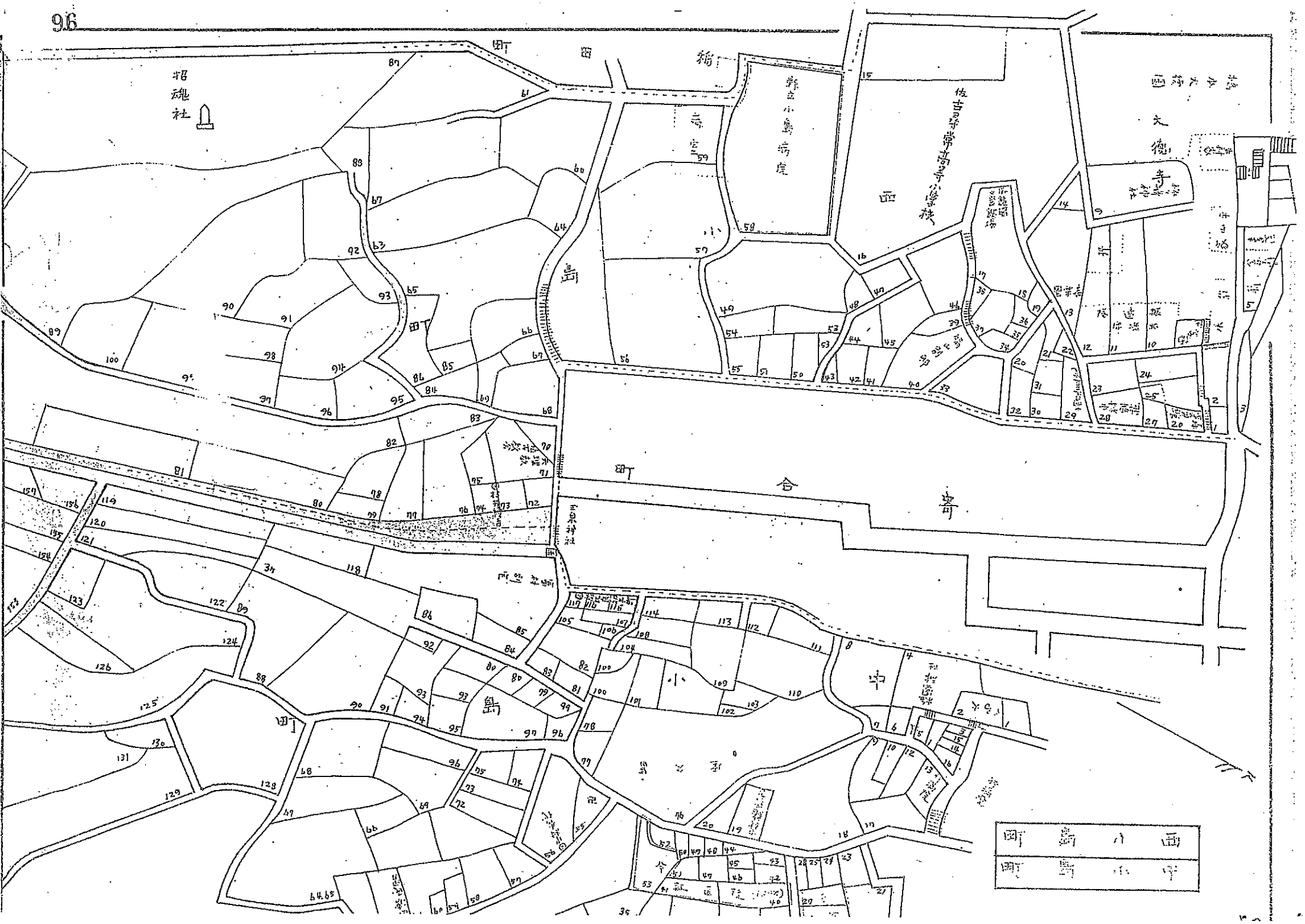
寺

合

寄

中

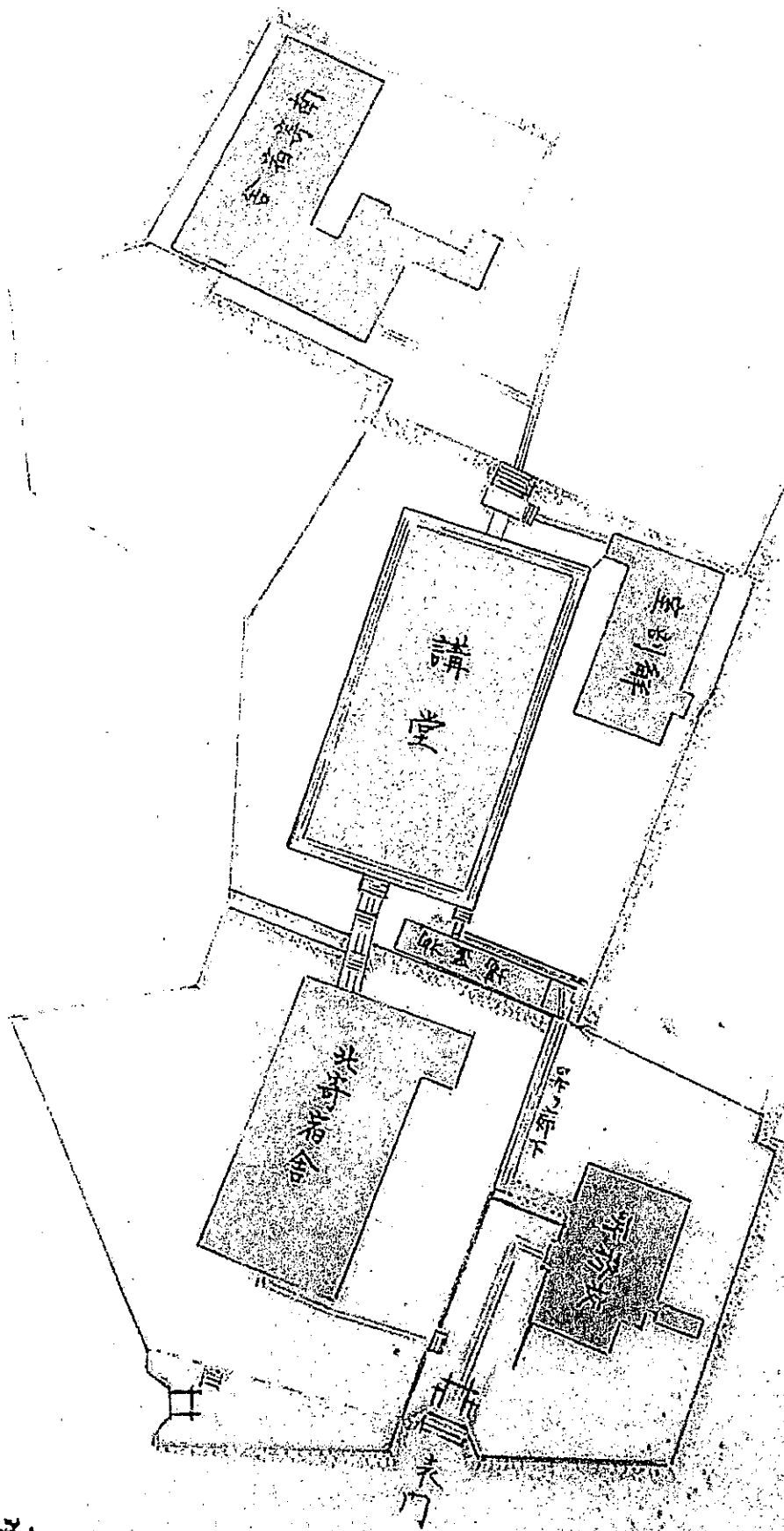
西小島町
中島町



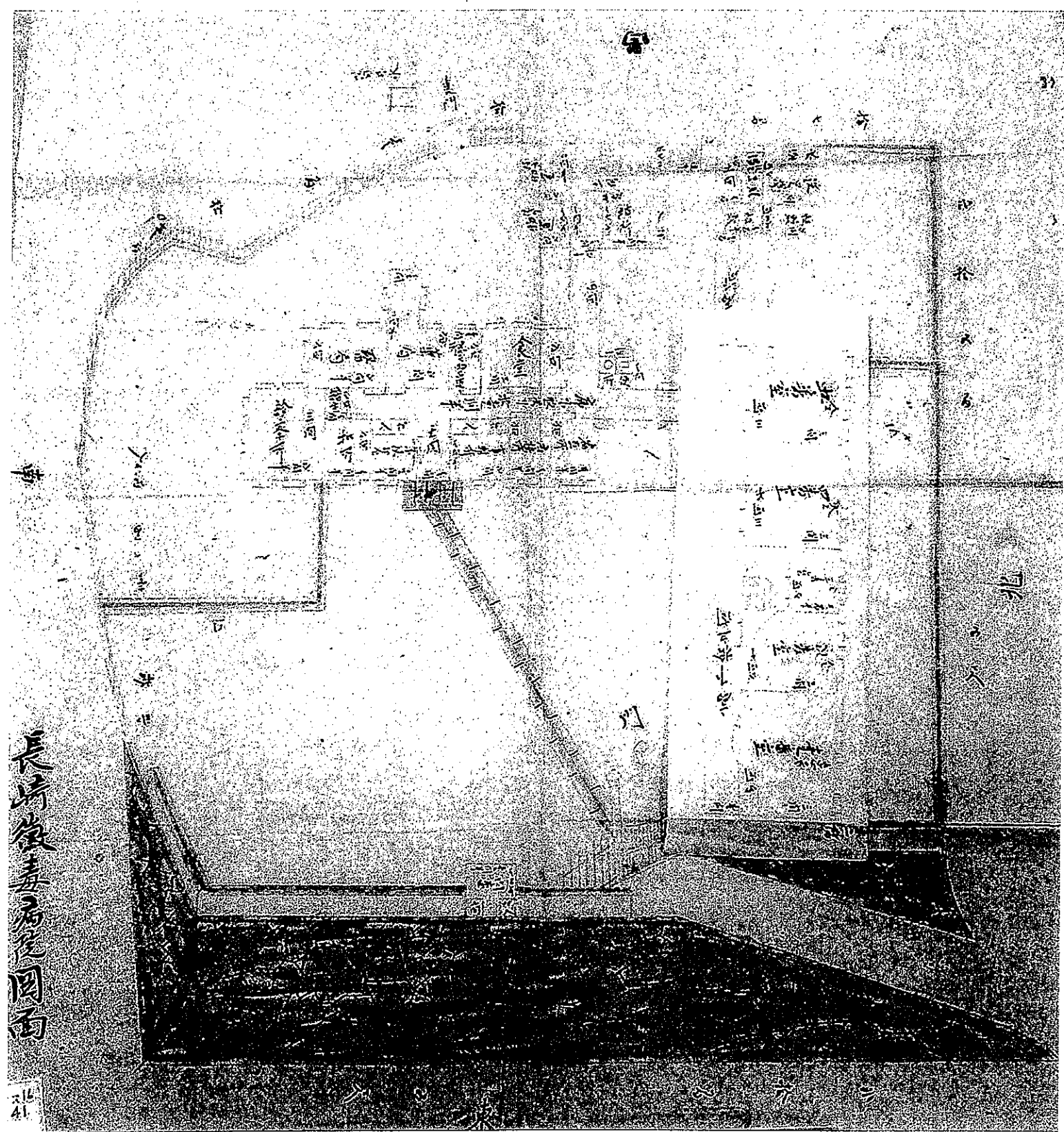
校垣
土塼
石垣
走家

第

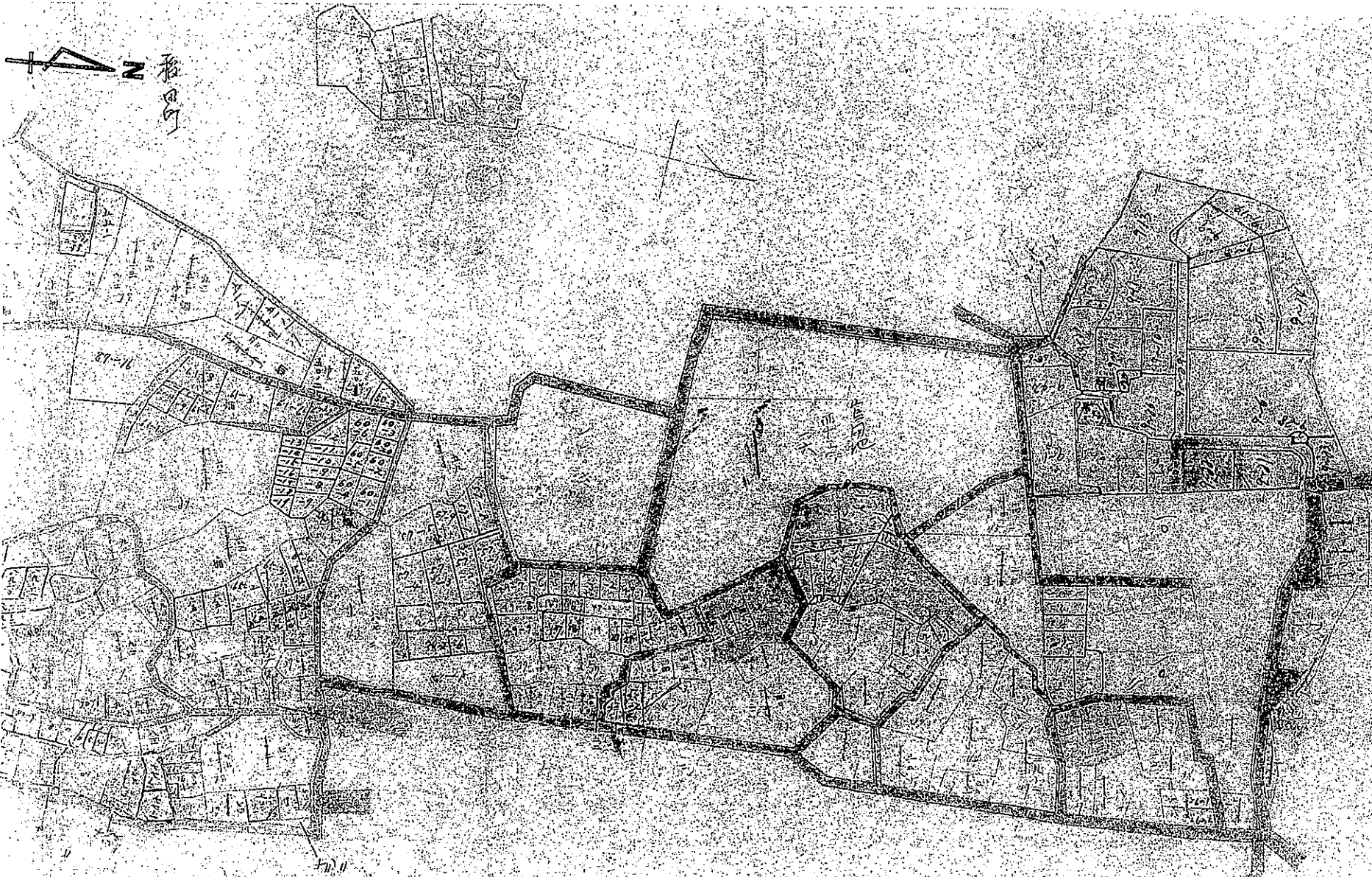
醫學校境内全圖



北



長壽縣城圖面



代
表
不
明

昭和27.7.6
41-1 土地調査
41-2 土地調査
保

